

人と社会を支える
「ずっと。」



溪仁会グループCSRレポート

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

2014

ik 溪仁会グループ

医療法人 溪仁会 社会福祉法人 溪仁会

株式会社ソーシャル 株式会社ハーティワークス 医療法人 稲生会



【シンボルマークについて】

溪仁会の頭文字であるKをモチーフに、
当グループの理念を表現しています。
その形状は人と人の支え合いに基づいた「安心感と満足の提供」、
勢いよく真っ直ぐに立ち上がるさまは「変革の精神」を表しています。
ブルーのカラーリングは、「プロフェッショナル・マインド」および
「信頼の確立」をひたむきに追求する、誠実さをイメージしています。

人にやさしい組織をめざして

溪仁会グループは、
医療・保健・福祉を担う者の責任としてCSR活動を推進しています。
さまざまな活動を通してめざしているのは、「人にやさしい組織」であること。
「絆」や「気づき」「共感」を大切にしながら、
誰にとっても誠実で、温かなコミュニケーションと
思いやりのある組織風土の実現に取り組んでいます。
本レポートでは、そうした当グループのCSR活動をご紹介します。
具体的な取り組みをわかりやすく示すことで、
私たちがめざす「人にやさしい組織」の姿をお伝えたいと考えています。

溪仁会グループ CSRレポート 2014

CORPORATE
SOCIAL RESPONSIBILITY
REPORT



編集方針

溪仁会グループは、2006年から「CSRレポート」(CSR=Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を発行し、当グループの取り組みや考え方をお伝えしています。
2014年版では、昨年に続きコーポレートスローガンである「ずーっと。」を軸とした企画構成としました。編集にあたっては当グループの活動やその背後の社会的使命・事業理念・ミッションを、職員の声を通し「人」にクローズアップして表現しました。ステークホルダーの方々にもご協力いただき客観性が高まるように努めています。
第三者意見では、CSR分野に詳しい駿河台大学経済経営学部・同大学院総合政策研究科教授 日本経営倫理学会副会長・博士(経営学)の水尾順一氏をお願いいたしました。ご協力いただいた皆さまの声は、当グループの今後の事業のあり方や活動内容の検証に役立て、CSR活動の新たな展望につなげたいと考えています。

報告の範囲

当グループの2013年度(2013年4月～2014年3月)の活動やデータを中心に、2012年度以前や2014年度以降の活動情報も記載しています。

バックナンバーについて

「CSRレポート」のバックナンバーおよび各病院・施設・事業の実績データを収載した「年次報告書」は、当グループのWebサイト上で公開しております。 URL <http://www.keijinkai.com>

次回発行について

次回CSRレポートは、2015年11月を予定しています。

●発行

医療法人溪仁会 法人本部 2014年11月

●お問い合わせ先

医療法人溪仁会 法人本部 広報室
〒006-0811
札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号
溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501
E-mail editor0110@keijinkai.or.jp

C O N T E N T S

溪仁会グループのシームレスサービス	P04
溪仁会グループの社会的使命	P06
溪仁会グループの事業理念	P07
コーポレートスローガン 「ずーっと。」人と社会を支える の意味	P08

活 動 報 告

ずーっと。[basis] 質の高い先端医療を実現し続ける「ずーっと。」	P09
ずーっと。[I] 皆さまを生涯にわたって見守り続ける「ずーっと。」	P15
ずーっと。[II] 医療・保健・福祉を途切れることなく提供する「ずーっと。」	P23
ずーっと。[III] 地域の医療・保健・福祉を支えるネットワークの「ずーっと。」	P31
ずーっと。[IV] いつまでも皆さまの近くに存在し続ける「ずーっと。」	P39
職 員 紹 介 それは一人ひとりが輝いてこそ。仕事のやりがい・パワーの源	P46

溪仁会グループChronicle 社会的責任35年の歩み	P50
データで見る溪仁会グループ	P54

溪仁会グループ施設運営概要

医療法人 溪仁会	手稲溪仁会医療センター	P58
	手稲溪仁会病院／手稲溪仁会クリニック	P59
	手稲溪仁会医療センター・Tプロジェクト	P60
	手稲家庭医療クリニック	P61
	札幌西円山病院	P62
	定山溪病院	P63
社会福祉 法人 溪仁会	溪仁会円山クリニック	P64
	泊村立茅沼診療所／喜茂別町立クリニック	P65
	西円山敬樹園	P66
	きもべつ喜らめきの郷／るすつ銀河の杜	P67
	岩内コミュニティの丘(コミュニティホーム岩内／岩内ふれ愛の郷)	P68
	月寒あさがおの郷／菊水こまちの郷	P69
	手稲つむぎの杜	P70
	コミュニティホーム(白石／八雲／美唄)	P71
	カームヒル西円山／美瑛市東地区生活支援センターすまいる	P72
	ハーティケアセンター(青葉／豊平／円山／新琴似／手稲溪仁会)	P73
関連 会社等	医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ	P74
	株式会社ハーティワークス／株式会社ソーシャル／溪仁会健康保険組合	P75

TOP MESSAGE 溪仁会グループが社会的責任を果たすために	P76
第三者意見	P78
医療・保健・福祉サービスの用語集	P79
溪仁会グループ施設一覧	P82

医療・保健・福祉をつなぎ合わせながら、あらゆるケアを途切れることなく提供しています。

私たち溪仁会グループは、1979年の創立以来、地域の皆さまの医療・保健・福祉をサポートしてまいりました。札幌市を中心に、医療法人、社会福祉法人、ヘルパーサービス、福祉用具サービス会社などを運営し、医療・保健・福祉を相互に連携させながら、生涯にわたって求められるあらゆるサービスを提供しています。

※各病院、施設、事業所等については、P82-83のグループ施設一覧に記載していますのでご参照ください。

治療とケア

乳幼児からご高齢者まで、最新医療技術と機器を備え、総合医療を提供しています。

- 手稲溪仁会病院(手稲区)
- 手稲溪仁会クリニック(手稲区)
- 手稲家庭医療クリニック(手稲区)

保 健

病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。

- 溪仁会円山クリニック(中央区)

地域医療支援

公立診療所の指定管理者として、地域の医療を支えています。

- 泊村立茅沼診療所(泊村)
- 喜茂別町立クリニック(喜茂別町)

溪仁会グループの
地域の皆さまの生涯にわたる

シームレスサービス
ニーズに応え、支援を行います。

介護・社会復帰・生活支援 [入居支援]

住み慣れた家庭や地域で生活できるよう、介護・福祉のサービスを提供しています。

- 特別養護老人ホーム
 - ・西円山敬樹園(中央区)
 - ・月寒あさがおの郷(豊平区)
 - ・菊水こまの郷(白石区)
 - ・岩内ふれ愛の郷(岩内町)
 - ・きもべつ喜らめきの郷(喜茂別町)
 - ・るすつ銀河の杜(留寿都村)
 - ・手稲つむぎの杜(手稲区)
- 介護老人保健施設
 - ・コミュニティホーム(白石区/八雲町/美幌市/岩内町)
- ケアハウス(軽費老人ホーム)
 - ・カームヒル西円山(中央区)

介護予防・生活支援・ 通所介護 [在宅支援]

病気や障がい等で介護が必要な方に、専門のスタッフが日常生活をサポートいたします。

- デイサービス(手稲区/中央区/豊平区/厚別区/白石区/北区/岩内町/美幌市/気仙沼市)
- ヘルパーステーション(中央区/白石区/西区/美幌市/八雲町/喜茂別町/気仙沼市)
- 訪問看護ステーション(手稲区/厚別区/岩内町/気仙沼市)
- 福祉用具のレンタル・販売

療養とケア

看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。

- 札幌西円山病院(中央区)
- 定山溪病院(南区)



溪仁会グループの 社会的使命

「ずーっと。」 人と社会を支える

私たち溪仁会グループは、
社会的責任（CSR）経営を推進します。
高い志と卓越した医療・保健・福祉サービスにより、
「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
「地域社会の継続的な安心」を支えます。

2014年10月1日制定

溪仁会グループの 事業理念

安心感と満足の提供
Offering a Sense of Security and Satisfaction

信頼の確立
Building the Foundations of Trust

プロフェッショナル
マインドの追求
Attaining a Professional Mind

変革の精神
Developing the Spirit of Change

グループ経営の基本となる理念の策定

～2014年10月1日、「溪仁会グループの社会的使命」を制定しました

私たち溪仁会グループは、「ずーっと。」を合言葉にCSR経営を推進してきました。この「ずーっと。」を具体的な理念として規定し、社会的責任をグループ全体で約束し、実現していくために、2014年10月1日に「溪仁会グループの社会的使命」を制定しました。医療・保健・福祉のサービスの質（公益性）を「人」、経営の質（継続性）を「社会」という言葉で表現しています。

「溪仁会グループの社会的使命」は、事業理念やサービス憲章の上位概念として、経営の根幹を成す概念となるものです。また、KMS（溪仁会マネジメントシステム、P42参照）は、私たちの活動全体を支え、CSR経営を確かなものにする取り組みとして位置づけています。

溪仁会
グループの
理念体系図



コーポレートスローガン

「ずーっと。」

人と社会を支える

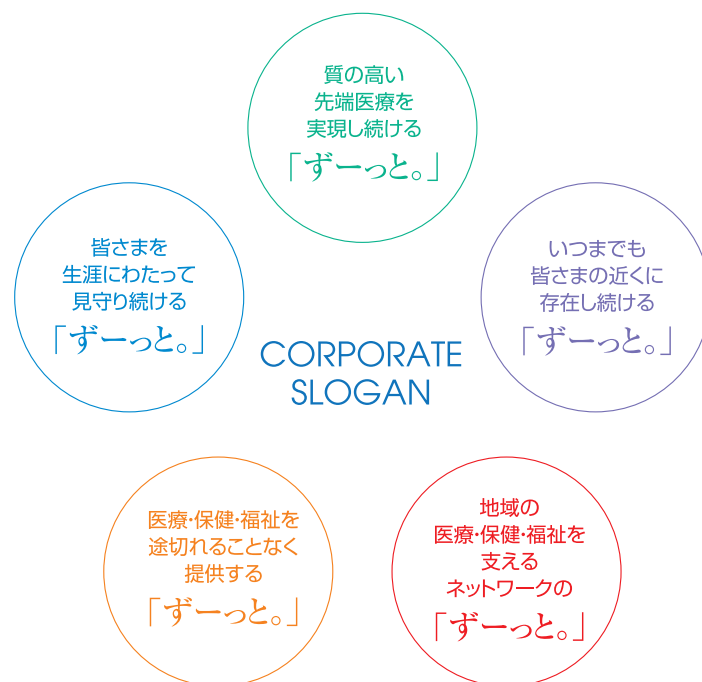
の 意 味



溪仁会グループは、地域の医療・保健・福祉を支えることを使命に、皆さまの生活に寄り添い続けてきました。「ずーっと。」を組織の共通スローガンとして掲げ、社会からのニーズに応えるための取り組みを追求しています。

この「ずーっと。」には、たくさんの思いや決意が込められています。先端医療に挑み、質の高い医療を実現しようとする情熱。誕生から人生の終末期まで、皆さまの一生を見守り続ける覚悟。切れ目や隙間のない医療・保健・福祉サービスを提供する責任。広い地域をつなぐ医療・保健・福祉のネットワークを支える意志。信頼される組織として、いつまでも存在し続ける義務。

こうした使命を果たし、皆さまに安心と満足をお約束することが、当グループの存在意義であると考えています。住み慣れた地域で、誰もが生き生きと暮らし続けられる未来のために、溪仁会グループはいつまでも、皆さまのそばに寄り添い続けます。



活動報告
ずーっと。
【basis】

質の高い先端医療を 実現し続ける 「ずーっと。」

溪仁会グループのあらゆる活動の根底となっているのが、
皆さまの生命や健康を守り、支えるという使命です。

手稲溪仁会病院はそのフラッグシップとして

最先端の技術に挑み、質の高い急性期医療を提供しています。

常に進化し続ける手稲溪仁会病院の取り組みをご紹介します。



ITを活用した情報ネットワークで 小児救急の搬送体制を強化

「重篤な小児救急患者地域連携情報ネットワークシステム」の取り組み

小児科

小児救急の情報ネットワークの構築

2011年11月に策定された「道央圏地域医療再生計画」において、手稲溪仁会病院が「小児救急医療体制強化事業」の実施施設に指定されました。かねてから北海道では、重篤な小児救急に対する救命救急医療体制の整備が不十分であったことから、二次医療圏内（複数の市町村からなる中域の医療圏）での受療率の向上が急務とされてきました。この指定を受けて同病院は小児の3次救急を担う医療機関の応需情報の把握や患者さまの紹介を迅速に行うためのITネットワークシステムの整備をはじめ、道央圏における小児救命救急医療体制の強化に乗り出しました。

同病院の小児科では、全道でも数少ない小児循環器医療への取り組みや小児救急への対応、小児在宅医療へのサポートなど、かねてから小児医療の充実に努めてきました。そうした実績が認められたことによる同事業への指定でした。

重篤な小児患者さまを地域の基幹病院に搬送し、早期治療を行うための情報ネットワークシステムは2012年8月に構築され、道央圏の救命救急センターを対象に運用を開始。北海道の地理的な不利さや、特に地方部で手薄になりがちな小児救命救急医療への対応策として期待されています。今後は道央圏での導入状況を踏まえ、将来的には全道に広げていくことも考えています。

小児科の強みは、重症な小児患者さまの受け入れ体制。小児救急診療に対応し、充実した治療を提供している



より高度な小児医療体制を築く

このシステムの周知・推進を担当している田村卓也医師は「本システムは小児救急に対応している3次救急医療機関の空床状況を随時確認することができます。迅速な搬送の実現は当然ですが、これまでは個々の病院間の連携で行われてきた小児患者さまへの対応が、本システムによって、小児救急にかかわる医療機関全体の協力体制のもとで行われるようになることのメリットが大きい」と話します。

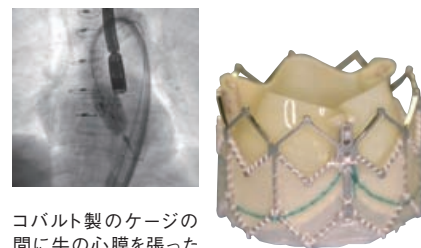
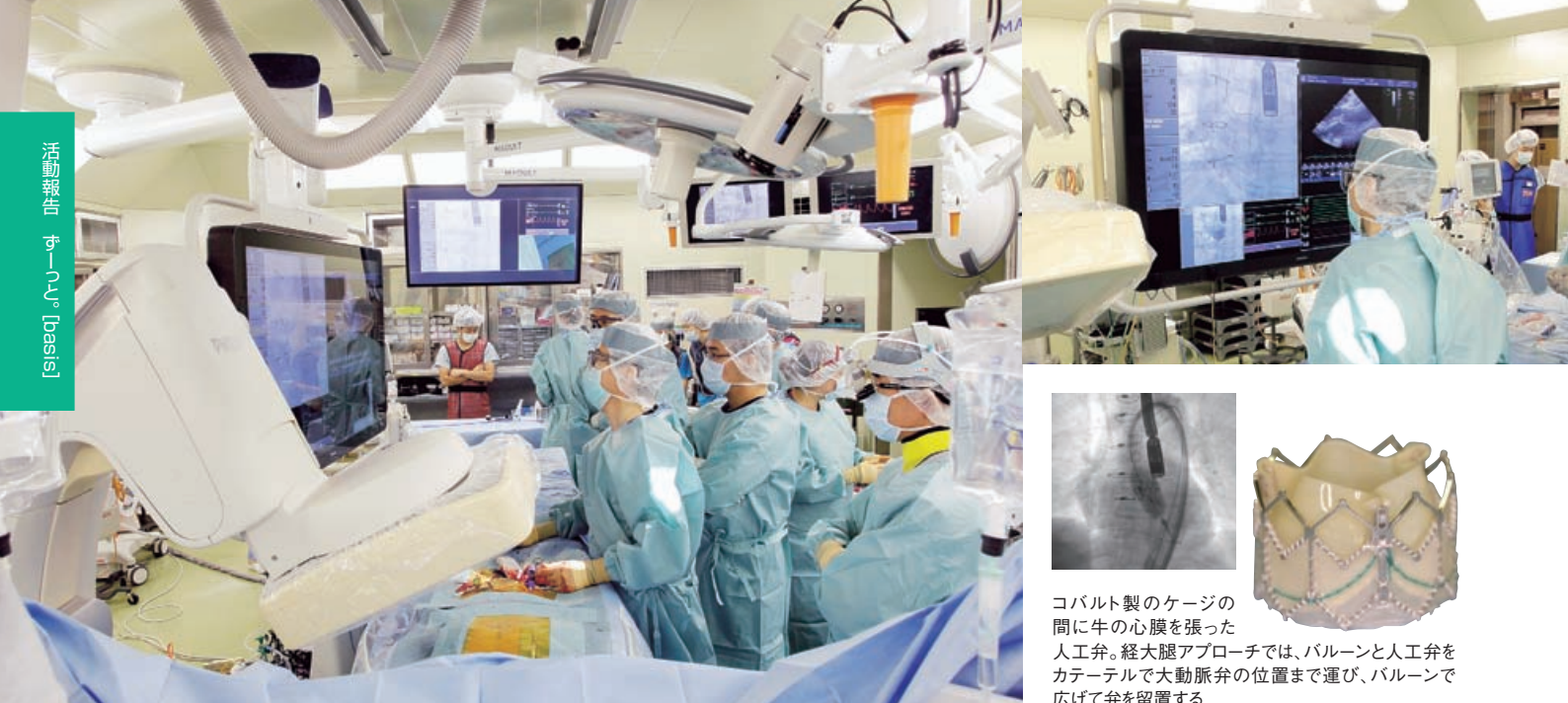
これからの目標は、いかに運用実績を積み重ねていくか。重篤な小児患者さまの発生件数自体が限られる中で、積極的なニーズの掘り起こしを行う必要があります。田村医師は「本システムを紹介すると、興味を持たれる病院も多い。丁寧に説明をしながら有用性を訴えていきたい」と語ります。

同病院ではこうした活動を背景に、小児医療の質をさらに向上させる体制づくりに努めています。すでに2010年にNICU（新生児特定集中治療室）を開設し、疾患を持つ新生児を受け入れてきましたが、重症な小児患者さまへの対応についても、より高度な医療環境の整備に向けて検討を重ねていく予定です。

「当病院の小児科の強みは、重症な小児患者さまへの充実した集中治療体制。小児医療において当病院がほかの病院をリードできる存在になることが目標です」と展望を語る田村医師。北海道における重篤な小児医療のモデルとなるべく、小児科の取り組みは続きます。



3床あるNICUも常にニーズが高い



コバルト製のケージの間に牛の心臓を張った人工弁。経大腿アプローチでは、バルーンと人工弁をカテーテルで大動脈弁の位置まで運び、バルーンで広げて弁を留置する

心臓の大動脈弁を開胸せずに置き換えが可能に

経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）

ハートチーム

6月に道内初のTAVIを実施

心臓の左心室と大動脈の間にある大動脈弁の動きが悪くなり、血液が循環しにくくなる大動脈弁狭窄症。胸痛や失神、息切れといった症状を伴い、進行すれば心不全を繰り返す危険な状態となります。重症の場合、標準の治療は外科的な開胸手術で人工弁に置き換える方法（置換術）ですが、高齢や合併症のリスクなどで外科的治療を受けられないケースが多くあります。薬物治療では根治せず、手術が受けられない患者さまは生命が脅かされています。

外科的人工弁置換術ができない、またはハイリスクの患者さまに有効な、体に負担の少ない治療法がTAVI（Transcatheter Aortic Valve Implantation）です。カテーテルを使って動脈内から生体弁を装着する方法で、日本では2013年10月に保険適用となりました。そけい部の大腿動脈から生体弁を挿入する経大腿アプローチと、左胸（第5～6肋間）を少し切開し、心尖部（心臓の先端の尖った部分）から直接生体弁を入れる経心尖アプローチの2種類が実施されています。手稲溪仁会病院では今年6月12日、廣上貢循環器内科部長を中心としたハートチームが、北海道第1例のTAVI（経大腿アプローチ）を行い、成功を収めました。

適応を精査し安全性を確保する

TAVIの実施には、冠動脈形成術（PCI）年間100例以上などの手術実績や、ハイブリッド手術室設置などの基準を満たし施設認定を受ける必要があり、同病院は5月13日付で取得しました。ハートチームは研修や検討会、実施施設見学やシミュレーショントレーニングへの参加などの準備を積み重ねて手術に当た

りました。

特に重症な大動脈弁狭窄症を対象とするTAVIには合併症のリスクがあり、普及が進んだ欧米では術後5～10%の死亡率が報告されていますが「日本では症例500例※を超えて死亡率は1%以下。適応する症例がどうかしっかり検討し見極めることが安全につながっています。術後は『体の調子が元に戻り、寝る時にもつらい苦しさなくなった』と患者さまに喜ばれ、劇的な効果を感じています」と廣上貢循環器内科部長は説明します。TAVIには経験豊富な欧州の医師に適応の判定を依頼するシステムもありますが、手稲溪仁会病院では、循環器内科の症例検討会の後、ハートチームでも再度検討。患者さまの状態やリスクを全員で把握し安全性を高めて手術に臨みます。



手稲溪仁会病院
循環器内科部長
廣上 貢

7月には経心尖アプローチの症例も実施し、今後は月3～4例ずつの実施を見込んでいます。さらに地域の開業医を加えた研究会の開催や、道内の学会での発表によりTAVIの認知を広め、より多くの患者さまを重症大動脈弁狭窄症から救うことをめざしています。

※2014年6月末現在



ハートチームによる症例検討会。廣上循環器内科部長ら循環器内科医と心臓外科医をコアメンバーに、麻酔科医、放射線技師、看護師など多職種が集まっている

脳動脈瘤の破裂を未然に防ぐ脳神経血管内治療

マイクロカテーテルによる低侵襲な治療法の確立

脳神経外科

体への負担が少ないのが最大の利点

くも膜下出血や脳梗塞などに代表される脳血管障害は、がんや心疾患、肺炎に続いて、4番目に多い日本人の死亡原因となっています。一命を取り留めても、重い障がいが残るケースが多く、発症や重症化を未然に食い止めることが鍵になります。従来は、頭部を切開して血管の病変部を治療するのが一般的でしたが、近年はカテーテルという細い管を血管内に通して病変部にアプローチする、脳神経血管内治療という技術が確立されてきました。

手稲溪仁会病院脳神経外科では、この脳神経血管内治療を1997年から導入し、多い年で7、80件ほどの治療を行ってきました。道内ではまだ少ない日本脳神経血管内治療学会専門医であり、同治療のエキスパートである内田和希医師は「最大のメリットは、患者さまの身体的負担が少ないこと。退院されるまでの日数もかなり短くなり、高齢の方や他の疾患などで全身麻酔が難しい方にも適用できる」とその効果を説明します。例えば、動脈瘤の場合、外科手術だと平均して7～10日間程度の入院が必要ですが、同治療であれば2、3日で退院することも可能になります。

技術の向上で可能性が広がる

同治療の対象となるのは、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤のほか、頸動脈狭窄症や超急性期の脳梗塞など。発症を未然に防ぐ予防的な治療も多く、同科では最適な治療方法を提案しています。「高度な機器を使う治療は、日々、技術が進歩しています。私たちも常に新しい情報をキャッチして、技術の研鑽に

努め、患者さまにより良い治療法を提供したいと考えています」

同治療では足の付け根の動脈からカテーテルを挿入し、病変部近くの血管まで進めてから、それぞれの症状に合わせた処置を行います。脳動脈瘤であれば、カテーテルを通して血管にできたこぶの中に細いコイルを挿入し、内部を埋めて破裂を防ぎます。頸動脈狭窄症は、頸動脈に動脈硬化が起こることで血管が細くなります。脳への血液が滞ることや、血栓などが脳梗塞を引き起こすのを防ぐために、小さな風船のついたバルーンカテーテルで狭窄部を広げ、ステントという網目状の筒を狭窄部分に留置して血流を確保します。

内田医師が「最も劇的な効果を生む可能性がある」と話すのが、超急性期の脳梗塞に対する治療です。発症からの時間が短く、まだ脳組織が完全に脳梗塞に陥っていない場合、tPAという血栓を溶かす薬を静脈注射します。しかし、血流の再開通が得られない場合、カテーテルを用いて血栓を吸い取って除去する技術も開発されており、今年の7月にはステントを用いた、より早く確実に

血栓を回収できる機器が認可されました。

「低侵襲な脳神経血管内治療は、これからさらに広がっていくはず」と内田医師。従来は大きさや形状によって治療が難しかった脳動脈瘤も、技術が進むことで対応できるようになる可能性があります。同科ではこの治療法の認知度をさらに高め、実績を伸ばすことを目標にしています。



手稲溪仁会病院
脳神経外科 主任医長
内田 和希

体への負担が少ない治療ができ、高齢者や開頭手術が難しい患者さまにも対応するため、これから症例が増えと予想されている

脳神経外科では、術後の早い回復と技術の向上をめざし、内田医師を中心に、低侵襲な脳神経血管内治療に取り組んでいる



切開を最小限に留めて 脊椎の手術を行う

最小侵襲脊椎安定術 (MIST)

整形外科 脊椎脊髄センター

分野を超えたセンターを開設

脊椎は体幹の支持器および運動器であり、その中を通る脊髄は脳とともに中枢神経を構成します。そのため脊椎・脊髄の疾患は、整形外科と脳神経外科の双方の領域にかかわります。手稲溪仁会病院整形外科では、2012年度に脊椎脊髄センターを設立。脳神経外科医で脊髄外科学会指導医の青山剛脊椎脊髄センター長と、整形外科医で脊椎脊髄病学会指導医の小原由史主任医長が1つの診療科内で診療を行う体制を作りました。「脊椎・脊髄の治療において2つの科の違いはなくなってきており、学会でも『脊椎脊髄外科』という考え方が広がり交流が進んでいます。最先端の治療を行うためには専門化が必要なのです」と青山センター長は説明します。

手術で作る傷を減らせるMIST

脊椎手術の大きなテーマの1つが、手術が体に与えるダメージを減らすことです。脊椎を治療するには皮膚を切開し、覆う筋肉をはがして患部にたどり着かなければなりません。これまでは治療するのが一椎間(2つの椎骨の間)であっても、その幅の2倍以上大きく皮膚や筋肉を切開しなければならず、患者さまには大きな負担がかかっていました。近年普及が進んでいるMIST(Minimally Invasive Spine Stabilization)は、X線での透視を組み合わせて切開を小さく数力所のみに留める方法です。手稲溪仁会病院では

椎骨の椎弓根にニードルを打ってガイドワイヤーを入れ、そのガイドを使って椎骨を固定するためのスクリューを挿入していく。ワイヤーは非常に細く、周囲の血管や神経、臓器を傷つける事故もあるため、X線の透視映像を見ながら慎重に入っていく



2013年から導入し、狭くなった脊柱管を広げ神経の圧迫を除く除圧治療、不安定な脊椎をスクリューで固定する固定術の双方に適用します。脊椎の変性疾患を中心に、従来は切開することで感染が広がるリスクがあった脊椎炎の治療にも手術が可能になります。

しかし課題もあります。「現在は透視をX線透視装置1台で行っていますが、MISTは正面と側面の撮影が必要な手術のため時間がかかります。同時にできれば精度は上がります」。患者さまの負担や被ばく量を減らすのに手術の時間短縮は必須で、それには2台目の透視装置や専用手術台など設備面の強化、コメディカルの経験の蓄積も必要となります。センターの診療機能強化の第一歩として、脊椎を学ぶ医師を集めるため学会指導施設となることを見据えます。症例数などの施設基準を満たす診療活動に加え、学術活動にも力を入れ、脊椎脊髄センターの発展をめざします。



手稲溪仁会病院
整形外科
脊椎脊髄センター長
青山 剛

3つの椎骨にガイドワイヤーを入れるためのニードルを挿入したところ。X線透視の角度を変えながら、最良の角度を決めていく





da Vinci Sは外部のトレーニング施設で訓練を受けた医師だけが操作できる。胸部・一般外科では、縦隔腫瘍の手術に道内で初めてda Vinci Sを導入した

病変部をしっかりと見ることができる開胸手術と、患者さまの身体への負担が少ない胸腔鏡手術の長所を兼ね備えているのがda Vinci Sの特長

縦隔腫瘍における手術支援ロボット活用のメリット

縦隔腫瘍手術への「da Vinci S」の導入

胸部・一般外科

体への負担の軽減と根治性を実現

近年は患者さまの体への負担が少ない、低侵襲な術式の開発が進められています。そうした新しい技術の代表とされるのが手術支援ロボット「da Vinci S」です。手稲溪仁会病院は2011年8月に、北海道で初めてda Vinci Sを導入。主に泌尿器科の前立腺がん摘出手術などに使用し、大きな効果を上げてきました。こうした実績から、胸部・一般外科でもda Vinci Sを積極的に活用する取り組みが始まっています。

同科では2012年11月から、縦隔腫瘍や肺がんなどを対象にda Vinci Sによる手術を実施。特に注目されるのが、まだ全国的にも数が少ない縦隔腫瘍への使用です。縦隔とは左右の肺に挟まれた胸部のことで、心臓や食道、気管、胸腺、リンパ節など、多様な臓器が含まれます。縦隔腫瘍は心臓や食道、気管支などを除いた部分にできる腫瘍で、胸腺腫（胸腺上皮細胞にできる腫瘍）、神経原性腫瘍（神経から発生する腫瘍）などが代表的です。これに加え、さらに同科では、重症筋無力症（神経からの伝達

が筋肉に伝わりにくくなる疾患）もda Vinci Sの適用対象にしています。

手術を担当する加藤弘明医師は「da Vinci Sの最大の特長は手術の傷が小さく、術後の痛みも少ないため、患者さまが早期に社会復帰できること。また、再発も少ないとされており、根治性の高さも期待できます」と説明します。医師にとっても、通常の胸腔鏡手

術とは異なり、胸腔内を3D画像、かつ拡大視で見ながら操作できるため、視界が鮮明で、病変部を確実に取り除けることがメリットになっています。最近はこの優れた機能への認知度が高まり、da Vinci Sでの手術を希望する患者さまも増えています。

保険適用を視野に、有用性を検証

効果が高いとされるda Vinci Sの縦隔腫瘍手術への使用ですが、最先端医療のため健康保険診療が認められていないことが、普及の障壁になっています。患者さまの経済的な負担が大きく、実施数がなかなか伸びないことが悩みです。これを解消しようと、手稲溪仁会病院では患者さまの経済的負担を軽減するための支援を行い、導入促進に努めています。「縦隔腫瘍へのda Vinci Sの導入は新しく、これから伸びていく分野。全国でもまだ症例が少ないため、実施数を増やしてその有用性を検証していく必要があります。また、若い女性に多い重症筋無力症にも、da Vinci Sによる手術は大変メリットがあります。早期の保険適用をめざし、実績を上げていくことが目標です」と加藤医師は語ります。

手術の精度を高めるには、正確な技術の習得や研鑽が必要です。da Vinci Sは専門のトレーニングを受けた医師だけが操作を許されます。現在、胸部・一般外科では加藤医師を含め2名の医師が操作を担当していますが、将来的には対応できる医師の数を増やすことも視野に入れます。

北海道の先進医療をリードする存在として、同科ではda Vinci Sの使用拡大を図り、多くの患者さまに最適な医療を提供できる日を、一日も早く実現することをめざしています。



手稲溪仁会病院
胸部・一般外科 部長
加藤 弘明

活動報告
ずーっと。[I]

皆さまを生涯にわたって 見守り続ける 「ずーっと。」

生命が誕生する瞬間から終わりを迎えるときまで、
溪仁会グループは確かな医療サービスと細やかなケアで
皆さまの生活と深くかかわり合い、支えています。
刻々と変化する社会ニーズにも対応しながら、
いつまでも健やかに暮らしていただけるようにサポートします。



命に寄り添う
Human Story!
手稲溪仁会病院
副院長・地域連携福祉センター長
成田 吉明

地域の命と医療を守る中核病院として 未来に続く医療モデルを描く。

成田吉明副院長が手稲溪仁会病院に入職したのは1997年。当時は開院してまだ10年だったこともあり、「新しい病院」という印象しかなかったと振り返ります。その後、同病院が急速に成長、進化していく中で、成田副院長は胸部・一般外科の医師として、乳がんや肺がんなどの症例数を増やすことを目標に、実績を積み重ねていきました。「年齢的に働き盛りの医師が多く、実績は右肩上がりでした。現在の質の高い医療体制や外部からの評価は、そのときのスタッフたちの努力によって築かれたものだと思います」

ひたすら外科医としての道を極めようとする中、ターニングポイントになったのが副院長への就任でした。まだ臨床に専念したいという思いも強く、とまどい、考え抜いた末に引き受けることを決断しました。「臨床しか知らず、マネジメントのことも、溪仁会グループが取り組むCSRのことも、理解していませんでした。まずは調べることからスタートでした」。現在は執刀を担当する一方で、膨大なマネジメントの職務にも対応する日々。

「両立は想像以上に大変。患者さまと向き合える臨床の方がずっと楽しい」と笑います。

もう一つ、成田副院長にとって大きなテーマになっているのが、「地域医療支援病院」としての取り組みです。手稲溪仁会病院は2012年10月に地域医療支援病院の承認を受け、医療機関の役割分担や連携の推進、地域の医療機関への医療支援などを担うことになりました。成田副院長は地域連携福祉センター長として、周辺への啓発活動や院内の体制強化などを主導しています。継続的な働きかけが功を奏し、患者さまや連携医療機関からの理解は深まってきましたが、周知活動を含め、まだまだやるべきことがあると言います。

「理想は断らない病院。社会からの信頼に応えるために、ハード・ソフト両面の充実に取り組みたい」。その目は基幹病院としての使命の先にある、医療の未来を捉えています。

手稲溪仁会病院の消化器病センターは消化器内科と消化器外科により構成され、1997年の開設以来、日本屈指の高度な医療体制を築いてきました。そのうち消化器内科では、現在放射線科医2名を含めた26名の医師が消化管、胆・膵、肝臓の3グループに分かれて、充実した専門医療を提供しています。

高橋邦幸主任医長は胆・膵疾患を専門に、超音波内視鏡検査やERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）検査、膵胆道がんの手術前検査や胆管狭窄に対するステント治療などを担当。また、膵胆道がんの患者さまへの抗がん剤治療など、QOL（P79参照）を重視しながら高度な医療を行っています。「大切にしているのは、患者さまのポリシーや考え方を尊重すること。じっくりと話を聞いて、希望に沿った治療方針を立てるようにしています。その方にとって何がベストかを思い悩むこともあります。そんなときは自分の家族だったらどうするかを考える」と言います。

最先端の消化器医療をめざしながら 地域医療の発展にも力を尽くしていく。

命に寄り添う
Human Story!
手稲溪仁会病院
消化器内科 主任医長
高橋 邦幸

同科には提携医療機関から数多くの患者さまの紹介が寄せられます。「以前は急性期の治療後も患者さまを引き続き診ていましたが、当病院が地域医療支援病院になったことで、意識が変わりました。今は患者さまの症状が落ち着いたら紹介元の先生にお戻しするのが原則。その際は患者さまにも先方の先生にも、丁寧にご説明することを心がけています」。同科では年に1回、提携医療機関の医師を招いて、診療内容や施設などの説明会を行い、信頼関係を築くようにしています。

高橋主任医長は、この春から地域医療支援病院の活動を推進する運営委員長としての役割も担っています。医師として高度な医療を追求するだけでなく、これからは地域全体で医療を支え、質の向上をめざす体制づくりにも取り組むこととなります。「患者さまやスタッフ、さらには地域で尽力されている医療機関も含めて、みんながハッピーになれる環境をつくっていききたい」。柔らかな笑顔でそう語る高橋主任医長の、地域医療を守るための挑戦が始まっています。





命に寄り添う
Human Story
定山溪病院
院長
中川 翼

慢性期医療のトップを走る病院として 日本のモデルとなることが社会的な責務。

定山溪病院は抑制廃止宣言や、かつてはタブーとされていた終末期医療への取り組みなど、日本の慢性期医療において、常に先駆けとなる活動を行ってきました。今やその存在は慢性期医療の手本として、多くの病院の指針になっています。

中川翼院長は、手稲溪仁会病院などの脳神経外科部長を経て、1995年に定山溪病院院長に就任。まだ53歳という、外科医として円熟を迎えた時期でした。「私は、忙しくてやりがいがある脳神経外科の仕事が好きでした。でも、医師になって27年間、常に駆け足で走ってきたことも事実でした。院長として定山溪病院を元気にしてほしいという要請があったとき、「第一線の外科医としてはやり切った。新しいことに挑戦するなら少しでも早い方がいい」と考えたのです」

当時の定山溪病院は目立った特徴もない病院だったと中川院長は振り返ります。しかし、現場のスタッフたちと会話を交わし、思いを伝え合うことで、「患者さまのために質の高い医療を」

という意識が院内で高まっていきました。「1999年の抑制廃止宣言によって、当病院は全国から注目を集めました。職員も誇りを感じながら働けるようになりました」。これを機に、同病院は慢性期医療をリードする存在として大きく成長。日本医療機能評価機構の「長期療養認定」第1号を皮切りに、外部評価においても先駆者となってきました。

同病院は療養環境の充実を第一に掲げてきましたが、ここ数年は新しい取り組みとして、訪問系のサービスや介護予防などの地域活動にも力を入れています。地域全体を病床と捉え、今まで培ってきたものを地域に還元することが、これからの時代に求められる役割でもある、と中川院長は言います。

「“選ばれる病院”であり続けるためには、私たちの取り組みを社会に示す必要があります。幸い当病院には、やる気のある職員が多い。彼らとともに、“日本における慢性期医療のモデル病院になる”という使命を果たしていこうと思います」

患者さまの抑制の廃止や心身に配慮した看護・ケアに取り組む定山溪病院では、スタッフたちが理念の実現に向けて、懸命に努力しています。その現場で正看護師をめざしながら働いているのが、入職5年目になる福島優子准看護師です。

福島准看護師は急性期病院での勤務を経て、30歳で同病院に入職しました。「10年間、急性期医療の看護を経験してきた、仕事にはそれなりの自信がありました。しかし慢性期医療の現場を知り、自分はまだまだ未熟だったと痛感させられました。ショックでしたが、逆に“それなら慢性期医療を極めよう”というやる気がわいてきました」。例えば、抑制廃止は「衝撃的だった」と言うほど、それまでの看護の概念を覆すものでしたが、福島准看護師は患者さまを支える先輩スタッフの姿に触発され、前向きに仕事に取り組み続けました。

やがて福島准看護師は、患者さまの人生までもくみ取るような深いかわりに、慢性期医療の魅力を見出していきました。

「長いお付き合いの中で、表情の変化が見られたり、目を合わせてくれたり、といったことに大きな喜びを感じました」。同病院は終末期医療への取り組みが長く、ここで最期を迎えられる方も多くいらっしゃいます。福島准看護師は、人が人生を終えられる場に携わることができるのはとても尊く特別な仕事を任されているという誇りがあると言います。

「いつかは正看護師に」と思い続けてきた福島准看護師は、この春から、大学の通信課程の履修を開始。上司からの勧めや応援があったこと、また、子どもの成長を考えると「自分に投資するのは今しかない」タイミングだったことが後押しになりました。現在は、技術や知識の向上のために、院内・院外の研修に積極的に参加し、合格に向けて奮闘中。正看護師の次は認定看護師にも挑戦してみたい、とキャリアアップに意欲を見せます。「患者さまのためにも、常に看護の質を高める姿勢を忘れず、さらに上をめざし続けていきたいと考えています」

**職場のサポートでキャリアアップに挑戦。
患者さまのために看護という仕事を極めたい。**

命に寄り添う
Human Story
定山溪病院
看護部 准看護師
福島 優子



手稲
溪仁会病院地域の中核病院として医療を支え続けるために
～地域医療支援病院の取り組み

地域医療を守る地域医療支援病院の役割

手稲溪仁会病院は、2012年10月に「地域医療支援病院」の承認を受けました。地域医療支援病院は、周辺の医療機関およびその医師（かかりつけ医）に対する医療支援と連携を行い、医療機関の役割分担と地域医療連携を進める役割を担います。この承認を受けて、一つの総合病院がすべての診療に対応する「病院完結型医療」から、地域内にあるさまざまな医療機関がかかわりながら多様な医療を提供する「地域完結型医療」を推進する取り組みを進めています。

地域医療支援病院の取り組みは、大規模な病院に外来患者が集中し、膨大な待ち時間が発生するという医療が抱える問題を解消し、すべての方が必要な治療を受けられることを目的の一つにしています。医療機関の機能分化（役割分担）を明確にし、患者さまにはかかりつけ医を持ってもらうことで、症状に応じた適切な医療サービスの提供をめざします。

地域完結型医療を進めるには、地域にある医療機関やかかりつけ医との連携体制が重要になります。かかりつけ医からは高度な医療を必要とする患者さまを紹介してもらい、症状が落ち着いた患者さまは元のかかりつけ医にお戻りする（逆紹介）という仕組みの推進が、医療の活性化を図り、医療資源を守ることにつながります。同病院は、提携医療機関との「顔が

見える関係”を築き、医療連携体制のさらなる強化を図っています。

●手稲溪仁会病院の提携医療機関数
(2014年7月1日現在)

病院数	95
クリニック数	226
計	321

信頼いただくためにさらなる努力を

同病院では2013年6月から一部の診療科を完全予約制（紹介制）に移行し始め、今年4月には一部を除き完全予約制にしました。他医療機関からのご紹介や専門治療・救急治療を必要とされる患者さまを中心に医療を提供しています。

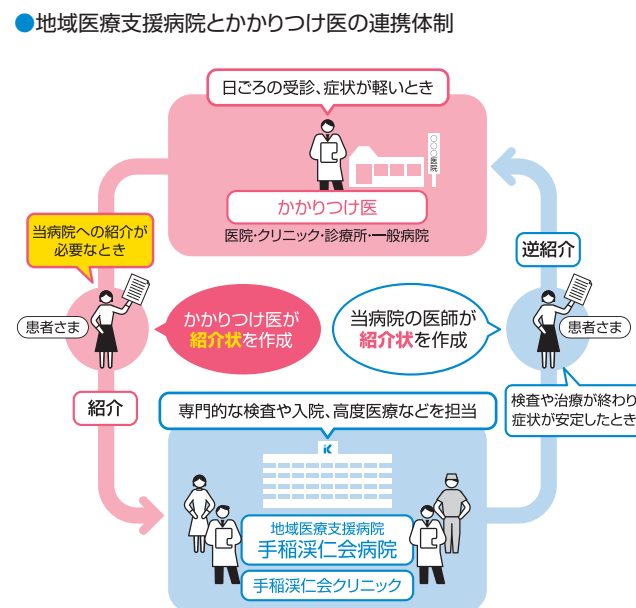
紹介状や予約がなく来院された患者さまには、相談窓口として「受診相談コーナー」を設け、その方の症状に合った最適な医療機関の紹介を行っています。社会福祉士や医事課スタッフ、看護師を配置してご相談に応じ、患者さまの病状に合わせて適切な対応を行えるよう、サービス向上に努めています。

こうした院内での取り組みを統括するのが、医師や看護師、事務スタッフなどで構成される「地域医療支援病院運営委員会」です。同委員会では定期的にミーティングを開催し、地域医療連携を推進して患者さま中心の医療を提供する取り組みを検討・実施しています。

地域医療支援病院の承認から2年近くが過ぎ、同制度をご理解いただく方が増えた一方で、まだ仕組みをご存じない方や、誤解をされている方が多いのも実情です。今後は、広報・啓発活動にも一層力を入れ、患者さまや医療機関をはじめとする地域社会から信頼される活動を展開していきます。



地域医療支援病院運営委員会



定山溪病院

病院機能評価新基準による全国第1号認定

定山溪病院は、公益財団法人 日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」の更新審査を受審し、2013年9月6日付で認定証が交付されました。従来の書類中心の審査から、患者さまが受診し、入院から退院するまでの実際の流れに即した審査内容に大きく変更した新基準による慢性期病院版での認定です。同機構の病院機能評価は日本で最も信頼できる第三者評価ですが、中小病院への普及をめざし審査内容が見直されました。定山溪病院は、その新基準での全国第1号の認定となりました。

今回の審査の中では緊急時の対応に指摘があり、院内の緊急コールの仕組みづくりや、全職員参加の

一次救命処置の研修などを実施することができました。定山溪病院の中川翼院長は「客観的な視点によって現状を評価する第三者評価は、課題を把握し、医療の質を上げるのに有益です。地域医療の質の向上のためにも、第三者評価が一層普及することが望まれます」と期待を寄せています。

株式会社
ソーシャル

在宅の暮らしを支えるホームヘルパーの活動

株式会社ソーシャルは、高齢や障がいなどにより介護・支援を必要とする方が住み慣れた家で生活し続けられるよう支援するホームヘルパーを派遣しています。ホームヘルパーはご利用者さまのご自宅を訪れ、地域のケアマネジャーが作成したケアプランに沿って訪問介護や介護予防サービスを提供します。

その支援には、食事・入浴・排せつなど体のお手伝いを行う「身体介護」と、炊事・掃除や買い出しなどの支援をする「生活援助」があります。サービスはご利用者さまの希望に合わせることが重要であり、家族のように密なコミュニケーションを

取ることが大切です。ご利用者さまに何でも頼っていただけるような関係づくりをめざして、サービスの提供を行っています。

株式会社
ハートワークス

暮らしの安心を支える福祉用具選び、住宅改修を支援

介護が必要な方、障がいを持つ方が暮らしやすいように、福祉用具のレンタル・販売や、段差解消や床材変更などの住宅改修を行っているのが株式会社ハートワークスです。ホームヘルパー1・2級、介護支援相談員などの資格を持つ「福祉用具専門相談員」などのスタッフが、ご利用者さまのご自宅へかがい用具選びや住宅改修のお手伝いをしています。特に車椅子は一人ひとりの体型に合ったオーダーメイド製作に加え、納品後にも微調整や出張修理など、細やかなサポートを行います。

また、福祉用具の購入・レンタルや住宅改修の費用

は、介護保険などの制度により補助が受けられる場合があります。これらの制度の相談や、書類作成などの支援でもご利用者さまを支えています。



車椅子製作の際には、職員が事前につかり採寸し、完成後もフィッティング作業を繰り返して体型に合わせてから納品します。

ステークホルダーの声

01

病院と医療の発展を主導するリーダーの方のご意見

北海道における病院の活動を支え、医療・保健・福祉の向上を図っている特定非営利活動法人「北海道病院協会」理事長の徳田禎久氏に、当グループの活動に対する評価と未来への提言をいただきました。

特定非営利活動法人
北海道病院協会理事長
社会医療法人 瀬心会 理事長
徳田 禎久氏

法人内の活動にとどまらず、新たな視点や発想力で北海道が抱える問題を解決できる存在に。

溪仁会グループと当協会のかかわりは、前身の北海道私的病院協会が創設された1983年にさかのぼります。西円山病院（現在の札幌西円山病院）を率いておられた故加藤隆正先生には、役員として当協会の発展にご助力いただきました。加藤先生の病院経営の手法は、当時の民間病院の中では異色でしたが、理念ありきの経営や人づくりに熱心なことなど、その頃に培われた組織風土は、今も溪仁会グループの伝統として引き継がれていると思います。

近年は、医療や介護、福祉の連携が必要とされていますが、溪仁会グループは早くからその視点を持って事業に臨まれてきました。そうした先見の明があるのも、経営に対するビジョンがしっかりしている組織ならではの強みだと思います。

北海道の医療が抱える問題は、年々深刻さを増しています。その代表が地方における医師不足です。私たちは解決策の一つとして、指導医を増やし、地方に派遣して研修医の育成を行うような仕組みができないかと考えています。そのためには、溪仁会グループのような、強固な経営基盤

を持つ組織の力が必要です。ぜひ、優秀な指導医の養成とその派遣ができるような仕組みづくりに取り組んでいただきたいと思います。

また、ICT（情報通信技術）の活用も重視しています。遠隔診療など、ICTを駆使することで、距離のハンデを埋めることが可能になるからです。手稲溪仁会病院では独自の情報共有システムも構築されているので、その技術を応用し、広く使えるようなシステムも作ってほしいと期待しています。

こうした取り組みはスピードが肝心です。できることからすぐにでも取りかかっていかなければ間に合わない。北海道の地方医療は、もうそういう限界にまできているのです。

これからの溪仁会グループにはその組織力とノウハウを活かし、新しい視点に立った活動を展開してほしいですね。例えば、研究グループを立ち上げ、医療や福祉への提言を行ったり、子どもの教育やシニア向けの事業に参画するなど、地域を守り、後押しする活動にも取り組んでもらいたい。そして新たな価値を創造する役割を果たしていただきたいと考えています。

特定非営利活動法人北海道病院協会

北海道のすべての病院が連携することによって、医療・保健・福祉の増進に貢献することを目的に支援事業を展開。北海道病院学会や研修会の開催、緊急臨時的医師派遣制度の実施など、北海道の医療の向上に取り組む一方で、さまざまな課題への対応も行っています。



北海道病院学会

活動報告
ずーっと。[Ⅱ]

医療・保健・福祉を途切れることなく提供する「ずーっと。」

溪仁会グループは、医療・保健・福祉にまたがる組織として、グループ内の施設や法人が密に連携を図り、シームレス（継ぎ目のない）なサービスを提供しています。未来を見据え、新たな取り組みも展開しながら皆さまに安心してご利用いただける体制を築いています。

新たな視点を取り入れながら、慢性期医療が持つ可能性に挑戦する。

「高齢者医療にも、急性期病院での経験を活かせる場面がたくさんある」。そんな思いを胸に、浦信行院長は今春、札幌西円山病院のトップに就任しました。日本の慢性期医療をリードしてきた同病院の理念や質の高いサービスを引き継ぎつつ、手稲溪仁会病院副院長の経験と急性期総合内科医としてのスキルをもとに、新風を吹き込むことを期待されています。

浦院長は30年間にわたって大学病院の内科に在籍し、循環器分野を中心に幅広い疾患を診てきました。また、研修医の指導にも熱心に取り組み、多くの医師を育ててきました。その経験を買われ、手稲溪仁会病院の総合内科部長となったのが54歳のとき。同時に臨床研修部で若手医師の育成を担当し、研修体制の拡充に尽力しました。「若い研修医を育てることで、自分自身も成長できる。それが30年以上も指導に携わり続けてきた理由です。世代を越えた絆もでき、彼らが巣立った後も付き合いは続いています」。院長室には、研修医

たちからの惜別のメッセージが書き込まれた白衣が掲げられています。「これは僕の誇り」と浦院長は目を細めます。

札幌西円山病院の院長に、という打診を受けたとき、浦院長の心に浮かんできたのが「これからは高齢者医療がキーになる。若い医師たちにとっても力を発揮できる分野なはず」という思いでした。2013年の秋に副院長として着任し、病棟を担当しながら高齢者医療の現場を体験。急性期医療とは異なる「支える」医療としての役割を改めて認識したと言います。

現在、浦院長が注目しているのが認知症への対応です。まだ確立された治療法がなく、リハビリテーションの効果も未知数とされていますが、浦院長は患者さまのプラスになる治療やケアがあれば取り入れていきたいと意欲を見せます。「これまでの維持する医療から改善もめざせる医療に。新しい情報を収集しながら、積極的に取り組んでいきたい。高齢者医療の可能性を追求するのがこれからの目標です」



前列向かって左から只石美優希作業療法士、吉田麻美言語聴覚士、和田友美言語聴覚士、後列同じく羽野美緒理学療法士、原田麻希理学療法士

Human Story 人と人の輪を結ぶ 札幌西円山病院 リハビリテーション部の 女性セラピスト

出産後もキャリアを継続できる環境が仕事のスキルや意欲を高めてくれる。

札幌西円山病院のリハビリテーション部には200名ものスタッフ(セラピスト)が在籍し、日本屈指の質の高いリハビリテーションを提供しています。若く、意欲的な人材が集まる中、主力として活躍しているのが女性セラピストです。同部では、結婚や出産をしてもキャリアを継続できるように、女性が仕事と家庭を両立できる体制を整えています。

羽野美緒理学療法士は入職9年目。出産・育児休暇を経て昨年職場に復帰し、主任補佐を務めています。「ここ数年で、出産するセラピストが増えました。当病院のリハビリテーションの質の確保には、女性セラピストは欠かせない存在です。そのため、女性が働きやすい環境づくりに力を入れています」と説明します。同様に昨年職場に復帰した原田麻希理学療法士も「スタッフ数が多いので、互いに助け合うサポート体制が整っています。また、病院に隣接して職員のための保育所があることも大きな魅力」と言います。



子育て中の女性セラピストとその子どもたち

出産や育児を経験したことで、仕事や患者さまとのコミュニケーションに変化が生まれたこともあります。和田友美言語聴覚士は「出産したことで、家族を大切に思う気持ちがより強くなりました。この思いは患者さまも同じなのだ気づき、以前よりも患者さまやご家族の心を深く思いやるようになりました」と仕事にプラスになったと話します。只石美優希作業療法士は今年の4月に職場復帰したばかり。患者さまの温かい言葉がうれしかったと言います。「おめでとう」という声をかけてもらったり、「子どもの写真を見せて」と言われたり。子どもの話題で会話をする機会が増えました」

女性が生き生きと、仕事も人生も充実させられる環境をめざして。「この病院に入職したのは、いろいろな経験ができると思ったから。育児とキャリアを両立しながら、質の高いリハビリを提供していきたい」と吉田麻美言語聴覚士が語るように、女性セラピストの熱意がリハビリの現場を支えています。

重大な病気の発症を未然に防ごうという社会的な働きかけの高まりとともに、生活習慣病や病気の早期発見につながる健康診断や人間ドックが注目されるようになっていきます。溪仁会円山クリニックは、そうした健診事業を専門に行う医療施設として、地域の健康を守る役割を果たしています。

道家充院長は、手稲溪仁会病院の消化器外科に在籍していた頃、外科手術でも救えない患者さまたちを見てきました。「患者さま一人ひとりを治療することも大切ですが、病気の発症そのものを抑える予防医学であれば、もっと多くの方を救うことができる、と感じていました」。消化器外科医としてのキャリアも活かせると考え、2005年に同クリニック院長に就任。しかし「甘く見ていた」と笑います。「健診業務は臨床の延長線上にあると思っていましたが、総合内科の専門的な知識が必要でした。50歳を越えてからあらためて勉強し直しました」

近年は健診の義務化から、受診者数自体は増加傾向にあ

ります。ただし、その人にとって本当に必要な検査が行われているかは疑問だ、と道家院長は言います。「過去の病歴などによっても、疾患の発症リスクは異なります。その方にとって最適な検査をいかに認識してもらい、受診につなげるかが課題です」。また、一般の健診は生活習慣病の発見が主で、がん検診などは含まれないため、重大な疾病が見逃される場合もあります。これに対して、同クリニックでは広報活動を強化するとともに、人間ドックの推奨や幅広いオプション検査などで、より効果的な検査の受診を促進していく考えです。

同クリニックではこれまで健康づくりの重要性を訴求してきましたが、これからはその効果を実証することも求められます。蓄積したデータを検証・分析し、その結果を社会に発信していきたい、と道家院長は目標を語ります。治す医療から、予防する医療へ。より多くの人にとって価値のある取り組みを追求することで、未来に貢献しようとしています。

予防医学は多様で、奥が深い世界。 検証を重ね、有用なデータを社会に示したい。

人と人の輪を結ぶ
Human Story
溪仁会円山クリニック
院長
道家 充



人と人の輪を結ぶ
Human Story
溪仁会円山クリニック
健診部放射線科 放射線技師
高崎 佳子

スキルと知識の向上をめざしながら わずかな病の兆候も見逃さない検査体制を築く。

健康への関心が高まる中、病気の早期発見と予防を目的にした健診の役割が重視されています。40代以上の人を対象にした特定健診が6年前に始まり、また女性特有の病気に対する検査の重要性も認識されるようになっていきます。

5年前に溪仁会円山クリニックに入職した高崎佳子放射線技師は、養成校を卒業後、健診事業に特化した施設に勤務。以来、通算して約16年間、健診業務に携わってきました。

「女性技師の場合、初めは臨床で働き、結婚や出産後は健診施設に移る人が多いのですが、臨床と検査業務の仕事ではどうしてもギャップがあります。それなら私は最初から健診業務に携わり、キャリアを長く積み重ねていこうと思いました」

現在は、10名の放射線技師が胸部・胃部X線検査やCT検査などの放射線業務と健診車による巡回業務を交代で行っています。その中でも女性が対象のマンモグラフィー検査は、高崎さんを含めて3名いる女性技師が担当します。近年

は、女性のがんの中で乳がんの罹患数(病気にかかる人数)が多く、年間6万人以上とされています。「検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師」の資格を持つ高崎技師は、分かりやすい説明や正確な操作を心がけながら、女性に配慮した検査を実施。今年の5月に最新のデジタル装置が導入されたことで、精度に加え、検査スピードも向上したと言います。

検査の機器や技術は進歩が早く、現場で働きながらも、新しい情報を常に取り入れていく必要があります。放射線科では、技師が積極的に外部の勉強会に参加し、最新の技術や知識を持ち帰ることで、科全体のレベルアップを図っています。みんな勉強熱心なのがいいところ、と高崎技師は言います。

「早い段階で異常の見つかった方が、専門の医療機関で適切な処置を受けることができた、という報告を聞くと『良かった』と思います。より迅速に正確な結果を出すこと。それが私たち放射線技師が果たすべき役割だと考えています」

医療法人
稲生会困難を抱える人々と共によりよき社会をつくる
～障がいを持つ方々を支える活動

ご自宅で暮らす患者さまをサポート

2013年11月に開設した医療法人稲生会は、「生涯医療クリニックさっぽろ」(P74参照)、訪問看護ステーション・居宅介護事業所の「くまさんの手」、医療型の短期入所事業所「どんぐりの森」で構成され、複合的なサービスを提供しています。

中核となるクリニックでは、ご自宅での人工呼吸器などの医療的ケアを必要とする約100名※の患者さまの診療を担当し、札幌圏を中心に、月間120件※程度の訪問診療を行っています。くまさんの手では、病気や障がいを持ちながら、ご自宅で生活されている方を看護師やリハビリスタッフ、ヘルパーが訪問し、適切なケアやリハビリテーション、生活介助などを提供。住み慣れた環境で暮らし続けていただけるようにサポートしています。

日中、重度の心身障がいを持つ小児患者さまをお預かりしているどんぐりの森では、常に専門のスタッフがお世話をしています。また、今年の6月から、かわい

い送迎バスを導入し、専任の運転士がドアツードアで送り迎えを行っています。

昨年の開設以来、多くの反響があり、ご利用される方も増えています。これからは障がいや病気を持つ方々がその方らしく暮らしていける社会を考えていくために、地域と結びつきながら、さまざまな活動を展開していく予定です。

※2014年6月30日現在



学び合う交流の場を提供「手稲みらいつくり学校」

医療法人稲生会では、障がいを抱える人たちが集い、互いに学び合う交流の場として、「手稲みらいつくり学校」を開催しています。さまざまな障がいを持つ患者さまやご家族が集まり、情報交換や特技を活かした講習会を行っています。内容も、定期開催の「月イチアロマ講座」のほか、「救命救急蘇生法学習会」やお菓子教室など、バラエティに富んだテーマが好評で、毎回、多くの参加者が集まります。

作業療法士である伊西夏恵チーフコーディネーターは「患者さま同士の連携や地域とのつながりをサポートしようという思いからこの学校は始まりました。ご家族や地域からの“こんなテーマでやってほしい”という投げ掛けが予想以上に多く、こんなに潜在的なニーズがあったのかと私たちも驚いています」と言います。こうした活動は、同法人が手稲溪仁会病院の小児在宅部門にあった当時から構想していましたが、独立した組織になったことで、ニーズに応えやすくなり、独自性の高いプログラムも実施できるようになりました。

学校の活動をサポートしているのが、アロマセラ

ピストとヘルパーの資格を持つ目黒祐美子さんです。同法人がめざす、「ご家族への心身のフォロー」を実践できるスタッフとして、今年4月に採用されました。「活動が口コミでじわじわと広がって、参加者が増えてきました。お母さんたちの表情が生き生きとしていて、こういう場が求められていたのだなと実感します」

今年の8月31日にはJR手稲駅で、ご家族や地域の方々と共に「みらいつくりマーケット」を開催しました。地域に根ざした活動を通じて、これからも未来を考える取り組みを続けていきます。



生涯医療クリニック
さっぽろ
手稲みらいつくり学校
チーフコーディネーター
伊西 夏恵



生涯医療クリニック
さっぽろ
手稲みらいつくり学校
コーディネーター
目黒 祐美子

札幌西円山
病院

より快適な療養環境を実現する「Nプロジェクト」

札幌西円山病院では、2012年から2018年までの期間で、「信頼される医療・介護・福祉サービスの提供」「誇りが持てる医療・福祉環境の実現」をめざす中長期プロジェクト「Nプロジェクト」を進めています。

同病院では重症度の高い入院患者さまが増え、浴室などの一部施設の改修が望まれていました。そこで、看護師やリハビリスタッフなど患者さまに直接かわる職員がワーキンググループを組織し、モデルルームによる評価などを加えながら内容を検討。2013年7月に南棟病床や霊安室の改修、10月に北棟5階の浴室増設、12月には南棟9・10階の浴室改

修が終了しました。さらに、ハード面だけでなくソフト面の改善を進めることで、医療・介護・福祉の質と患者さまの療養環境を向上させ、新しい慢性期病院の姿をめざしています。

溪仁会
円山クリニック

職場の健康管理の大切さを伝える産業保健セミナー開催

労働環境における健康管理に関心が高まる中、溪仁会円山クリニックは産業保健分野の取り組みに力を入れています。職場における産業保健の重要性を深め、情報交換をする場として、2013年9月26日「産業保健セミナー」をホテルさっぽろ芸文館で初開催しました。同クリニックと産業医契約を結んでいる事業所などから、経営者、人事・労務担当者、衛生管理担当者など、25団体34名が来場しました。

セミナーでは、産業医である園田博医師が「溪仁会円山クリニックの産業保健活動の紹介」と題した

講演を行い、同クリニックの取り組みについて紹介しました。さらに鈴木雄人健康運動指導士が、職場でできる簡単な健康体操を指導。産業保健師を交えた質疑応答も加え、事業所の方々に健康管理の大切さをお伝えしました。

溪仁会
グループ

シームレスな連携を進めるため相談援助職が共に学ぶ

医療・介護・福祉の関係を深め、切れ目のないシームレスな連携を実現するためには、相談援助職の職員同士の情報共有や交流が欠かせません。そこで、2013年10月5日、医療法人溪仁会 法人本部 医療福祉連携部の主催で「第1回溪仁会グループ相談援助職合同研修会」を開催しました。グループ内の相談援助職関係者の約9割に当たる136名が参加しました。

また今年7月26日には第2回を開催しました。全国ホームヘルパー協議会の七戸キヨ子副会長、北海道介護支援専門員協会の村山文彦会長を招き「相談援助職への期待」と題したご講演をいただきました。また、札幌西円山病院の横串算敏副院長からは「相談援助職は医療と福祉を語る『バイリンガル』をめざし

てほしい」との熱いエールがありました。そのほかパネルディスカッションや、溪仁会ハーティケアセンターと医療法人稲生会の施設紹介も実施し、119名が参加して活発に情報交換を行いました。これからも定期的に合同研修会を開催していく予定です。



第2回開催の様子

ステークホルダーの声

02

高齢者を支えるネットワークづくりに取り組まれている方のご意見

高齢者が生き生きと暮らすためのサポート活動を行っている
NPO法人「シーズネット」の奥田龍人理事長に、
溪仁会グループが提供する医療・保健・福祉サービスについてご意見をいただきました。

奥田 龍人氏
NPO法人シーズネット理事長

グループ内の各組織が連携し合うことで
地域を支えていく仕組みを創り出してほしい。

NPO法人シーズネットは、社会における役割づくりや仲間づくりの支援など、シニア世代のライフサポートを中心に活動しています。当NPOでは、これからは高齢者も社会を支える貴重な力として、どんどん社会参加していくべき、と考えています。

私は16年間、溪仁会グループに在籍し、主に高齢者福祉に携わってきました。そのため、当NPOと溪仁会グループとはさまざまな場面でかかわりがあります。例えば、ソーシャルワーカーを派遣してもらい、会員と一緒に活動してもらっていますが、これは最近注目されている「コミュニティソーシャルワーカー※」の育成にもなるため、互いに有益なことだと思います。また、高齢者向け住宅のリハビリ評価については、札幌西円山病院のリハビリテーション部のスタッフに協力をお願いしています。

これからは介護予防のための啓発活動も重視しており、これは溪仁会円山クリニックにご協力いただく予定です。このような活動は、溪仁会グループが地域の高齢者に目を向ける機会にもなると考えています。また、私たちのようなNPOと医療・

保健・福祉の総合グループがかかわりながら活動することで、地域における高齢者へのケアや支援などの新しいモデルづくりにもつながると思います。

溪仁会グループは、ISOを取得するようになってから、その取り組みが非常にわかりやすくなり、透明性の高い組織になったと感じています。医療法人も社会福祉法人も、それぞれの病院や施設の役割がはっきりしており、社会的な意義も明確になっています。中でも医療の質は非常に高いといえますので、その強みを活かして、これからは医療と介護が連携する事業など、地域のパイロット的な取り組みにも挑戦してほしいと思います。最近是在宅サービスに関心を持つ医師も増えているようですので、手稲家庭医療クリニックなどを拠点に、地域と密着した新しい活動も展開していただきたいですね。

※コミュニティソーシャルワーカー
援助を必要とする人と福祉サービスや支援機関などをつなぐ、地域に根ざした活動を行うソーシャルワーカー

NPO法人シーズネット

高齢者が老後も安心して人生を送るための、さまざまな支援を行う団体。高齢者自身が自立して、主体的な生き方をめざすためのグループづくり・ネットワークづくり・拠点づくり事業のほか、今年度から傾聴ボランティアを養成して高齢者向け住宅に派遣する事業も開始しています。今年の5月にはその活動が認められ、札幌市の第1号指定NPOとして承認されました。



活動報告
ずーっと。[Ⅲ]

地域の医療・保健・福祉を支えるネットワークの「ずーっと。」

地域で起きている医療・保健・福祉の格差を少しでも解消し、多くの人が満足のいくサービスを提供することも、溪仁会グループが取り組まなければならない使命です。その地域にしっかりと根を下ろし、人々と手を取り合うことで、地域社会の未来にも貢献することをめざしています。

社会福祉法人溪仁会は、入居型施設から通所デイサービス、在宅介護支援など、高齢者福祉を中心に複合的なサービスを提供しています。近年は札幌市以外での施設開設が相次ぎ、地域に応じたきめ細かいケアが目立っています。

谷内好理事長は地域からの開設要請が増えていることについて「福祉サービスにも質の高さと効率性が求められるようになり、豊富な施設運営の経験を持つ当法人への期待が高まっているため」と説明します。また、以前は福祉施設単体で提供されていたサービスが、地域包括ケアの推進によって、医療や保健との連携が重視されるようになったことも、医療法人とのネットワークを持つ同法人の強みになっています。

新施設の開設には、組織内の活性化や職員のキャリア形成を促進する狙いもあります。働く環境に変化や多様性を持たせることで、職員のモチベーションが向上し、キャリアを活かして飛躍する機会になれば、と谷内理事長は言います。

「職員たちは“福祉はやりがいのある仕事”と考え、懸命に努力しています。新しいことに挑戦したい、自分の力を発揮したい、と考える職員も多いでしょう。その思いに応えるには、新しい活躍のフィールドをつくるのが大切なのです」

福祉のあり方が大きく変わろうとする時代にあって、谷内理事長は、地域が抱える問題やニーズを把握するには、施設からの情報発信や地域との意見交換など、密接にコミュニケーションを図る必要がある、と考えています。さらに近年は、在宅での介護を支援する動きが活発になっていることから、地域の特性を見極めながら、介護を担うご家族をサポートできるような体制づくりも視野に入れています。

「できるだけ住民の方や職員の声を直接聞きたい」と、各地に点在する施設にも積極的に出かけるようにしています。地域福祉を支えていくために、経営の質も高めながら、社会から信頼される誠実な組織づくりに取り組んでいます。

職員一人ひとりの思いや志を受け止め 地域福祉のあるべき姿を追求する。

地域と共に歩む
Human Story!
社会福祉法人溪仁会
理事長
谷内 好



高齢になっても住み慣れた自宅で生活を続けたい。そう考える方が増えています。社会福祉法人溪仁会では、要介護・要支援と認定された方に、入浴や食事、リハビリテーションなどを提供するデイサービスを12の施設で実施。高齢の方が生き生きと暮らし続けるためのサポートを行っています。

円山溪仁会デイサービスは、毎日60名ほどの方にご利用いただいています。4年前に入職した佐々木愛介護福祉士は、身体介助や機能訓練の介助、レクリエーション活動などを担当。今年からはリーダー職を任されています。「当施設はご利用者さま同士のコミュニケーションが取りやすく、趣味活動も充実しているのが特徴。現在は要介護の方が6割、要支援の方が4割で、比較のお元気な方から全介助が必要な方までいらっしゃいます。それぞれの個性や嗜好^{しこう}を尊重し、身体状況に合わせた細やかなケアを提供するようにしています」佐々木リーダーは以前、特別養護老人ホームに勤務して

ましたが、別の世界も見てみたいと、足裏マッサージのセラピストとして働いた経験を持っています。その後、「やはり介護の仕事がしたい」と同施設に勤務。「サービス内容や施設の雰囲気の良いさはもちろんですが、職員に対する福利厚生が手厚いこと、勤務への適正な評価がありステップアップできることが大きな魅力でした。こうした体制のおかげで、若い職員も将来のビジョンを持って仕事に臨むことができます」と言います。

現在は、新しく導入された「介護プロフェッショナルキャリア段位制度^{*}」の内部評価を担当する「アセッサー」の認定をめざし、勉強を続けています。「この制度によって、介護職員の技術や知識レベルを把握し改善を図ることで、当施設のケアの底上げにつながる」と意欲を見せます。

ご利用者さまがいつまでも元気で通い続けてくれるのが何よりの喜び、と佐々木リーダー。多くの方に喜ばれるケアを実践するために、より高い目標を見据えています。

ご利用者さまの笑顔が仕事の原動力。 新制度の活用で介護の質のさらなる向上を。

地域と共に歩む
Human Story!
社会福祉法人溪仁会
円山溪仁会デイサービス
介護福祉士 リーダー
佐々木 愛



※介護プロフェッショナルキャリア段位制度
介護サービスにおける職業能力を評価する新しい仕組み。アセッサーと呼ばれる評価者が、定められた基準に基づいて介護職員の能力を評価、レベル認定を行う。

地域に根を下ろしたかかりつけ医として 医療やケアの隙間を埋め、つないでいきたい。

開院から5年になる手稲家庭医療クリニックは、地域の“かかりつけ医”として、年代や疾患を問わず、あらゆる初期診療を受け持っています。米国でトレーニングを積み、「米国家庭医療学専門医」の資格を持つ小嶋一院長は、かかりつけ医や家庭医療の普及を図りながら、未来の地域医療を担う家庭医の育成にも力を注いできました。「初めの2年半は慌ただしく、診療にかかりきり、という場面も多かったのですが、若い医師が育ってきたことで、現在は地域に根ざした活動もできるようになっています。これからは、もっとこのクリニックの機能や特性を発揮できるはず」と意欲を見せます。

もう一つ、小嶋院長が重視してきたものが在宅医療でした。2012年度に指定を受けた「在宅医療連携拠点事業」では、訪問診療や訪問看護を行ってきた経験をもとに、在宅医療のモデルづくりに着手。少しずつですが手稲地域でも在宅医療に乗り出す医療機関が増えてきました。「これからの超高齢・多死社会では、在宅医療も重要な医療リソース(資源)になるはず。病院や施設で亡くなる人は減らないでしょうが、ご自宅で

の看取りという選択をされる人は、今後さらに増えると考えています」。より多くの人に在宅医療について考えてもらうために、周知活動にも積極的に取り組んでいく予定です。

同クリニックの存在は「すき間産業」と小嶋院長は言います。病院間の溝を埋める。地域に足りないものを補う。細かな部分を埋め、つないでいくことで、地域が一体になれるような役割を果たしたい。それには、課題や状況変化に対応できる、フレキシブルな体制をつくる必要があると考えています。

「この5年間に多くの患者さまを看取る中で、大切なことを教えていただきました。もし明日、自分の身に何かあっても後悔したくない。そのために何をすべきか、ということに気づき、人生観が変わりました」。その思いを胸に、医師として、一人の人間として、患者さまと向き合う日々が続きます。



高齢化が進み、認知症や障がいなどを抱え介護を必要とする方の数が増えています。入居できる施設を望む声を受け、社会福祉法人溪仁会は、今年6月に特別養護老人ホーム「手稲つむぎの杜」を開設しました。その施設の看護・介護職員を束ねるのが加賀谷泰子部長です。

加賀谷部長は1993年に西円山病院(当時)に入職し、認知症という言葉が定着する前からそのケアに携わってきました。学ぶ本もない中、手探りで失敗や成功体験を重ねケアを確立させたといいます。その経験を買われ、新設される手稲つむぎの杜のケアを任されることに。介護が中心となる施設への異動に戸惑いもありましたが、認知症病棟で、重症度の高い患者さまの増加により、中軽症の方が自宅に戻っていく現状を目にしていました。「病院では認知症ケアの理解が広がりました。でも帰った地域ではどうか、ご家族の介護の負担は——私なら手伝える、やらなければ、と思ったのです」

そして施設入居の事前面談で見たものは、加賀谷部長の想像を超えていました。「生活を維持できる状態にない方が、独りで暮らしている。病院の中からは見えませんでしたが、これほどに福祉の恩恵を受けられない方がいるのかと…」加賀谷部長は声を詰まらせます。「施設は地域の中の『^{つい}すみか』と言われる。人生の終わりを迎えるまで心地よく過ごしていただくという、私たちの使命を果たしたいと強く思いました」

摂食・嚥下、緩和ケア、そして看取りなど、施設でも医療の必要性が増えています。その中で、加賀谷部長がケアの方針に掲げたことは二つ、ご利用者さま自身で決めたことはお手伝いをする、そして1日1度は笑顔を引き出すこと。「それぞれが専門を活かしながらも、大切なのは人と人とのかわりだと伝えています。私たちがやる仕事はまだたくさんあります。情熱が続く限りはやりたい」。加賀谷部長のまなざしから、力が失われることはありません。

最後まで笑顔で暮らせる地域をつくるために、 病院で積み上げたケアの技術を日常の支援へ。



社会福祉法人
溪仁会

住み慣れた地域で暮らし続けるために ～特別養護老人ホーム「るすつ銀河の杜」「手稲つむぎの杜」開設

羊蹄山麓地域で2施設の一体運営へ

高齢者人口の増加とともに、介護を必要とし、家庭での生活が困難な方が生活するための入居型介護施設の開設を望む声が地域で増えています。社会福祉法人溪仁会は、自治体などとの協力を進め、地域への展開を続けています。

2014年4月1日には、留寿都村に地域密着型介護老人福祉施設「るすつ銀河の杜」を開設しました。



医療・介護・福祉をつなぐ総合福祉施設が誕生

施設は入居に加え、在宅も含めた地域の介護と福祉全体の拠点となることが求められています。また、高齢化が進むにつれ、認知症や褥瘡（P80参照）、摂食・嚥下、そして看取りなど、医療と連携したケアの提供も必要とされるようになっていきます。

2014年6月1日に開設した介護老人福祉施設「手稲つむぎの杜」は、特別養護老人ホームを中心に、短期入所生活介護（ショートステイ）、通所介護（デイサービス）、認知症対応型通所介護を提供し、さらに居宅介護支援事業所、介護予防センターの機能を加えた総合施設です。

施設運営のコンセプトとして「医療と介護の連携強化」「医療サポート体制の充実」「地域交流・地域貢献の拠点」の3つを掲げています。医療・介護の連携を強め、福祉や介護の情報発信を行うことで、地域の方々の相談窓口となることをめざしま

同施設は村営の「留寿都村特別養護老人ホーム銀河荘」の運営を移譲されて建設したものです。社会福祉法人溪仁会は留寿都村の隣町の喜茂別町に、2013年6月に広域型の介護老人福祉施設「きもべつ喜らめきの郷」を開設しており、「るすつ銀河の杜」はそのサテライト施設となります。全国でも珍しい異なる町村の施設の一体運営を行うため、リアルタイムの映像を見ながら会議できる電子会議システムの導入などにより密な連携を実現しています。さらに2施設と喜茂別町立クリニックとの連携により、羊蹄山麓地域で医療・介護連携のモデルケースをつくることをめざします。

4月3日には竣工式と祝賀会が行われ、社会福祉法人溪仁会の谷内好理事長は「広域型の『きもべつ喜らめきの郷』と、地域密着型の『るすつ銀河の杜』が一体となることで、地域ケアのコアになりたい」と決意を表明しました。留寿都村の場谷常八村長からは「地域福祉の新たなモデルとなるような展開をお願いしたい」と期待をお寄せいただきました。

す。医療面は隣接する手稲家庭医療クリニックが全面的に支援。加えて手稲溪仁会病院によるサポートにより、さらなる安心を提供します。

さらに、施設内のオープンスペースを地域の組織や住民の方々の交流の場として整備。こちらは災害時は「福祉避難場所」として、地域の高齢者の避難所としても機能します。

「手稲つむぎの杜」の名称には、ご利用者さまやご家族、地域の方々などすべての人々を結ぶ糸を「つむぎ」続け、より大きく、深く成長する施設でありたいという思いが込められています。医療・介護・福祉をつなぐ拠点となり、地域における溪仁会グループの使命の実現に向けて、サービスの提供を続けていきます。

手稲家庭医療
クリニック

かかりつけ医として地域の健康を守る“かりんば”の活動

2009年に開設した手稲家庭医療クリニックは、地域の方に愛され、親しまれるように、愛称を“かりんば”（アイヌ語で桜）と名付けました。現在は、風邪や軽度なけがなどの治療をはじめ、高血圧や糖尿病などの慢性疾患、特定健診やワクチン接種、禁煙外来など、幅広い医療を提供し、多くのご家庭のかかりつけ医として、地域に根付いた活動を行っています。

かかりつけ医は家庭医とも呼ばれ、あらゆる年代の患者さまを対象にプライマリ・ケア（全人的な総合医療）を提供するのが特徴です。地方の医療過疎や大病院に偏りがちなニーズなど、医療が抱えるさまざまな問題を解決する存在として期待されています。同クリニックではかかりつけ医の育成・普及にも取り組み、これまで6名の医師を送り出してきました。

2階にある19床の入院病棟は、主に末期がんの患者さまを受け入れ、細やかな医療とケアを提供しています。病床数が少ないため満床が多いことが課題にもなっており、急な入院などの場合は、本院である手稲溪仁会病院や地域の



医療機関と連携しながら、スムーズな対応を図るようにしています。

同クリニックでは在宅医療にも積極的に取り組んでいます。2012年には厚生労働省の「平成24年度在宅医療連携拠点事業」の実施機関として採択を受け、手稲区における在宅医療のモデルづくりを実施。現在は「手稲区在宅医療連携拠点事業所チームかりんば」として活動を継続し、「手稲区在宅ケア連絡会」の開催、ホームページや広報誌による啓発活動などを展開しています。また、専門の医師と看護師が訪問診療を行っており、ご自宅で療養される患者さまとご家族を支えています。

喜茂別町立
クリニック

住民の健康を支える喜茂別町立クリニックの活動

溪仁会グループは、高齢化や人口減少が進む地域の医療提供体制を守るため、指定管理者として公立診療所の運営を行っています。

喜茂別町立クリニックは、2013年4月に開院し、住民にプライマリ・ケアを提供しています。超音波検査機器・血液検査機器を更新し、緊急検査にも対応可能になりました。また、手稲家庭医療クリニックに加え、地域の基幹病院である倶知安厚生病院との連携も強化しています。今年4月からは外傷を含めたすべての疾患の診療を行うことを住民により周知するため、外科を標榜科に加えました。

さらに同クリニックでは診療活動に加えて、石井院長を中心に町と連携して住民の健康づくりの取り組みを行っています。住民健診の後の改善指導を町の保健師と一体となって実施するほか、町健康イベントでの講話など、さまざまな機会に情報を発信。今年3月14日には、町の高齢の方がコンビニエンスストアで買い物することに着目し、そこで手に入る食材で栄養バランス

の良い食事を作る「けんこう らくらく コンビニごはん」と題した試食会を実施しました。4月からは、プチ健診や万歩計をつけたウォーキングなどの運動などによる健康づくりプログラム「80（ハチマル）ウォーク」の運営を町から委託を受けて開始し、住民の健康増進により一層注力しています。



各ユニットには「絆」「綾」「緑」といった、糸偏の漢字の名前が付けられている



ステークホルダーの声

03

北海道の農村地域に位置する自治体のリーダーの方のご意見

溪仁会グループが医療・介護サービス提供を行う喜茂別町の菅原章嗣町長に、当グループの地域における活動についての評価と、今後の活動への期待をお寄せいただきました。

菅原 章嗣氏

喜茂別町長

北海道のトップランナーとして
地域医療のモデルを共に築いてほしい。

空を駆けてゆくドクターヘリを見て、以前から溪仁会グループは近隣の市町村に心強い存在だと感じていました。そして2013年、医療法人溪仁会が喜茂別町立クリニックの指定管理者となり、社会福祉法人溪仁会が特別養護老人ホーム「きもべつ喜らめきの郷」を開設されてからは、喜茂別町の医療・保健・福祉に大きくかわっていただいています。

喜茂別町は人口減少の中で医療機関の赤字が膨らみ、町のニーズを反映して厳しい状況を打開したい思いから、診療所を町立にする覚悟を決めました。事業提案の中で、手稲家庭医療クリニックの地域医療への取り組みもあり、溪仁会グループにぜひ一緒に挑戦していただこうと思いました。介護は施設がなく、住民は他市町村に頼らざるを得ない状況でした。施設の開設は町民の待望であり、医療と介護の連携により、厳しい中でもうまく運営ができるのではと願っています。

もう一つの問題として、ここでは農作業など生活することが第一で体調管理などは二の次になる方が多く、いかに住民に「自分のお医者さん」と思ってもらえる

かが鍵でした。そのために診療活動だけでなく、クリニックの事務員や看護師が地域のコミュニティに積極的に参加し努力をいただいており、十二分に受け入れられていると思います。

将来を考えると、札幌は先端医療から終末期医療まで完結していますが、喜茂別のような地域は先端医療の提供範囲から外れていくでしょう。その中で住民の健康をどう守るか。病院や自治体を中心に「何をやるか」と考えるのではなく、住民を中心に置いて医療・保健・福祉の提供体制をつくり直すことや、ICTを活用し高度医療につなげるような工夫が必要です。

私たち自治体はすでに動き始めていますし、喜茂別町の規模でそれができれば、全国の過疎地のモデルになれると思います。溪仁会グループは北海道医療のトップランナーですから、社会からの期待も高い。全道に同じ認識を持つ医療法人や社会福祉法人、自治体はあるでしょうか、それらをリードして、住民の健康を守る方法を広く“面”となるように地域へ展開していただきたいと期待しています。

喜茂別町の医療・保健・福祉の提供体制

喜茂別町は人口2,361人(2014年6月1日現在)で、高齢化率は37.5%(2014年1月1日現在)となり、これは道内市町村で30番目の高さになります。全戸にブロードバンド回線を敷き、高齢者の見守りシステムやテレビ電話による健康相談・指導などICTを活用した高齢者対策や健康支援を実施しています。

活動報告
ずーっと。[IV]いつまでも皆さまの近くに
存在し続ける
「ずーっと。」

溪仁会グループにとって、組織の永続性も社会的責任の一つです。いつまでも地域の医療・介護・福祉を支えていけるよう、経営体制の強化や独自のマネジメントシステムの構築に取り組み、職員一人ひとりを大切にするグループ運営を行っています。誠実な活動を通し、これからも信頼され続ける組織をめざします。

溪仁会グループでは組織や活動の持続性につながるものとして、環境を守る取り組みを重視しています。地域に貢献し、職員の環境意識を高めるため、2008年からおたるドリームビーチの清掃活動を継続しています。

社会的な責任と使命を見据え 組織が進むべき未来ビジョンを示す。

医療法人溪仁会は、1979年の創立以来、新病院の開設や施設の拡充、新事業の展開などに取り組み、今では4,000名以上の職員が働く、北海道屈指の医療グループとなっています。常に進化し続ける医療の場を支える事務部門のトップとして、医療法人本部を率いるのが堀公明法人本部長です。

堀本部長は札幌西円山病院(当時の西円山病院)の立ち上げから運営に携わってきました。その後、手稲溪仁会病院の経営管理部長を経て、2011年に医療法人溪仁会の常務理事に就任。この春から、法人本部長として組織の未来ビジョンや中期の事業計画の策定などを担当しています。「病院を離れるときは寂しく不安だった」と振り返りますが、32年間にわたる病院運営の経験が法人本部でも活かされています。

医療法人溪仁会では、病院単位でプロジェクトが遂行されます。組織の基本姿勢を明示することで各病院の活動を支援することも、法人本部の大切な役割です。堀本部長は「理念を伝え続けることでいつか全体に浸透していく」と言います。

堀本部長には忘れられない思い出があります。それは当グ

ループの創始者である故 加藤隆正西円山病院院長(後の法人理事長)から言われた「うちでいくらい医療を提供してもただか500床。しかし、その医療が認められ、同じサービスを提供する病院が増えれば、やがて何千床、何万床もの価値になる」という言葉です。堀本部長は、そこに溪仁会グループの存在意義が示されている、と言います。「当グループは、今や北海道の医療・保健・福祉に影響を与える存在になったと考えています。私たちがより質の高いサービスを志すことで、北海道全体のレベルアップに貢献することが大切なのです」

数多くのプロジェクトにかかわってきた中で、「みんなと夢を語りながら組み立てていくプロセスが何より楽しい」と笑います。その言葉通り、全体を俯瞰しながら協調を図り、ベストな答えを見出すことで組織の成長をめざしています。

ISOへの理解や関心を深めるために、 大切なのは「伝え続ける」こと。

溪仁会グループは2000年より国際標準化機構(ISO)の定めるISO規格への審査登録を行ってきました(P42参照)。これに先駆けて、定山溪病院では1999年12月から『ISOニュース』を発行し、ISOに対する理解の促進や組織への浸透を図る活動を継続してきました。15年間作り続けられてきたISOニュースの発行回数は今や170回を超え、ISOを知るための重要なツールとなっています。

このISOニュースの編集を担当しているのが、総務課の福島智美さんです。「幹部職員によって構成されているISO委員会の監修内容に従って編集を行い、毎月1回、月末に発行しています。難しく受け止められがちなISOですが、少しでも身近に感じてもらえれば、と思います」。ISOニュースは院内の各部署に配布されるほか、バックナンバーは同病院のホームページ上で外部に向けても公開されています。

紙面は、品質管理関連の情報、個人情報保護法の解説、

環境活動など、多岐にわたります。中でも各部署の役職者が担当する「コンプライアンスについて」という連載が好評を得ており、グループ内でも評価する声が高かったことから、同病院では5年分の掲載記事を小冊子にまとめて発行しました。

「7年前に定山溪病院に入職するまではISOという存在すら知らなかった」と話す福島さん。編集に携わったことで、今ではISOやCSRへの意識が変わったそうです。また、ISOの取得に際して部署ごとに業務の流れを記載した「手順書」を作成するのですが、この内容を知ることができたのも、組織全体の仕事を把握する上でとても役に立った、と言います。

「何か得るものがあるはずなので、職員の皆さんには隅から隅まで読んでもらいたい」と福島さんは力を込めます。「マンネリ気味かも、と思うこともありますが、継続は力なり。正確にISOの情報を伝え続けることで、組織に根付かせていく。それがISOニュースの大切な役割なのだと考えています」

溪仁会
グループ

事業理念の達成とCSR経営の推進に向けて ～溪仁会マネジメントシステムの確立

独自のマネジメントシステムを構築

溪仁会グループは2000年の西円山病院（現札幌西円山病院）の品質マネジメントシステム（ISO9001）登録審査を皮切りに、環境マネジメントシステム（ISO14001）、個人情報保護に関するプライバシーマークの認証取得を行いました。国際規格を活用してサービスの質の向上や業務の効率化を図り、患者さま、ご利用者さまからのさらなる信頼へつなげようというものでした。

その後、各マネジメントシステムがグループ内に定着したことや、医療・保健・福祉の組織により即した仕組みづくりをすべきという機運の高まりを受け、2011年、「溪仁会マネジメントシステム（KMS）」の確立に向けたKMS会議が始動。新システムの構築に取り組んでいます。

KMSとは「品質マネジメントシステムを中核に、環境マネジメントシステム、プライバシーマークなどの各種ツールを溪仁会流に統合（運用）した独自のマネジメントシステム」のことで、別個に運用されてきた各マネジメントシステムを再編し、医療・保健・福祉の現場で活用しやすとした



KMS会議事務局

ものです。各マネジメントシステムがKMSとして統合されたことで、環境マネジメントシステムは2011年、プライバシーマークは2012年を最後にグループの全法人が第三者評価の更新を終了しました。しかし、KMSはCSR経営をより確実なものにするための「骨格」ですので、KMS会議ではKMSが「有効性と効率性の高い自律的なマネジメントシステム」となるように現在も協議を続けています。

組織への浸透と定着をめざす

グループでは「内部監査制度」が設けられており、内部監査員数も500名を超えています。内部監査を実施する意義などを職員向けに語る機会は多くありませんでした。そこでKMS会議では、KMSの本格的な運用に合わせてグループ内広報誌などにKMSに関する記事を掲載し、KMSへの理解促進にも取り組んでいます。職員が内部監査の仕組みを知り、積極的にかかわることがKMSの理解度向上と組織への浸透につながると考えています。

課題はKMSと各マネジメントシステムとの位置付けについて、一部に誤解や混乱があることです。KMSはグループにとって有効で活用しやすいように統合し直した、新たなかたちのルールということと、さらに訴求していく必要があります。

現在、同会議ではKMSのゴール（到達）イメージを可視化・明文化する作業に取り組んでいます。また、将来的には組織の社会的責任の国際規格であるISO26000とも関連付けながら、KMSの役割や意義などをわかりやすく示すことにしています。



医療法人溪仁会
経営管理部 次長/
KMS事務局長
石窪 公貴

業務の適正化だけでなく組織横断的な交流にも効果

既存のマネジメントシステムの一部には、医療・保健・福祉の現場にそぐわない面があり、理解に苦慮する職員もいました。そのため我々は、これまでのマネジメント体制を見直し、医療・保健・福祉の現場にそぐわない面は、ISOの規格要求事項にとらわれない「溪仁会のルール」として定め、運用していくことを進めています。KMS活動の一つに、ISO9001導入当初から行われている「内部監査」があります。内部監査には、業

務が適正に行われているかを確認するという目的以外に、職員がお互いの仕事のつながりをチェックすることで、縦割りになりがちな組織に横のつながりを生み出すという効果も期待できます。実際に「別の部署の仕事を知ったことで、業務上の連携がしやすくなった」という声も聞きました。内部監査制度の充実を含め、KMSの役割や効果を可視化して、引き続きシステムの適切な運用に努めていきたいと思っています。

溪仁会
グループ

職員とその家族の健康を守るために ～溪仁会健康保険組合の活動

健診の受診率向上を図る取り組み

溪仁会グループは、職員の福利・厚生の実現を図るため、2009年10月に「溪仁会健康保険組合」を設立。独自の組合を設立したことによって、よりきめ細かく適切なサービスの提供が可能になりました。現在は関連会社も含めたグループの全職員とその扶養家族の6,114人が加入しています。

同組合では、医療・保健・福祉に携わる者の責任として、職員に対し、健康への意識づくりを働きかけてきました。中でも特定健診の受診促進を重視し、書面での通知や受診料の無料化などを行った結果、設立当初



は20%台だった受診率が、2013年度には約40%に向上。ほかにも、グループ内の溪仁会円山クリニックにおいて、人間ドックを受ける際の料金の一部補助や、がん検診の無料化など、高度な健診を受けやすくする工夫も行っています。

家族に対するフォローも大切にしています。健診内容を手厚くし、女性のがん検診を無料にしたことで、受診率が向上しています。さらに2013年からは40歳未満の女性を対象に「奥さま健診」を実施。早期から健康への意識を高めることで、40歳代以降の健診も継続して受診してもらう狙いです。

これからは受診後の保健指導を強化し、職場とも連携しながら強く働きかけていくことをめざしています。また、レセプトデータと健診データを分析することで、職員の健康に関する傾向を解析し、健康増進や病気の予防に役立てる取り組み「データヘルス計画」を次年度から本格スタートさせる予定です。

こうした活動は、病気の早期発見や生活習慣病の予防によって職員の健康を守ると同時に、医療費の抑制にもつながるものです。職員とその家族の健康を支え続けるために、組合の財政の健全化を図り、適切な組織運営を継続していきます。

理事長 メッセージ



溪仁会健康保険組合 理事長
（溪仁会グループ 会長）
秋野 豊明

「溪仁会健保」を設立して5年になります。医療・保健・福祉に携わる私たちの健康を守るために、全国一律の「協会けんぽ」の枠組みから離れて独自の取り組みができると期待して「溪仁会健保」をつくりました。

しかし、超高齢社会の到来による高齢者医療費の増大に対し、若年層が高齢者医療を支援するために、健保組合の保険料収入の約45%を高齢者医療保険へ拠出する制度になりました。近い将来、この割合は50%くらいにまでなるようです。このように、「協会けんぽ」の枠組みに縛られない自由度を期待しましたが、財源的にも独自の取り組みは限らざるを得ない状況です。

しかしながら、職員とご家族の健康を維持するために「溪仁会健保」独自の取り組みをできる範囲内で精いっぱい行っています。

具体的な取り組みは本文に述べた通りで、各種健診の全額あるいは一部の補助を行っています。例えば、職員のご家族の健診受診率は全国的に低いのが問題になっていますが、被扶養者の健診に独自の仕組みを取り入れました。最近、これらの補助制度を利用して健診を受ける人が増えてきたのはうれしいことです。職員とご家族は、せっかくの制度ですからぜひご利用ください。

健診で異常所見が指摘されても病院を受診する人は約3割で非常に少ないと指摘されています。医療人の不養生とならないように、異常が発見されたら必ず受診しましょう。職員とご家族の健康あつての溪仁会です。皆さんには健康で、長い間、溪仁会のために働いていただきたいと願っているからです。

溪仁会グループ

誰もが生き生きと働ける組織に ～障がい者雇用の取り組み

溪仁会グループでは、障がいのある人が能力や適性に応じて社会に参加し、自立した生活を送ることを支援するために、積極的に雇用の機会を設けています。

医療法人溪仁会では、法人全体で35名(2014年7月時点)の職員が、事務職のほか、施設管理や看護業務などを行っています。採用については障がい者団体と連携し、マッチングを行うことで、長期雇用を図っています。

社会福祉法人溪仁会では、法人全体で16名を雇用(同)。看護・介護業務や事務職など幅広い分野で活躍しています。現在は施設によって雇用数に偏りがあるため、将来的には各施設1名以上の採用をめざしています。

札幌西円山病院の事例

札幌西円山病院のサプライサービス課は2003年から、身体障がいや軽度の知的障がいなどがある人を職員に採用してきました。現在は8名の職員が能力を活かしてさまざまな業務を担当。貴重な戦力として活躍しています。こうした取り組みが評価され、社会福祉協議会の「働く障がいのつとめ」において、同病院と職員が表彰を受けています。



札幌西円山病院 経営管理部 サプライサービス課
斉藤 哲郎

仕事を通じて成長できる喜びがあります



2011年に入職し、病棟で使用したタオルや寝具類の回収と整理、各部署からFAXで入る業務依頼への対応、グループリハビリに参加する入院患者さまの送迎などを担当しています。最初はとまどったこともありましたが、周囲からのサポートのおかげで、今では仕事が楽しく感じられるようになりました。また、以前は人見

知りの面があったのですが、患者さまやご家族に温かい言葉をかけてもらううちに、自然にコミュニケーションができるようになりました。この病院で働いたことで、自分自身が成長したことを感じています。これからもスキルアップをめざし、長く働いていきたいと思います。

社会福祉法人 溪仁会

北海道産業人材育成企業知事表彰を受賞

北海道産業人材育成企業知事表彰は、福祉・介護、ものづくりなど、北海道産業人材育成方針の重点分野で他の模範となる中小企業などを表彰するものです。社会福祉法人溪仁会では職員の能力開発に加え、小中学生の介護体験、実習生の受け入れなどの次世代の介護の担い手育成が評価され、2013年8月22日に道庁本庁舎で行われた第2回表彰式で、山谷吉宏北海道副知事より表彰状を授与されました。



溪仁会グループ

研究発表会25回を記念しCSRの特別講演

溪仁会グループ研究発表会が、2013年11月9日に札幌コンベンションセンターで開催されました。学ぶことを通じてグループの職員が相互に交流し、グループの役割や責任、方向性を確認する機会となる同発表会は、今年で25回目を迎えグループ内外から115演題が発表されました。さらに駿河台大学の水尾順一教授を招き、CSRに関する特別講演も催されました。CSRの基本から、リーダーシップの重要性などをご解説いただきました。



ステークホルダーの声

04

溪仁会グループの組織運営を支えていただいている方々のご意見

溪仁会グループの誠実かつ健全な組織運営にご協力いただいている方々に、当グループの組織統治やマネジメント体制について評価していただきました。

山田 清氏 山田清法律事務所代表 弁護士



法律を守るだけでなく、より高い誇りを持って医療や福祉という尊い仕事に臨んでもらいたい。

私は主に医療関連の事案を手掛けており、医療法人溪仁会の発足当時から顧問弁護士・監事を務めています。幸いなことに現在では大きな訴訟に発展するような問題はほぼなく、これは、各病院の医療安全に関する委員会がしっかり対応してきた成果だと思います。また、職員に対しては、グループの事業理念や使命に対する意識づくりが徹底され、ガバナンス(統治)が浸透していると感じます。

医療という世界は、患者さんの命を救えば感謝される一方で、患者さんが期待した結果が出なければ不満を抱き、訴訟などにつながる可能性をはらんでいます。そこが、溪仁会グループのような大きな組織が向き合わざるを得な

い問題でもあります。私は、現場で力を尽くすスタッフのみなさんの士気が低下しないようにするためにも、全力で彼らを守る役割を果たそうと思っています。

溪仁会グループは創業以来人にやさしい組織づくりを掲げています。それはとても大切なことではありますが、同時に力強さも兼ね備えてほしい。現場を支えるスタッフのスキルとそれぞれの医療などの技術の練度を高めることで、より盤石な組織になるはずです。

近年はコンプライアンスが重視されています。法律を遵守することは最低限のモラルを守っているだけです。溪仁会グループには、もっと高い誇りを掲げて、社会的な意義のある事業に取り組んでいただくことを期待します。

板垣 洋氏 板垣洋公認会計士事務所代表 公認会計士



大きなビジョンを描くことで組織が成長する。信頼される取り組みを継続してほしい。

私は溪仁会グループの財務・会計に関するサポートのほか、監事としての監査業務などを担当しています。近年は病院や施設の開設・拡張が相次ぎ、組織も大きくなっています。これだけの規模になると、経営をはじめ人や提供するサービスも質の維持が難しいものですが、溪仁会グループは薄まるどころか、ますます充実してきている。そこがすごいところです。

こうした溪仁会グループの特性は、「種をまく」ことに力を入れてきたためだと思います。設立以来、国の施策なども視野に、ずっと先を見据えながら進んできた。それが今になって大きく実を結んでいるのだと感じています。また、経営的なセンスにも優れたリーダーが、

時流を見極めた大胆な決断と投資を行ってきたことも、組織の飛躍につながっているのだと思います。

私は各病院や施設の経営管理部の方々にお会いすることが多いのですが、誰もが勉強熱心でとても努力されています。その熱意をさらに伸ばすために、外部で研修できる仕組みがあるとおもしろいのでは、と考えています。企業の成長戦略を知ることで、本来の業務にも役立つのではないのでしょうか。

患者さんやご利用者さんの信頼を高めるために努力することが、職員や組織の成長の後押しになります。これからも高い目標をめざしながら、さらに揺らぐことのない組織体制を築いていただきたいと思っています。



仕事のやりがい・パワーの源
それは一人ひとりが
輝いてこそ

浜仁会グループには、ユニークな趣味やあっと驚く才能を持った人たちがいます。特技を仕事に活かして活躍したり、趣味を楽しむことでリフレッシュできたり。仕事で力を発揮できるのも、プライベートや人生が充実しているからこそ。そうした個性あふれる人たちによって、浜仁会グループの活動は支えられています。魅力的な「きらりと光る」人たちの、パワーの源をご紹介します。



自分のためだけに走るのではなく 人と喜びを共有する楽しさを知りました。

手稲浜仁会病院
救急科 医師

羽岡 健史

子どもの頃から走ることが得意で、中学・高校と陸上部に所属していました。大学に進学する際も、「箱根駅伝に出たい」という思いから、陸上競技部が強かった筑波大学に進学したほど。残念ながら本戦出場はできませんでしたが、地元のフルマラソン大会では2時間35分という記録を出したこともありました。

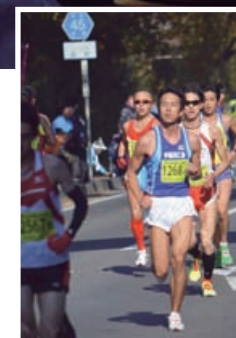
手稲浜仁会病院では、研修医時代の3年間を過ごしました。道内のさまざまなマラソン大会に出場しましたが、この頃から走ることに對する思いが変化してきました。それまでは記録を伸ばしたい、上をめざしたい、という思いが強かったのですが、私の走る姿がテレビ中継されるのを見て患者さまが応援してくれたり、他の部門の職員の方から声をかけてもらえるようになったことが純粋にうれしく、以前にはなかった「人と共有する喜び」が心の中に芽生えてきました。

その後、本州で産業医や精神科での経験を積み、2013年に手稲浜

仁会病院に戻ってきました。ドクターヘリや救命救急センターなどの高度な医療の場で「救命救急を究めたい」と考えたためでした。

着任して早速、楽しみにしていたマラソン大会に出場。札幌マラソンや石狩サーモンマラソンでは2位に入賞し、おいしい副賞もいただきました。また、治療を担当した患者さまとの再会や、沿道の方が「浜仁会、頑張れ!」と声をかけてくださったことなど、思わぬ感動や驚きもありました。

今年は15のレースに出場する予定です。勤務のこともあり、なかなか道外の大きなレースには参加できませんが、いつかは東京マラソンや福岡国際マラソンなどのメジャーな大会でも走ってみたいです。



レースには「手稲浜仁会」ネーム入りウェアで出場。北海道マラソンや札幌国際ハーフマラソンに参加したときには女子のトップ選手と並走する様子がテレビ中継されて話題になったこともありました



レース入賞で手にしたメダルの数々。副賞として特産品などをもらうことも多く、それも楽しみの一つになっています



札幌ドームで開催された6時間リレーマラソンは、手稲浜仁会病院から100人以上が参加。職員が一体になって盛り上がりました



書に向き合っていると無心になれる。
自分をリセットできる大切な時間です。

定山溪病院
看護部 師長
大高 麻紀子

小学校から高校まで書道を習っていました。看護師になってからは「いつかまた始めたい」と思いつつ、なかなかきっかけがありませんでした。そんな時、高校時代の書道部の顧問で、現在は書道家の恩師から「またやってみないか」と誘っていただきました。初歩からやり直すつもりで、その先生の教室に通い始めました。

今は、自宅で時間を見つけては練習するようにしています。大きな作品になると、1枚書くのに1時間もかかることがあるため、集中力が必要ですし、苦しいと思うこともあります。でも、上達できる喜びや、新しい表現に挑戦する楽しさが支えになっています。何より良かったのは、書いていると無心になり、リフレッシュできることでした。

当病院のロビーには、入院患者さまの書道の作品が展示されています。ご自分の作品を見ている患者さまが「この線がすごくいいですね」と声をかけたりもします。必ずいいところを見つけて褒める、というのも、書道の師匠から学んだ姿勢です。目標は北海道書道展などで上位に入賞すること。もっと大きな作品にもチャレンジしながら研鑽を積み、ゆくゆくは書道師範をめざしたいと思っています。



大高師長は2012年と2013年の北海道書道展において秀作を受賞。今年はさらに上位入賞をめざして、作品の制作に取り組んでいます



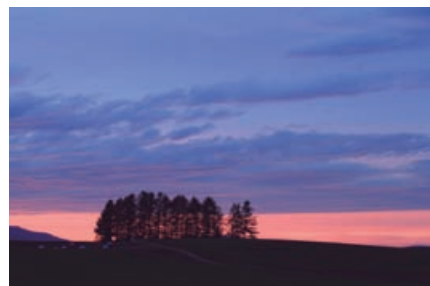
風景や航空機の撮影から始まった趣味が
今では仕事にも役立っています。

札幌西円山病院
経営管理部 サプライサービス課
リーダー
加藤 孝司

「ドライブ中に見た美しい風景をカメラに収めたい」。そんな思いから写真撮影を始めたのが8年前でした。最初はコンパクトデジカメでしたが、表現力を求める気持ちが強くなり、一眼レフカメラを購入。美瑛の風景や大好きな航空機など、本格的に撮影する楽しさを知ったことで、もっとうまく撮影したい、と考えるようになりました。

撮影の技術は、基本的には独学ですが、最近ではSNSなどを通じてプロのカメラマンからアドバイスを受けることもあります。パソコンでレタッチはしないので、その分、いかにイメージ通りに撮るかを工夫するようにしています。

2009年に当病院が名称変更をした際、病院の外観撮影を依頼されました。そのことをきっかけに、パンフレットやパネルなどの撮影も担当するようになりました。思わぬかたちで趣味を仕事に活かせることになり、周りにも喜んでもらえるので、とてもやりがいを感じています。現在、当病院では施設改修を進めていますが、いつかは患者さまに風景写真などを見てもらえるようなギャラリースペースをつくれたら、という夢を抱いています。



ドライブなどで訪れた美瑛や富良野の風景に心引かれたのが、写真をはじめたきっかけでした。平日は円山公園など札幌市内での撮影を楽しんでいます



野球とソフトボールは意欲の源。
仕事も趣味も頑張っていきたい。

手稲溪仁会病院
経営管理部 総務課
目黒 誉也

2011年に手稲溪仁会病院に入職し、職員研修や健診、こどもデイサービスに関する業務を担当しています。周囲から感謝されることも多く、仕事の環境はとても充実しています。

私は中学生時代に野球部だったこともあり、車椅子での生活になってからも、「また野球がしたい」と思っていました。当病院に入職した年に、江別市に車椅子野球のチームがあることを知り、すぐに入部したのですが、このことをきっかけに生活が一変。仕事をはじめ何ごとにも意欲的になり、日頃から自主トレや筋力アップに取り組むようになりました。大好きだった野球ができていること、多くの仲間と協力しながらスキルを磨けることが支えになっています。

現在は、車椅子野球から車椅子ソフトボールに力を入れています。まだマイナーなスポーツですが、毎年競技人口は増え続け昨年から北海道で車椅子ソフトボール選手権が開催されるようになりました。夢は、この競技を多くの人に知ってもらい、パラリンピックの種目になること。私もいつかは全日本チームに選ばれて、海外遠征を経験してみたいと思っています。



目黒さんの所属する「NORTH LAND WARRIORS」は、7月に行われた第2回車椅子ソフトボール選手権に参加。熱戦を繰り広げました



サーフィンとの出会いで人生が変わった。
本当に大切なものに気づくことができました。

社会福祉法人溪仁会
月寒あさがおの郷
施設ケア部 生活支援課
主任・ユニットリーダー
大浦 孝之

私はご利用者さまの生活全般のお世話を担当しています。また主任として、若いスタッフの指導や育成も行っています。

サーフィンを始めたのは今から16、7年前。20代半ばからという、遅めのスタートでした。魅力は、何年経ても飽きのこないおもしろさ。いい波をつかまえるために、知識を駆使して天気図を見たり、風の状況を把握したり。技術面の向上はもちろんですが、自分の読みが当たったときの満足感も楽しさの一つになっています。

私はサーフィンに出合ったことで、考え方や価値観が大きく変わりました。それまでは、すべて思い通りにいくことが重要だ、努力すれば必ず成功できると考えていましたが、サーフィンは海や風の状況次第。自然の力にあらがうことはできず、いつしか「物事にはうまくいかないこともある」と思えるようになりました。そして、お金や社会的な成功より、心や時間を大切にしようと考えようになりました。

サーフィンで学んだことは、仕事にも活かされています。ご利用者さまとのコミュニケーション、若いスタッフを育てるときの姿勢。自分の思う通りではなく、相手を思いやりながら接するようにしています。これからもサーフィンを続けながら、介護に携わる者としても成長していきたいと考えています。



大浦さんのスタイルはロングボード。一年を通して、よほどの悪天候や波の状況が悪いとき以外、休日にはほとんど海に出かけています

社会的責任35年の歩み

溪仁会グループは創立から35年間、患者さま・ご利用者さまを主体とした最良のサービス提供を追求してきました。変革を繰り返しながら組織として永続するために、たどってきたその歩みを振り返ります。

1979

溪仁会グループの第一歩は、西円山病院（現在の札幌西円山病院）の開院でした。1973年に老人医療費が無料化となり福祉元年といわれましたが、当時は適切な介護が確立しておらず、老人病院には陰惨なイメージが付きまといました。西円山病院はこのイメージを変えるため、患者さま本位の医療を行い、明るく家族的な雰囲気の中で患者さまやご家族に喜ばれる「日本一の老人病院」をめざしました。「高齢者医療で一番大切なことは介護に心を注ぐこと」という加藤隆正院長（当時）の理念のもと、医療と介護の切れ目ないサービスを追求していくことになります。



1982年には、前年に設立した社会福祉法人南静会（現在の同溪仁会）初の施設となる特別養護老人ホーム西円山敬樹園が誕生。

1984

病院の供給過多が起こった1980年代半ば、再建をめざしていた定山溪病院と連携を開始。1985年には医療法人溪仁会に改組します。西円山病院では、施設拡充に伴い療養環境改善に着手します。リハビリの充実、病院ボランティア「銀の舟」による活動、シルバー教室による生涯学習や地域社会に向けた介護スクールなどソフト面の充実にも取り組みました。



患者さま中心の医療を実施するために力を入れてきたのが人材育成。専門的な知識や技術、接遇力の向上、チーム力の強化などさまざまなテーマで継続的な教育・研修を今日まで継続しています。

1987

溪仁会グループが進めてきた患者さま主体の医療を、急性期医療においても実現させるために、1987年に基幹病院となる手稲溪仁会病院を開院しました。24時間365日いつでも頼れ、どんな病気でも、どんなに重症でも診療できる病院をめざして診療機能を高めています。



1990

1980年代から高齢化とそれに伴う医療費の増大が問題となり、医療費抑制のさまざまな施策が打たれていきます。しかしもっとも医療費を抑えられるのは、病気にならないこと。病気の予防に向けた保健活動の拠点として1990年に円山クリニック（現在の溪仁会円山クリニック）が誕生します。溪仁会グループは、札幌の医療・保健・福祉の分野で、予防から治療まで、急性期から慢性期まで、施設ケアから在宅ケアまで、すべて提供できる組織をめざし拡大を続けます。



円山クリニックの栄養士による生活習慣病予防の指導。人間ドックなどの健診活動のほか、健康に関する地域への啓発活動にも力を入れてきました。

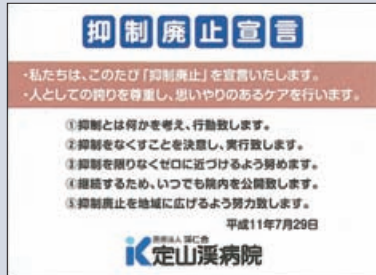
1998

1990年代に入り高齢化はますます進み、入居型介護施設の待機の増加や、介護施設の数の地域差などの問題が大きくなります。介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしたいという需要が高まります。溪仁会グループは1998年の「コミュニティホーム八雲」開設を皮切りに、札幌以外の地域での施設展開を進めていきます。1999年には唯一の道外施設「おしまハーティケアセンター」を宮城県気仙沼市大島に開設しました。



1999

療養をされる患者さまには、「通常の生活を営む権利」があり、医療者の都合で患者さまを抑制してはいけないという考えが広がりはじめます。1999年6月の老人専門医療を考える会シンポジウムで抑制廃止がテーマとなり、同年7月、定山溪病院は抑制廃止宣言を行いました。そして、10月より北海道抑制廃止研究会を立ち上げ、抑制廃止の取り組みを北海道に広げていくことにも力を注いでいます。



2000

介護保険の導入によって、医療・介護はよりサービスの質が問われるようになります。溪仁会グループは、自己満足ではないサービスの質を求め、第三者評価を取り入れようと1999年10月に「ISO宣言」を行います。医療界では数少ない取り組みとしてISO9001（品質管理）、ISO14001（環境管理）の認証登録を2000年より各病院・施設で行い、職員の意識改革・職場改革を促しました。さらに2003年には溪仁会グループ事業理念、サービス憲章を制定し、グループ一丸となって質の高いサービス提供をめざす体制を整えました。

HISTORY

1979年	西円山病院開院（6月11日、正式開院7月1日）
1981年	社会福祉法人南静会設立（12月）
1982年	西円山敬樹園開所（4月）
1984年	定山溪病院との連携開始（開院は1981年5月）
1985年	医療法人溪仁会に改組（1月）

1987年	手稲溪仁会病院開院（12月）
1989年	コミュニティホーム白石開所（4月）
1990年	溪仁会円山クリニック開設（1月）
1993年	はまなす訪問看護ステーション開設（1月）
1994年	西円山病院老人デイケア施設基準認定（9月） 西円山敬樹園ホームヘルパーステーション事業開始
1995年	コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション事業開始（10月）

1996年	カムビル西円山開所・西円山敬樹園デイサービスセンター開設（4月） 定山溪病院老人デイケア施設基準認定（11月）
1998年	コミュニティホーム八雲開所（4月） 株式会社ソーシャル設立（6月）
1999年	デイサービスセンターすまいる開設、ホームヘルパーステーションすまいる事業開始（4月） 訪問看護ステーションおしま開設（5月）

1999年	定山溪病院が抑制廃止宣言（7月） あおばデイサービスセンター開設（12月）
2000年	円山溪仁会デイサービス事業開始（1月） 気仙沼市在宅介護支援センターおしま委託事業開始（2月） コミュニティホーム美唄開所、居宅介護支援事業所事業開始（西円山敬樹園、コミュニティホーム白石、やくも、すまいる）（4月） 手稲溪仁会クリニック開院（5月）

2000年	デイサービスセンターおしま開設（9月） グループホーム白石の郷開所（10月）
2002年	デイサービスセンター白石の郷開設（11月） 手稲溪仁会デイサービス事業開始（4月） グループホーム西円山の丘開所（7月） 豊平溪仁会デイサービス、新琴似溪仁会デイサービス事業開始（8月）
2003年	訪問看護ステーションあおば、青葉ハーティケアセンター開設（4月）
2004年	理事長に秋野豊明就任（4月）

2004年	コミュニティホーム白石ショートステイセンター開所（9月）
2005年	株式会社ハーティワークス設立（1月） 手稲溪仁会病院 救命救急センター指定（3月） ドクターヘリ正式運航開始（4月） おしまハーティケアセンターリニューアルオープン（8月）
2006年	札幌市白石区第1地域包括支援センター、介護予防センター（まえだ、定山溪、円山、曙・幌西、白石中央）事業開始（4月）

2004

2000年代初頭、平成不況の余波を受け、溪仁会グループも経営のあり方を見直しました。その中で2004年に秋野豊明理事長が就任し、それまでのオーナー経営から企業体の組織経営へ転換します。社会・経済・環境の状況に応じステークホルダーのニーズに応える「CSR経営」を掲げ、コンプライアンス体制の確立や環境保全への貢献、広報機能の強化、職員満足度向上にグループを挙げて取り組み始めました。



医療・保健・福祉分野では国内初の取り組みとして、2006年からはCSRレポートの発行を開始。グループを取り巻くステークホルダーへ説明責任を果たし、職員が理念と情報を共有しCSRへの意識を高揚するのに役立っています。



各施設では独自の環境活動を展開し、リングプル収集による車椅子寄贈など地域貢献にもつなげています。また、2008年からはグループ全体から希望者を募り、年1回以上、おたるドリームビーチの清掃活動を実施しています。



手稲溪仁会病院は2001年から米国ピッツバーグ大学の臨床研修プログラムを導入。全国から医師を集め、長期的な人材育成に取り組んでいます。2008年には同大学で更新の調印式を行いました。

2011

2011年3月11日に発生した東日本大震災の際は、災害地である岩手県にDMAT (Disaster Medical Assistance Team) を派遣し医療支援活動を展開。さらに4月から約2カ月にわたり、日本医師会医療災害チーム「JMAT (Japan Medical Assistance Team)」に7チーム41名を派遣し、岩手県山田町で地域医療の再生を支援しました。その後も被災地への支援は、札幌西円山病院の復興者支援ボランティア活動で続いています。

また、被災地である宮城県気仙沼市にある「おおしまハーティケアセンター」は津波で浸水被害を受けましたが、早い段階からご利用者さまのご自宅でケアを実施。同センターの改修工事の完了後、9月12日からデイサービスを再開し、サービス体制を復旧しました。



手稲溪仁会病院は2011年に地域災害拠点病院に指定され、全職員を対象に災害医療勉強会を継続して開催しています。



2012年には社会福祉法人が創立30周年を迎え、さまざまな記念事業を行いました。その締めくくりには、地域貢献につながることで道民の森(当別町)にて植樹活動を行いました。

2004

2005

2009

2011

2012

2014

2005

広大な道内において、救急医療の要となるのがドクターヘリです。2005年に、手稲溪仁会病院を基地病院として、道央ドクターヘリ事業がスタートしました。2002年2月に「北海道ドクターヘリ運航調整委員会」を立ち上げ、冬季運航など北海道独自の課題に挑みながら試験運航を重ね、4年をかけて正式運航に結びつけました。2013年度も427件の出動を行うなど、救急搬送に活躍しています。



2009

医療法人溪仁会は30周年を迎え、より一層の社会貢献として日本のモデルになる事業をめざします。在宅の医療・福祉の重要性が増していることを見据え、地域密着の医療を提供する手稲家庭医療クリニックを開設し、家庭医の育成にも取り組み始めました。さらに診療の継続が困難な道内の公立病院の指定管理者となり、さまざまな機関と連携して地域の医療・保健・福祉サービスを守る活動を進めています。

2012

地域完結型医療が推進され、医療機関は地域での役割をはっきりさせ、機能分化を求められるようになりました。手稲溪仁会病院は開院25年となる2012年に地域医療支援病院に承認され、「Tプロジェクト」(P60参照)により施設の拡充と再編を進め、高度急性期医療の機能強化を進めています。グループ内でも高度急性期とかかりつけ医、回復期、慢性期、終末期までの治療とケア、保健・健康管理、介護・介護予防と、それぞれの役割を果たすすべてのライフステージに対応できる医療・保健・福祉サービス体制を確立しています。



2014

団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、地域包括ケアシステムの構築が急がれています。溪仁会グループは、医療・保健・福祉のシームレスなサービスを提供する、まさに地域包括ケアの担い手たる複合事業体です。グループは創業35周年を迎え、4月から田中繁道理事長が就任し新たな歩みを始めています。グループの社会的使命を全員で見つめ直し、皆さまから信頼され、新たな時代のモデルとなるサービスを追求し続けていきます。

2007年 ケアセンターこころ事業開始、コミュニティホーム岩内開設(4月) 手稲溪仁会病院 救命救急センター棟オープン(5月) 地域密着型介護老人福祉施設 菊水こまちの郷開所、小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷開設(7月) 2008年 岩内町地域包括支援センター事業開始(4月) 居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ事業開始(7月)

2009年 社会福祉法人南静会「社会福祉法人溪仁会」へ名称変更(4月) 手稲家庭医療クリニック開院、溪仁会健康保険組合設立(10月) 西円山病院「札幌西円山病院」へ病院名称変更(11月) 2010年 手稲溪仁会病院NICU開設(7月) 訪問看護ステーション岩内開設、泊村立茅沼診療所 指定管理者として運営開始(10月)

2011年 溪仁会マネジメントシステム(KMS)運用開始(4月) 溪仁会円山クリニック 人間ドック健診施設機能評価認定(6月) 月寒あさがおの郷開所(8月) 手稲溪仁会病院 地域災害拠点病院指定、デイサービスセンターまへれ開設(11月) 2012年 社会福祉法人溪仁会 経営理念策定、岩内ふれ愛の郷開所(4月)

2012年 コミュニティホーム岩内 ケアプランセンターさつき事業開始(5月) 円山ハーティケアセンター ケアプランセンターこころ まるやま事業開始(7月) 手稲溪仁会病院 地域医療支援病院承認(10月) 医療法人本部 溪仁会ビルへ移転(11月) 2013年 溪仁会在宅ケア・総合相談センター開設(1月) 手稲溪仁会病院 HCU開設(2月)

2013年 コミュニティホーム八雲 ヘルパーステーション事業開始、喜茂別町立クリニック 指定管理者として運営開始、ケアセンターこころ ようてい開設、札幌市白石区第3地域包括支援センター開設(4月) コミュニティホーム白石 訪問リハビリテーション事業開始(5月) きもべつ喜らめきの郷開所(6月)

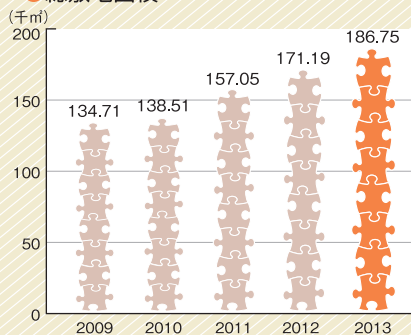
2013年 医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ開設(11月) 2014年 新理事長に田中繁道就任、るすつ銀河の杜開所(4月) 手稲つむぎの杜開所(6月) ショートステイセンターつむぎ事業開始、手稲溪仁会デイサービス織彩事業開始、共用型デイサービス菊水こまちの郷事業開始(7月)

データで見る 溪仁会グループ

2009年度～2013年度の
さまざまな数字の変化から、
溪仁会グループの
5年間の動きをとらえてみました。

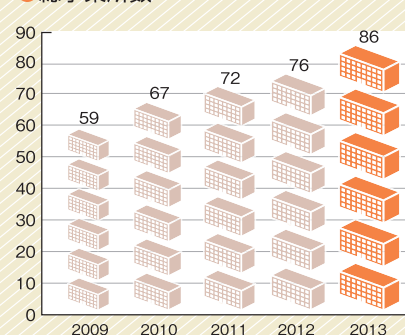
基本データ編

●総敷地面積



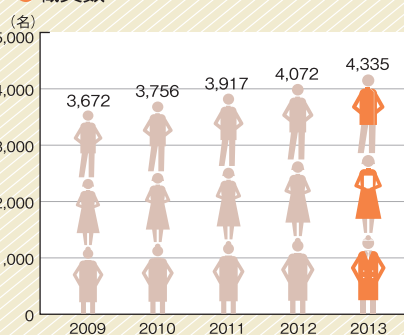
5年間で増えた面積は56,437㎡。札幌ドーム屋内アリーナの面積に換算すると、約4個分増加したことになります。

●総事業所数



指定管理者となった公立診療所、介護施設などの地域への展開や、在宅支援の拠点増加が進んだ5年間でした。

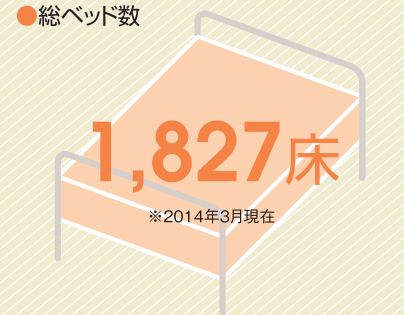
●職員数



道内で地域における医療・介護職の減少が問題になる中、事業所増加に伴い職員数も順調に増やすことができています。

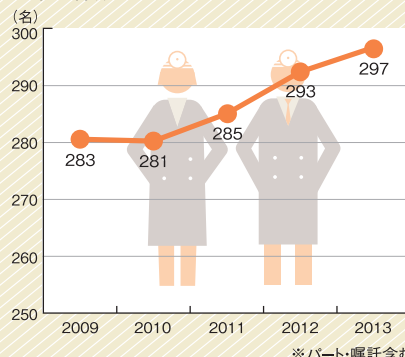
医療法人編

●総ベッド数



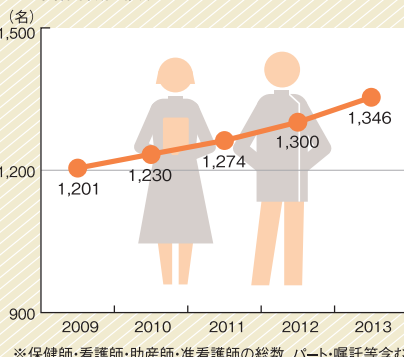
手稲家庭医療クリニックの19床から、札幌西円山病院の854床まで、提供する医療サービスやニーズに合わせたベッド数を備えています。多くのベッドを擁する医療グループとして、社会からの期待に応えながら、サービスの充実を図っています。

●医師数



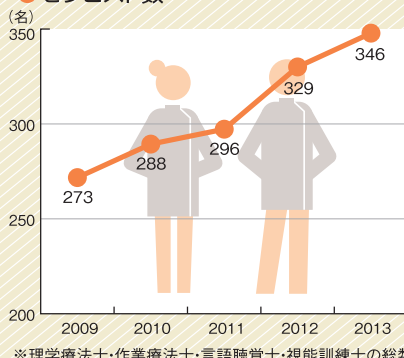
手稲溪仁会病院を中心に、質の高い医療の提供に必要な医師数を確保できています。

●看護職員数



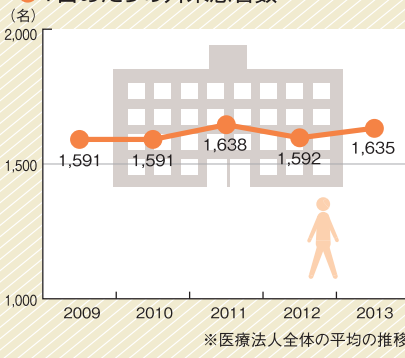
チーム医療の中で専門性が重要となり、専門看護師や認定看護師の資格者が増えました。

●セラピスト数



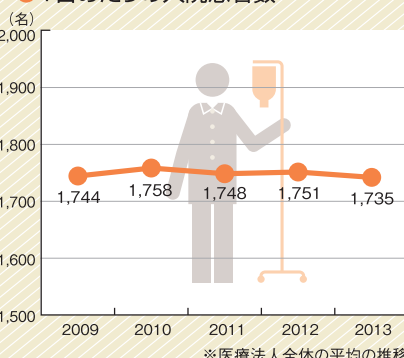
急性期から回復期、慢性期、終末期まであらゆる場面のリハビリを提供しています。

●1日あたりの外来患者数



2014年4月から手稲溪仁会病院は一部を除き完全予約制となり、手稲家庭医療クリニックが外来機能を担っています。

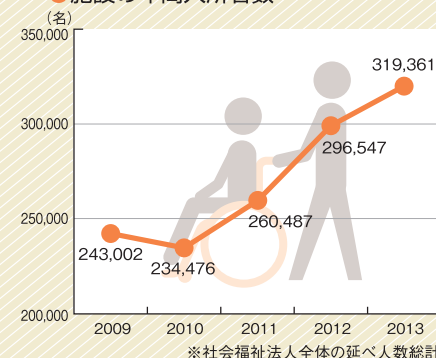
●1日あたりの入院患者数



わずかな上下はあるものの、ここ5年間は安定した数を保っています。

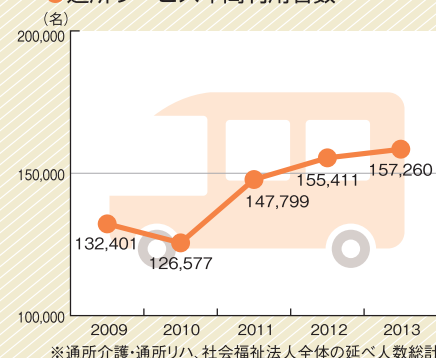
社会福祉法人編

●施設の年間入所者数



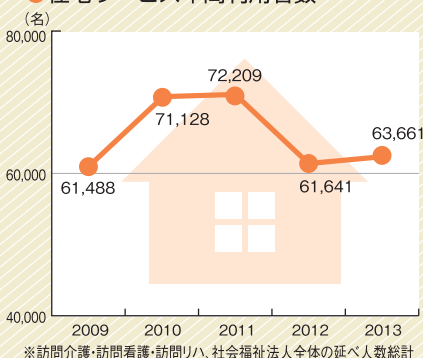
5年間で5施設が新たに加わり、入所者数は増加しています。

●通所サービス年間利用者数



施設の増加に伴い、通所サービスも各地でより充実しています。

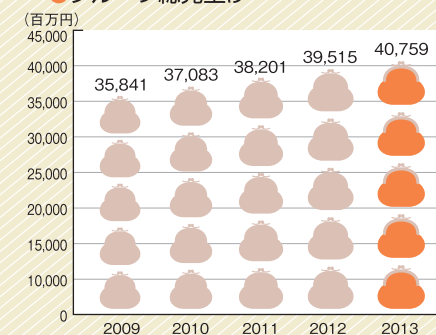
●在宅サービス年間利用者数



介護・看護に加え、訪問リハビリテーション事業もスタートしました。

財務データ編

●グループ総売上げ



●2013年度の各法人の売上げ(単位：百万円)

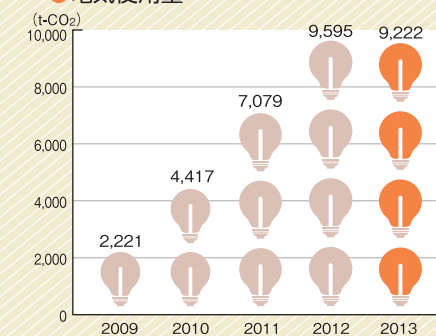
医療法人 溪仁会 経常収益 **34,509** 経常利益 **1,193**

社会福祉法人 溪仁会 経常収益 **5,777** 経常利益 **▲22**

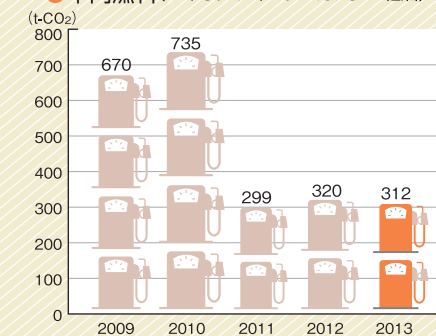
株式会社 ハーティワークス 売上高 **275** 株式会社 ソーシャル 売上高 **198**

環境データ編

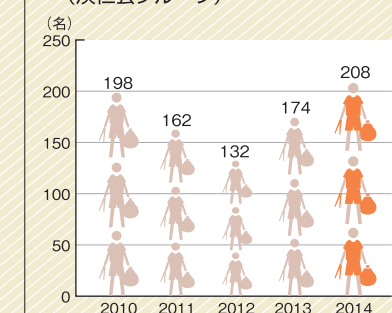
●電気使用量



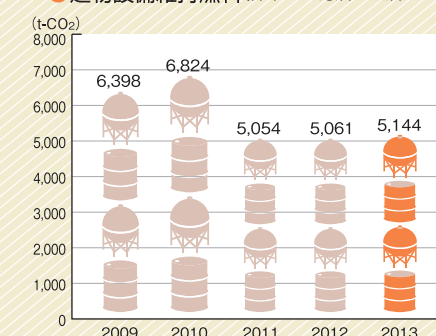
●車両燃料(ハイオク・レギュラーガソリン・軽油)



●おたるドリームビーチ清掃活動参加者(溪仁会グループ)



●建物設備維持燃料(都市ガス・灯油・A重油・LPG)



●省エネルギーの推進

2013年度のエネルギー
総使用量は前年度比
0.2%減

※2013年度/医療法人

●集めたゴミ

45リットル袋
400袋分

環境負荷のデータはすべて医療法人のみ。医療の高度化によって電気使用量などの増加はやむを得ないですが、グループ全体でさまざまな環境活動に取り組んでいます。

溪仁会グループ施設運営概要

P74 医療法人稲生会
生涯医療クリニックさっぽろ
訪問看護ステーションくまさんの手
居宅介護事業所くまさんの手
短期入所事業所どんぐりの森

P59 手稲溪仁会クリニック

医療法人 湊仁会 法人本部

P73 手稲溪仁会ハーティケアセンター
相談室 ころ ていね

P75 溪仁会健康保險組合

P61 手稲家庭医療クリニック
はまなす訪問看護ステーション

P70 手稲つむぎの杜
 ショートステイセンターつむぎ
 手稲溪仁会デイサービスつむぎ
 手稲溪仁会デイサービス織彩
 溪仁会在宅ケアセンターつむぎ
 札幌市手稲区介護予防センターまえた

P59 手稻溪仁会病院

P75 ソーシャルヘルパー

P75 ソーシャルヘルパー
サービス中央

P72 カームヒル西円山

P62 札幌西田山病院

P66 西門山敬樹園
西門山敬樹園 ショートステイセンター
札幌市中央区介護予防センター 円山
札幌市中央区介護予防センター曙・幌西
西門山敬樹園 デイサービスセンター
居宅介護支援事業所 西門山敬樹園
西門山敬樹園 ホール ヘルパーステーション

P64 溪仁会円山クリニック

P73 円山ハーティケアセンター
ケアプランセンター ころも まるや
円山溪仁会デイサービス

P73 豊平ハーティケアセンター
豊平深仁会デイサービス

月寒あさがおの郷
あさがおの郷ショートステイセンター
あさがおの郷デイサービスセンター

P69 菊水こまちの郷
小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷
共用型デイサービス菊水こまちの郷

P73 新琴似ハーティケアセンター
新琴似湊仁会デイサービス

指定居宅介護支援事業所ケアプランセンター
ケアセンター

P71 コミュニティホーム白石
グループホーム白石の郷
コミュニティホーム白石ショートステイセンター
札幌市白石区第1地域包括支援センター
札幌市白石区介護予防センター白石中央
介護支援センター白石の郷
居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石
コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション

札幌市白石区第3地域
包括支援センター

P75 (株)ハーティワークス

P73 青葉ハーティケアセンター
指定居宅介護支援事業所あおば
あおばデイサービスセンター
訪問看護ステーションあおば

札幌市定山溪地区

P63 定山溪病院
札幌市南区介護予防センター一定山溪
定山溪病院在宅ケアセンター

八雲町

P71 コミュニティホーム八雲
居宅介護支援事業所やくも
コミュニティホーム八雲
ホームヘルプステーション

喜茂別町

P67 きもべつ喜らめきの郷
ケアセンターこころ ようてい

P65 喜茂別町立クリニック

泊村茅沼地区

P65 泊村立茅沼診療所

留寿都村

P67 るすつ銀河の杜

美唄市

P72 美咲市東地区生活支援センター すまいる
 デイサービスセンターすまいる
 居宅介護支援事業所すまいる
 ホームヘルプステーションすまいる

P71 コミュニティホーム美唄

岩内町●
役場

P68 岩内コミュニティの丘
 岩内ふれ愛の郷
 コミュニティホーム岩内
 岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター
 岩内町地域包括支援センター
 通所リハビリテーション
 事業所内保育所ゆいまーる
 訪問看護ステーション岩内

气仙沼市

P72 おおしまハーティケアセンター
 おおしまショートステイセンター
 気仙沼市在宅介護支援センターおおしま
 デイサービスセンターおおしま
 訪問看護ステーションおおしま
 ホームヘルパーステーションおおしま

●…医療法人溪仁会 ○…社会福祉法人溪仁会 ○…関連会社等

※病院・施設一覧はP82・P83をご覧ください。



手稲溪仁会医療センター

TEINE KEIJINKAI MEDICAL CENTER



沿革

- 1987年 12月 手稲溪仁会病院開院
- 1988年 7月 救命病院指定
- 1990年 3月 総合病院承認
- 1997年 4月 厚生省臨床研修病院指定
救急部開設
- 1998年 4月 メディカル手稲開設
- 1999年 7月 開放型病床承認
- 2000年 5月 手稲溪仁会クリニック開院
- 2001年 2月 ISO9001 審査登録
4月 北米方式臨床研修システム導入
- 2005年 3月 救命救急センター指定
4月 ドクターヘリ正式運航開始
9月 日本医療機能評価機構認定
- 2006年 4月 DPC対象病院指定
- 2007年 5月 救命救急センター開設
11月 地域連携福祉センター開設
脳卒中ケアユニット開設
12月 外来化学療法室開設
- 2008年 4月 小児NIVセンター開設(2012年4月小児
在宅医療・人工呼吸器センターに改称)
がん治療管理センター開設
- 2009年 4月 地域がん診療連携拠点病院指定
10月 手稲家庭医療クリニック開院
- 2010年 7月 NICU開設
- 2011年 11月 地域災害拠点病院指定
- 2012年 10月 地域医療支援病院承認
- 2013年 2月 HCU開設

治療と ケア

手稲溪仁会病院

〒006-8555 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 TEL 011-681-8111 <http://www.keiinkai.com/teine/>

地域を守る中核病院として、より高度な急性期医療に挑む。

手稲溪仁会病院は、2012年10月に「地域医療支援病院」の承認を受けたことで、医療機関との連携や機能分化を進め、地域の医療に貢献する活動を強化しています。その一環として、2014年4月から外来診療を一部を除き予約制に移行しました。患者さまにはご不便をおかけすることがないよう、「受診相談コーナー」を設けてきめ細かな対応を図っています。

施設面やサービス面の増強は、Tプロジェクト(P60参照)によって計画的に進めています。ハード・ソフト両面を充実させることで先進的な医療を実現し、また、スタッフのキャリアアップへの支援も行うことで、医療の質の向上をめざしています。

当病院は、これからも最先端医療の提供や新たな医療サービスの展開などに取り組み、地域の医療や生命を支え、守るという使命を果たしていきます。

2013年度 診療概要

- 1日平均外来患者数……………735名
- 地域別外来患者数
札幌市 7,456名(手稲区4,896名、
西区1,179名、北区620名、その他
761名)／石狩市883名／小樽市903
名／その他道内989名／道外102名
(合計10,333名)
- 1日平均入院患者数…………… 519名
- 地域別入院患者数
札幌市904名(手稲区533名、西区158名、
北区98名、その他115名)／石狩市125
名／小樽市136名／その他道内240名／
道外19名 (合計1,424名)
- 月平均新入院患者数 ……………1,423名

- 平均在院日数…………… 10.1日
- 病床稼働率…………… 92.4%
- 紹介率…………… 72.4%
- 逆紹介率…………… 54.5%
- 救急患者数 …………… 22,496名
(内救急車／ヘリ搬送患者数……………4,564名)
- ドクターヘリ要請件数 …………… 619件
- ドクターヘリ出動件数 …………… 427件
- 年間手術件数…………… 8,478件
- 年間消化器内視鏡検査数 …………… 19,811件
- 年間分娩件数…………… 528件
- NICU稼働率 …………… 101.4%
- クリニカルパス施行数 …………… 7,328件
- クリニカルパス施行率 …………… 49.3%
- クリニカルパス種類 …………… 190種類

DATA

- 病床数 …………… 562床
内 救命救急センター …………… 19床
ICU(集中治療室) …………… 12床
HCU(ハイケアユニット) …………… 12床
SCU(脳卒中ケアユニット) …… 9床
NICU(新生児特定集中治療室)… 3床
小児入院医療管理算定病床 …… 25床

●診療科目

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・外科・呼吸器外科・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・精神保健科・リウマチ科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・麻酔科・歯科・口腔外科・小児歯科・血液内科・腎臓内科・消化器外科・頭頸部外科・放射線診断科・放射線治療科・病理診断科・救急科・腫瘍内科

●主な特徴

厚生労働省指定 臨床研修病院
厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
北海道指定 地域災害拠点病院(地域災害医療センター)
北海道指定 地域医療支援病院
ISO9001認証(審査登録)

●職員状況

職員数：1,524名
医師222名(研修医・歯科医含む)、看護師・准看護師723名、薬剤師41名、リハビリスタッフ49名、診療放射線技師31名、臨床検査技師31名、臨床工学技師18名、管理栄養士・栄養士15名、他医療技術職24名、社会福祉士19名、経営管理部門職218名、看護助手87名、その他46名

※2014年3月31日現在

治療と ケア

手稲溪仁会クリニック

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 TEL 011-685-3888



手稲溪仁会医療センターの外来部門を受け持つクリニックです。現在は12の診療科において、本院である手稲溪仁会病院と連動した質の高い医療を提供しています。外来診療に特化することで、患者さまにはよりスムーズに受診していただける体制を築いています。今後も機能面の強化や設備の見直しなどを図りながら、地域の皆さまに支持される医療サービスをめざしていきます。

DATA

- 病床数 …………… 無床
- 診療科目
内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・

リウマチ科・小児科・外科・形成外科・皮膚科・眼科・血液内科・腎臓内科
●主な特徴
ISO9001認証(審査登録)

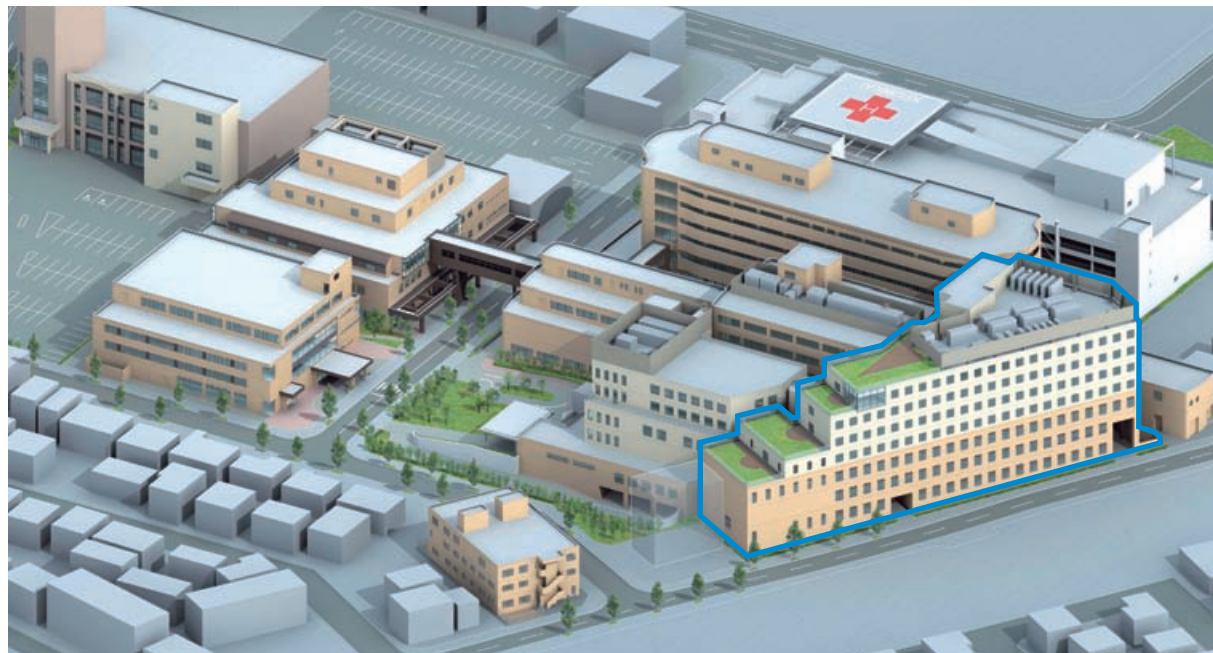
●職員状況

職員数：96名 医師3名、看護師・准看護師32名、薬剤師2名、その他59名

2013年度 診療概要

- 1日平均外来患者数…………… 632名
- 地域別外来患者数
札幌市7,605名(手稲区5,403名、西区1,012名、北区600名、その他590名)／石狩市973名／小樽市1,016名／その他道内1,041名／道外99名(合計10,734名)

※2014年3月31日現在



右斜め下の青枠の建物が、現在建設中のF棟

施設の拡充と再編によってより高度な急性期医療体制を築く ～手稲溪仁会医療センター・Tプロジェクト～

施設の増床や改修によって 医療体制と療養環境の充実を図る

手稲溪仁会医療センターでは、先進医療への対応と医療体制の充実を推進するために、新設備の導入や既存施設の改編・改修などを継続的に行っています。2012年度には、溪仁会ビルやHCU（ハイケアユニット）の開設、2013年度にはハイブリッド手術室の開設を行ったほか、本プロジェクトの中心となる新棟「F棟」の工事を開始しました。また、今年度はE棟5階の改修を行い、10月に新病棟（21床）を開設しました。

建設中のF棟は地下2階地上8階建てで、延べ床面積は13,695㎡。そのうち2階から7階に195床の病棟を開設予定です。これによって既存の2人床と5人床を廃止し、個室と4人床に改修。2017年春には全体の病床数が670床となり、入院患者さまの療養環境の改善とアメニティの充実が、さらに強化されます。

外来の患者さまに対しては、A棟1階にある紹介外来を改編し、「患者サポートセンター（仮称）」を開設する予定です。同センターは2016年からの始動を予定しており、入院に伴う検査や準備をワンストップで行うことが可能になります。

●Tプロジェクトとは

溪仁会グループの各病院や法人では、組織運営や施設整備などにかかわる事業計画を5年単位で立案し、プロジェクトを遂行しています。手稲溪仁会医療センターでは、この中期事業計画をセンター名の頭文字のTをとり「Tプロジェクト」と名付けています。地域の皆さまから信頼される医療体制の構築と、より質の高い医療サービスの提供をめざし、さまざまな取り組みを進めています。

高度かつ専門的な医療を推進し 急性期病院としての機能を強化

F棟の完成は2016年初頭を予定しています。これに伴って、手稲溪仁会医療センターは医療の質だけでなく、機能面や利便性においても飛躍的に進化します。

施設面では既存のICUやSCU（脳卒中ケアユニット）などの集中治療部門の病床数を増やし、高度な急性期治療を必要とする患者さまへの対応を強化。さらに救命救急センターの機能拡充を図るほか、手術室も3室増やし、より迅速な治療体制を整えます。これらと同時に、医療機器の更新や新規導入、施設レイアウトの改善なども行い、先進性の高い急性期医療の充実に向けて環境を整備していきます。

大きな変更としては、2017年に手稲溪仁会クリニックを本院である手稲溪仁会病院に統合し、外来診療を一本化することが決まっています。現在の診療科はそのまま維持し、より質の高い医療の提供をめざします。クリニックが閉院した後の建物には、高度かつ専門的ながん検診センターなどを開設する予定です。

Tプロジェクトは今後も継続され、急性期病院としての機能拡充を推進していきます。北海道の医療に貢献し、地域から信頼されるための取り組みは続きます。

治療と
ケア

手稲家庭医療クリニック

〒006-0812 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 TEL 011-685-3920 <http://www.keiinkai.com/teine-karinpa/>



多様な医療の提供で地域のニーズに応える。

手稲家庭医療クリニックは、家庭の“かかりつけ医”として、あらゆる年代、さまざまな疾患の患者さまの診療に対応しています。また、ターミナル期の患者さまのための入院病棟と、訪問看護ステーションを併設し、地域の医療ニーズに応えています。

一昨年より在宅医療への取り組みを推進しており、地域に向けた普及活動や連携体制の整備などを進めています。在宅医療に対するニーズの増加傾向も続いており、手稲区のほか、隣接する石狩市、小樽市でも訪問診療を行っています。専門のスタッフがチームでケアにあたり、患者さまやご家族に安心していただける体制を築いています。

地域に根差した外来診療部門は、よりスムーズな診療の実現をめざし、院内体制の充実に取り組んでいます。

DATA

- 開設
2009年10月
- 診療科目
内科、小児科、産婦人科
- 病床数……………19床
- 主な特徴
在宅療養支援診療所（機能強化型）、有床診療所緩和ケア診療加算基準施設、はまなす訪問看護ステーション併設、平成24年度厚生労働省在宅医療連携拠点事業実施機関、日本プライマリケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム実施
- 職員状況
職員数：50名
医師4名、看護師17名、看護助手7名、薬剤師1名、管理栄養士1名、技術員7名、その他13名

沿革

2009年 10月 手稲家庭医療クリニック開設
2012年 4月 在宅医療連携拠点事業指定

2013年度 診療概要

- 外来延べ患者数 …… 20,035名
- 訪問診療（往診含）延べ
患者数…………… 2,067名
- 入院延べ患者数…………… 4,448名
- 予防接種実施人数…………… 2,544名

※2014年3月31日現在



札幌西円山病院

〒064-8557 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 TEL 011-642-4121 <http://www.keijinkai.com/nishimaruyama/>



DATA

●稼働病床数…………… 821床
内 介護療養型医療施設…………… 306床
医療療養病床…………… 191床
医療一般病床…………… 237床
回復期リハビリテーション病棟
…………… 87床

●診療科目

内科・神経内科・リハビリテーション科・循環器
内科・歯科

●主な特徴

日本医療機能評価機構認定病院（療養）、
ISO9001認証（審査登録）、通所リハビリ・居
宅介護支援事業所併設 など

●職員状況

職員数：923名
医師39名（歯科医含む）、看護師・准看護師
286名、薬剤師14名、医療技術職209名、介
護福祉士94名、事務職員89名、その他192名

沿革

1979年 6月 西円山病院開院
1990年 7月 医療福祉サービスセンター開設
12月 患者家族の会設立
2000年 6月 NSTチーム(nutrition
support team)立ち上げ
2001年 1月 ISO9001審査登録
2007年 3月 日本医療機能評価機構認定
10月 院内保育所
「西円山ピッコロ保育園」新築
2009年 11月 札幌西円山病院に改称
2012年 10月 「リハビリテーション・ケア合同
研究大会 札幌 2012」開催
（参加者2,187名）
2014年 4月 病院長に浦信行就任(5代目)



時代に応じた医療を追求し、新たな価値を創る。

札幌西円山病院は高齢者医療やリハビリテーション医療を中心に、質の高い医療とケアを行っています。患者さまは脳血管疾患や認知症、神経難病、骨折の方が多く、疾患に応じて専門的な医療やリハビリテーション、看護を組み合わせ提供しています。

現在、院内環境を改善するため、継続的に改修工事を実施しています。昨年から今年にかけては浴室の改修工事を行い、入院患者さまのアメニティ向上を図りました。今後は、病室のリモデルにも着手し、より快適な療養環境に向けて改修を進める予定です。

現代は高齢者医療への対応が大きなテーマとなっています。当病院ではこれまで取り組んできた医療サービスの質はそのままに、これからはさらに高度な医療体制やケアの構築を視野に入れています。時代のニーズを捉えながら、積極的な治療を取り入れるなど、新しい高齢者医療の創造に取り組んでいきます。

2013年度 診療概要

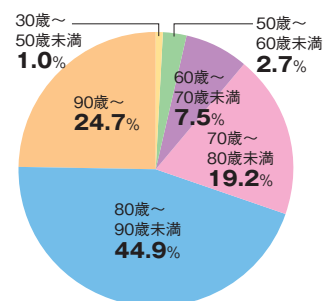
- 入院延べ患者数……………823名／日
- 外来延べ患者数……………125名／日
- 入院患者平均年齢……………82.4歳
- 患者分類別状況

医療療養病床入院患者 医療区分1／
7.1%、医療区分2／28.1%、医療区分3
／64.8%

介護療養病床入院患者 平均要介護度3.9

- 地域別患者数 札幌市686名（中央区251名、西区124
名、その他311名）／石狩37名／後志24名／空知34名／胆
振・日高13名／その他道内 19名／道外 2名（合計815名）

■年齢別入院患者数比



※2014年3月31日現在

定山溪病院

〒061-2303 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 TEL 011-598-3323 <http://www.keijinkai.com/jyouzankei/>



DATA

●稼働病床数…………… 386床
内 医療療養病床…………… 245床
医療一般病床
（特殊疾患病棟）…………… 141床

●診療科目

内科・神経内科・リハビリテーション科・歯科

●主な特徴

日本医療機能評価機構認定病院（慢性期病
院）、ISO9001認証（審査登録）、慢性期医
療認定病院、通所リハビリ、居宅介護支援事
業所、介護予防センター併設 など

●職員状況

職員数：334名
医師14名（歯科医含む）、看護師・准看護師
115名、作業療法士31名、理学療法士19名、
言語聴覚士11名、放射線・臨床検査技師2
名、薬剤師7名、管理栄養士3名、歯科衛生士
3名、ケアワーカーほか101名、事務職員28名

沿革

1981年 5月 定山溪病院開院
1996年 10月 新棟完成
1998年 11月 日本医療機能評価機構認定
1999年 7月 抑制廃止宣言
2001年 1月 ISO9001審査登録
2006年 10月 新々棟完成
2010年 5月 慢性期医療認定病院
2013年 9月 機能種別版評価項目「慢性
期病院」認定



医療の質の向上を図り、慢性期病院のモデルとなる。

定山溪病院は、専門的な医療や看護、リハビリテーションなどが必要な患者さまに、質の高い慢性期医療を提供しています。これまでに身体拘束廃止や終末期医療など、他の病院の先駆けとなる取り組みを行い、全国でも高い評価を受けてきました。

近年は、高齢者医療に対する考え方が多様になり、地域と連携した包括的なケアが求められています。当病院ではご自宅や福祉施設、高齢者住宅などに対する医療支援を行うと同時に、入院患者さまにも次のステップに向けた支援や提案を行っています。また、訪問診療や訪問リハビリも重視し、体制の強化を図っています。

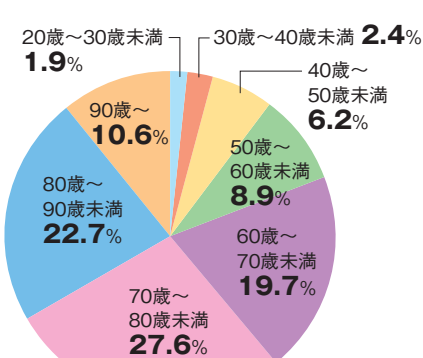
当病院の社会的使命は、慢性期医療のあるべき姿を示し、そのモデルとなることです。ハード・ソフト両面において、さらなる質の向上に取り組み、皆さまから「選ばれる病院」であり続けることをめざしています。

2013年度 診療概要

- 入院延べ患者数……………381名／日
- 外来延べ患者数……………37名／日
- 入院患者平均年齢……………71.3歳
- 地域別患者数

札幌市293名（南区144名、その他149
名）／後志25名／空知14名／石狩16
名／胆振・日高7名／網走・宗谷6名／
上川・留萌3名／渡島・松山2名／道外4
名（合計370名）

■年齢別入院患者数比



※2014年3月31日現在

溪仁会円山クリニック

〒064-0820 札幌市中央区大通西26丁目3-16 TEL 011-611-7766 <http://www.keijinkai.com/maruyama/>



DATA

●機能

健康診断専門施設 病床数6床(宿泊ドック利用)

●事業

人間ドック(日帰り、1泊2日)の実施、各種健診(生活習慣病健診、一般健診、特定健診)の実施、特殊検診の実施、保険診療(生活習慣病外来、禁煙外来、再検査)の実施、ヘルスサポート(保健指導、栄養指導、運動指導、体力測定)の実施、自治体が所有する保健施設の運動指導業務の受託

●主な特徴

人間ドック健診施設機能評価認定施設、優良総合健診施設、運動型健康増進施設、委嘱人間ドック専門医制度研究施設、委嘱専門医制度研修施設、マンモグラフィー検診施設 画像認定施設、生活習慣病予防健診実施施設、ISO9001認証取得 など

●職員状況

職員数：123名
医師4名、看護師14名、医療技術職24名、メディカルクラーク7名、保健師5名、管理栄養士3名、健康運動指導士5名、運動指導員10名、事務職員51名

※2014年3月31日現在

沿革

1990年 1月 円山クリニック開設
2001年 2月 ISO9001審査登録
2002年 4月 溪仁会円山クリニックに名称変更
2010年 6月 生活習慣病外来・禁煙外来を設置
2012年 7月 メディカルフィットネス開設

検査の精度向上と充実した設備で健康の維持に貢献。

病気の早期発見と予防のための人間ドックや各種健康診断を専門に実施し、結果に基づく生活習慣改善指導などを通して、地域の健康維持・増進に貢献しています。さらに、地方での住民健診や企業と提携した産業医活動など、幅広い活動を行っています。

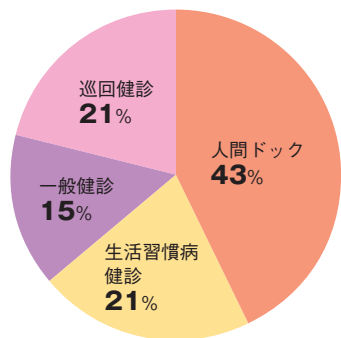
近年は、アメニティの向上をめざし、施設の改修を進めてきました。2013年度は、婦人科検診フロアと3階待合フロアの改修工事を実施。今年度は2階検診フロアの改修工事を行う予定です。また、検査体制の充実に向け、今年5月には最新のデジタルマンモグラフィー装置を導入するなど、検査精度のさらなる向上に取り組んでいます。

現在は受診者一人ひとりのニーズに合わせたオーダーメイド健診の促進など、健康を守る取り組みを強化しています。皆さまに信頼していただける検診施設をめざし、一層のサービス改善を図っていきます。

2013年度 診療概要

■健診別受診者数比

- 人間ドック……………16,611名
- 生活習慣病健診……………8,415名
- 一般健診……………5,915名
- 巡回健診……………8,434名
- 契約団体数
保険者約380団体、事業所約2,000団体
- オプション検査数
婦人科(乳がん、子宮がん、卵巣がん) 14,563件／CT(頭部・胸部・腹部) 3,579件／その他(胃カメラ、前立腺マーカー、骨粗しょう症ほか)約28,500件



※2014年3月31日現在



泊村立茅沼診療所

〒045-0202 古宇郡泊村大字茅沼村711-3 TEL 0135-75-3651 <http://www.keijinkai.com/tomarimura/>



DATA

●診療科目

内科、循環器科、呼吸器科、消化器科

●主な特徴

指定管理者制度により運営(公の施設の管理・運営を、企業や法人などが代行する制度)

●職員状況

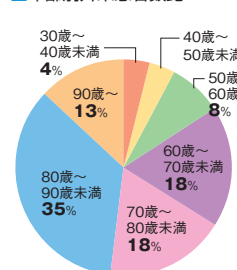
職員数：9名 医師1名、看護師4名、放射線技師1名、事務職員3名

泊村唯一の診療所である泊村立茅沼診療所は、2010年10月から、医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院が指定管理者となり、運営をスタートさせました。一日平均44名ほどの外来診療や健診、ワクチン接種などに対応。CT(コンピュータ断層撮影)やMRI(核磁気共鳴画像法)をはじめとした、医療機器の充実ぶりも特徴のひとつです。そのほか、保育所や小中学校での健診や、隣接する養護老人ホーム・特別養護老人ホームでの診察を担うなど、茅沼診療所は地域医療の拠点となっています。

2013年度 診療概要

- 外来患者延べ数……………10,602名
- 1日平均外来患者数……………43.5名

■年齢別外来患者数比



※2014年3月31日現在

喜茂別町立クリニック

〒044-0201 虻田郡喜茂別町字喜茂別13-3 TEL 0136-33-2225 <http://www.keijinkai.com/kimobetsuclinic/>



DATA

●診療科目

内科、外科

●主な特徴

指定管理者制度により運営(公の施設の管理・運営を企業や法人などが代行する制度)

●職員状況

職員数：11名 医師3名(非常勤含む)、看護師3名、事務職員4名(非常勤含む)、用務員1名

医療法人溪仁会を指定管理者とし、運営を手稲家庭医療クリニック(P61参照)がサポートする診療所です。地域の「かかりつけ医」として、あらゆる疾患の初期診療のほか、身近な健康の悩みに対応しています。自治体や地域の保健師など地域社会と連携しながら、予防接種や健康診断などの保健活動も実施。家庭医療専門医の実践の場として人材育成にも取り組んでいます。

喜茂別町立クリニックのめざすもの

- 身近な悩みに対応
- ひらかれたクリニック
- 町と一緒に
- 日本、世界のモデルとなる地域へ

2013年度 診療概要

- 患者延べ数……………9,273名
- 内 外来……………8,037名
- 在宅……………27名
- 施設……………1,209名

- 保健予防活動……………1,896名
- 内 予防接種……………1,390名
- 健康診断(事業所健診)……………83名
- バースデイ健診……………47名
- 学校内科健診……………134名
- 学校心臓健診……………29名
- 保育園健診……………100名
- 乳幼児健診……………113名

※2014年3月31日現在

西円山敬樹園

〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 TEL 011-631-1021 <http://keijinkai.com/keijuen/>

DATA

- 開設 1982年4月
- 定員
- 施設入所 …………… 123名
- 短期入所生活介護…………… 14名
- 通所介護…………… 35名
- 主な特徴
- ISO9001認証（審査登録）、指定居宅介護支援事業所、居宅介護支援事業所、訪問介護・介護予防センター・ホームヘルパーステーション・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）など
- 協力医療機関
- 札幌西円山病院

沿革

- 1982年 4月 西円山敬樹園開設
- 1994年 10月 西円山敬樹園ホームヘルパーステーション開設
- 1996年 4月 西円山敬樹園デイサービスセンター開設
- 2000年 4月 居宅介護支援事業所西円山敬樹園開設
- 2002年 7月 グループホーム西円山の丘開設
- 2007年 4月 ケアセンターこころ開設
- 2008年 7月 指定居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ開設

多様なニーズに応え、安らぎと安心のサービスを。

西円山敬樹園は、社会福祉法人溪仁会（当時は南静会）初の施設として1982年に開設した特別養護老人ホームです。以来、日常生活の介助が必要なご高齢の方に、きめ細かいケアを提供してきました。

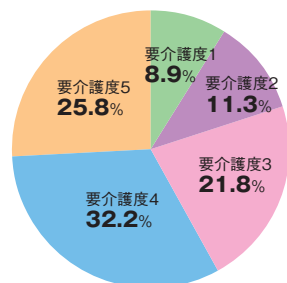
当園は札幌西円山病院に隣接し、スムーズに医療サポートを受けられる環境が支持されています。また、長年積み重ねてきた豊富な経験と知識、ご利用者さま一人ひとりに心を配る職員の努力などによって、質の高いサービスを実現しています。施設やサービス体制などを見直しながら、ご利用者さまに「安らぎと安心」を感じていただける施設であるよう努力していきます。

近年は、福祉施設においても地域社会とのコミュニケーションが重視されています。当園も積極的に近隣住民の方々との交流を図り、地域から信頼され、頼りにされる施設づくりをめざしています。



2013年度 運営概要

■要介護度別入居者構成比



●職員状況

職員数：165名
医師、看護職員、介護員、介護支援専門員、生活相談員、療法士ほか

●研修参加・実施状況

外部研修参加139回延べ50名、内部研修延べ423名、その他各部署にて実施

●2013年度実績

入所：120.2名／日 短期入所生活介護：8.0名／日 通所介護：21.3名／日 訪問介護：21回／日（ケアセンターこころ21.2回／日） 居宅介護支援：延べ1,203件、（ケアプランセンターこころ延べ1,343件） 介護予防センター延べ相談件数：円山177件、曙・幌西202件

※2014年3月31日現在

きもべつ喜らめきの郷

〒044-0221 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 TEL 0136-33-2711 <http://www.keijinkai.com/kirameki/>

DATA

- 開設 2013年6月1日
- 定員
- 施設入所 …………… 80名
- 協力医療機関
- 喜茂別町立クリニック、定山溪病院
- 主な特徴
- 地中熱利用のヒートポンプを冷暖房に導入するなど、環境配慮型の施設

緑あふれる自然豊かな環境に立地する特別養護老人ホームです。喜茂別町唯一の入所介護型施設として、介護が必要になった住民の方々の「我が家」となることをめざしています。ご利用者さまが自分らしく過ごせるよう完全個室型のユニットケアを導入しています。全ユニットのリビングや、共用のルーフバルコニー、多目的ホールからは、羊蹄山の素晴らしい眺望が楽しめる設計です。



2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：66名
施設長・医師・看護職員・管理栄養士・介護職員・生活相談員ほか
- 研修参加・実施状況 ユニットリーダー研修、認知症介護実践研修、認知症介護実践リーダー研修を実施
- 2013年度実績 入所：73.3名／日

※2014年3月31日現在

るすつ銀河の杜

〒048-1731 虻田郡留寿都村字留寿都186-95 TEL 0136-46-2811 <http://www.keijinkai.com/kirameki/ginga>

留寿都村立特別養護老人ホーム「銀河荘」の移譲を受けて施設を建て替え、2014年4月1日にオープンしました。「きもべつ喜らめきの郷」の地域密着型サテライト施設として、密な連携のもとに運営しています。全室個室のユニットケアを導入し、個性に合わせた生活を実現。また、定員29名の規模を活かし、日常生活により家庭的な気配りのもとサポートを行っています。

運営概要 (2014年4月1日～9月30日)

- 職員状況 職員数：23名
施設長・医師・看護職員・管理栄養士・介護職員・生活相談員ほか
- 研修参加・実施状況 ユニットリーダー研修、認知症介護実践研修、認知症介護実践リーダー研修を実施
- 開設後の利用状況
入居者数：29名
地域別利用者数：留寿都村20名、京極町5名、古平町3名、喜茂別町1名
要介護度状況：平均2.4

DATA

- 開設 2014年4月1日
- 定員
- 施設入所 …………… 29名
- 協力医療機関
- 留寿都診療所、定山溪病院、留寿都歯科



岩内コミュニティの丘

溪仁会グループは、岩内町において介護老人保健施設「コミュニティホーム岩内」と特別養護老人ホーム「岩内ふれ愛の郷」を中心に、入居から通所まであらゆる高齢者福祉施設・サービスを運営・提供しています。施設が並ぶ岩内町野束の高台を「岩内コミュニティの丘」と名付け、連携強化に努めています。

施設一覧

介護老人保健施設コミュニティホーム岩内、通所リハビリテーション、介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷、介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター、デイサービスセンターま〜れ、ケアプランセンターさつき、訪問看護ステーション岩内、岩内町地域包括支援センター、事業所内保育所ゆいまる

介護老人保健施設
社会復帰
生活支援

コミュニティホーム岩内

〒045-0024 岩内郡岩内町字野束69-26 TEL 0135-62-3800 <http://www.keijinkai.com/c-iwanai/>



岩内町と隣接する町村を中心とした後志地区の介護拠点として機能を担っている介護老人保健施設です。部屋は全室個室で10床を1ユニットとしたユニットケアやリハビリなどを実施し、住み慣れた家庭や地域で生活が継続できるよう各職員が取り組みを行っています。

DATA

- 開設 2007年4月
- 定員
- 施設入所……………100名
- 通所リハビリテーション……………50名
- 通所介護……………10名
- 協力医療機関
岩内協会病院

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：142名
医師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、栄養士、看護師、介護員、支援相談員、事務職員
- 研修参加・実施状況 看護・介護基礎研修、新人研修、全職員を対象としたユニットケア研修、ユニットリーダー研修(前後期1名ずつ)を実施
- 2013年度実績 入所：99.3名／日 通所リハビリテーション：40.1名／日 地域包括支援センター：相談件数延べ184件 訪問看護：13.5名／日 通所介護(ま〜れ)：8.4名／日

※2014年3月31日現在

介護

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
岩内ふれ愛の郷

〒045-0024 岩内郡岩内町字野束69-4 TEL 0135-62-3131 <http://www.keijinkai.com/iwanai/>



岩内町が30年にわたって運営してきた伝統のある建物を引き継ぎ、“ぬくもり”と“ふれ愛”がある、温かな心通うサービスの提供に努めています。また、リハビリによって身体機能の維持・回復が見込まれるご利用者さまには、その持てる残存機能を大いに発揮していただけるよう、全職員がさまざまな立場で取り組んでいます。

DATA

- 開設 2012年4月
- 定員
- 施設入所……………50名
- 短期入所生活介護……………10名
- 主な特徴 介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター、障害福祉サービス事業所併設
- 協力医療機関 指定管理者 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 泊村立茅沼診療所

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：42名
医師(嘱託)、看護職員、介護員、相談員、栄養士、理学療法士ほか
- 研修参加・実施状況：キャリア支援室研修、全国老人福祉施設大会などに参加
- 2013年度実績 入所：50.8名／日 短期入所生活介護：6.7名／日

※2014年3月31日現在

介護

介護老人福祉施設
(特別養護老人ホーム)
月寒あさがおの郷

〒062-0021 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 TEL 011-858-3333 <http://www.keijinkai.com/asagao/>



ご利用者さまが地域社会とのつながりの中で暮らせるよう、閑静な住宅街に立地する特別養護老人ホームです。一人ひとりのプライバシーが尊重されるよう全室個室となっています。また、10名を1つの生活単位(ユニット)として日常生活をお手伝いし、家族のようなふれあいを感じながら過ごしていただきます。季節ごとの行事を大切にし、ご家族や地域の皆さまと共に歩み、寄り添いながら、笑顔と安心のある施設であるよう努めています。

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：80名
医師、看護師、介護員、生活相談員、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加は33回延べ93名、内部研修参加は看取りケア研修・感染症研修・認知症研修・キネステティクス研修などを実施し延べ544名
- 2013年度実績 入所：79.9名／日 短期入所生活介護：4.3名／日 通所介護：29.8名／日

※2014年3月31日現在

介護

介護老人福祉施設
(地域密着型特別養護老人ホーム)
菊水こまちの郷

〒003-0814 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 TEL 011-811-8110 <http://www.keijinkai.com/kikusuikomachi/>



入居型の「地域密着型介護老人福祉施設」と、ご自宅からの通いや訪問・泊まりでの利用をその方に合わせて組み合わせる「小規模多機能型居宅介護」を併設する特別養護老人ホームです。入居においては、住み慣れた地域でアットホームな雰囲気のもと暮らせるよう、10名単位のユニットケアで日常生活のお手伝いをいたします。食事や入浴など、ごく普通の暮らし方を顔なじみのスタッフがサポートし、わが家のように過ごせる施設です。

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：38名
医師、看護師、介護員、生活相談員、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修は参加25回延べ54名、内部研修は接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策など実施12回延べ169名
- 2013年度実績 入所：28.4名／日 小規模多機能型居宅介護：20.4名／日

※2014年3月31日現在

介護

介護老人福祉施設
(特別養護老人ホーム)

手稲つむぎの杜

〒006-0812 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 TEL 011-685-3726 <http://www.keijinkai.com/tsumugi/>



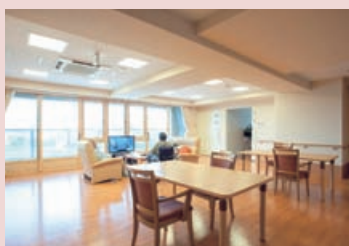
医療と介護の連携のもと、安心と安らぎのサービスを提供。

特別養護老人ホームに短期入所生活介護、通所介護、認知症対応型通所介護、居宅介護支援事業所、介護予防センターを併設し、医療・介護連携のネットワークをつくる高齢者福祉の総合施設として2014年6月1日に開設しました。隣接する手稲家庭医療クリニックにより医療面の全面的なサポートを受けるほか、手稲溪仁会病院とも連携し手厚く質の高いサービスとケアを実現しています。

ご入居者さまで一人ひとりの個性・人間性を尊重し、自分らしく過ごしていただけるよう、全室個室のユニットケアを採用。敷地内の菜園での園芸や畑作を中心に自然とふれあう機会も多くつくっています。さらに設備を活かし、地域との交流を積極的に行うことで、生きがいを持ちながら心豊かに過ごしていただける施設をめざしています。

DATA

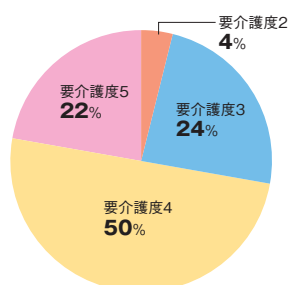
- 開設 2014年6月1日
- 定員 特別養護老人ホーム……………80名
- 併設 ショートステイセンターつむぎ
種別／短期入所生活介護(介護予防含む)
定員／10名
手稲溪仁会デイサービスつむぎ
種別／通所介護(介護予防含む)
定員／65名
手稲溪仁会デイサービス織彩
種別／認知症対応型通所介護(介護予防含む)
定員／12名
溪仁会在宅ケアセンターつむぎ
種別／居宅介護支援
札幌市手稲区介護予防センターまえた
種別／介護予防センター
- 主な特徴 福祉避難場所を設置
- 協力医療機関 手稲溪仁会病院、手稲家庭医療クリニック



運営概要 (2014年6月1日～9月30日)

- 職員状況 職員数：115名
施設長・医師・看護職員・介護職員・管理栄養士・生活相談員・理学療法士・作業療法士・介護支援専門員ほか
- 研修参加・実施状況 ユニット管理者研修、ユニットリーダー研修、管理者研修、褥瘡予防研修ほか
- 開設後の利用状況 入居者数：80名(平均63.6名)
地域別利用者比：手稲区36%、西区23%、北区13%、中央区7%、東区4%、南区1%、豊平区1%、石狩市4%、小樽市4%、その他7%
要介護度状況：平均3.9

要介護度別入居者構成比



社会復帰
生活支援

介護老人
保健施設

コミュニティホーム白石

〒003-0024 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 TEL 011-864-5321 <http://www.keijinkai.com/c-shiroishi/>



白石区の中心部にある介護老人保健施設として、地域の信頼と連携を大切にしながらさまざまな介護・福祉サービスを提供しています。専門スタッフが協働して在宅復帰、在宅生活の継続を積極的かつ総合的に支援します。また、趣味活動などを通して生き生きと充実した生活ができるよう援助しています。

DATA

- 開設 1989年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)……………100名
通所リハビリテーション……………50名
- 主な特徴 ISO9001認証(審査登録)、居宅介護支援、ホームヘルプステーション、グループホーム白石の郷(定員18名)、デイサービスセンター白石の郷(定員55名)、ショートステイセンター(定員19名)併設

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：190名 医師、看護師、介護員、支援相談員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、ケアマネジャーほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加75回 延べ130名、内部研修実施83回 延べ720名
- 2013年度実績 入所：95名／日 通所リハビリテーション：38名／日 短期入所生活介護：12名／日 訪問介護：36回／日 居宅介護支援：延べ2,469件 地域包括支援センター：相談件数延べ1,116件 介護予防センター 延べ相談件数：白石中央63件 ※2014年3月31日現在

社会復帰
生活支援

介護老人
保健施設

コミュニティホーム八雲

〒049-3117 二海郡八雲町栄町13-1 TEL 0137-65-2000 <http://www.keijinkai.com/c-yakumo/>



介護が必要になっても住み慣れた地域で社会生活を楽しみながらいつまでも自分らしく生活できるようお手伝いする介護老人保健施設です。ケアのプロフェッショナルたちが、チームワークを活かして医療とリハビリテーション、日常生活の援助など総合的なケアサービスを提供しています。

DATA

- 開設 1998年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)……………90名
通所リハビリテーション……………40名
- 主な特徴 訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所、ホームヘルプステーション(2013年4月1日開設)
- 協力医療機関 八雲総合病院、ヤクモ歯科クリニック

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：75名 医師、看護師、療法士、ケアマネジャー、介護員、相談員、管理栄養士ほか
- 研修参加・実施状況 外部研修参加63回 延べ111名、内部研修は救急救命実践、スキルアップ、抑制廃止など実施18回 延べ298名
- 2013年度実績 入所：87.1名／日 通所リハビリテーション：25.8名／日 訪問リハビリテーション(2012年8月1日事業開始)：60.7名／月 居宅介護支援：延べ1,000件 ※2014年3月31日現在

社会復帰
生活支援

介護老人
保健施設

コミュニティホーム美唄

〒072-0016 美唄市東5条南7丁目5-1 TEL 0126-66-2001 <http://www.keijinkai.com/c-bibai/>



美唄市とその近郊にお住まいの方に信頼度の高いサービスを提供する介護老人保健施設です。自立に向けた治療、看護、介護、リハビリテーション、趣味活動などを行います。開設当初から雪氷冷熱エネルギーを利用した「雪冷房システム」を採用して、地球環境に配慮した施設運営も行っています。

DATA

- 開設 2000年4月
- 定員 施設入所(短期入所療養介護含む)……………80名
通所リハビリテーション……………50名
- 協力医療機関 市立美唄病院、宝崎歯科分院

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：90名 医師、療法士、看護師、介護員、管理栄養士、支援相談員、事務職員ほか
- 研修参加・実施状況 内外合わせて61回 延べ117名、人材育成のため積極的に各種研修を受講している
- 2013年度実績 入所：79.1名／日 通所リハビリテーション：40.9名／日

※2014年3月31日現在

社会復帰
生活支援

軽費老人ホーム
(ケアハウス)

カームヒル西円山

〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 TEL 011-640-5500 <http://www.keijinkai.com/calm-nishimaruyama>



DATA ●開設 1996年4月
●定員 100名(特定施設含む)

食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、相談助言を基本サービスとして、自立維持できる施設(ケアハウス)です。入居中に要介護状態になってもできるだけケアハウスで生活できるよう「特定施設入居者生活介護」の提供施設として指定を受け、日々の生活の維持存続に必要な介護のサービスを提供しています。

●主な特徴 「特定施設入居者生活介護」の提供施設 など
●協力医療機関 札幌西円山病院

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：18名 看護師、介護員、相談員、事務職員ほか
- 研修参加・実施状況 内外合わせて参加26回 延べ人数76名
- 資格取得 介護福祉士2名・正看護師1名 資格取得
- 2013年度実績 入所：99.0名／日(うち特定入居者33.8名／日)

※2014年3月31日現在

社会復帰
生活支援

美唄市東地区生活支援センター すまいる

〒072-0015 美唄市東4条南5丁目1-4 TEL 0126-66-2525 <http://www.keijinkai.com/smile/>



DATA ●開設 1999年4月

高齢者や障がいのある方、そのご家族の代理人として、医療・保健・福祉にわたるサービスの紹介・相談・調整・手続きなどを行っています。電話相談は、365日・24時間・無休で対応しています。また、通所介護や訪問介護、地域の高齢者や障がい者を対象とした福祉入浴事業も実施しています。

●事業内容 通所介護(一般型35名)、訪問介護、居宅介護支援、ライフサポートアドバイザー、福祉入浴

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：53名 ケアマネジャー、訪問介護員、看護師、介護員ほか
- 研修参加・実施状況 各種研修参加延べ59名、その他訪問介護、通所介護、居宅介護支援の各事業所内研修を毎月1回開催
- 2013年度実績 通所介護：24.0名／日 訪問介護：47.4名／日 居宅介護支援：延べ2,211件 福祉入浴：12.6名／日 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業：4,114件

※2014年3月31日現在

生活支援
通所介護

おおしまハーティケアセンター

〒988-0604 宮城県気仙沼市廻館55-2 TEL 0226-26-2272 <http://www.keijinkai.com/ooshima-h/>



DATA ●開設 1999年8月
●デイサービス 通所介護(一般型)……………30名
●ショートステイ……………9室

宮城県気仙沼市の湾内に浮かぶ大島にある、溪仁会グループが道外で唯一運営する高齢者福祉施設です。ご高齢の方やご家族を支える通所介護や短期入所のほか、訪問看護を実施し、医療施設の不足しがちな離島で健康を支える活動も行っています。

●主な特徴 指定居宅介護支援事業所・訪問介護・訪問看護・在宅介護支援センター併設

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：38名 看護職員、介護職員、ケアマネジャー、相談員ほか
- 2013年度実績 通所介護：26名／日 訪問介護：5名／日 居宅介護支援：108件／月 訪問看護：2名／日 短期入所：8名／日 在宅介護支援センター：相談件数延べ642件
- 地域との交流 ミニ・デイ：廻館ほか6件(計175名参加)、講演会ほか：大島地区民生児童委員・ボランティアクラブ・婦人会(計63名参加)など積極的に交流

※2014年3月31日現在

生活支援
通所介護

青葉ハーティケアセンター

〒004-0021 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
TEL 011-893-5000 <http://www.keijinkai.com/aoba/>



DATA ●開設 1999年12月
●デイサービス 通所介護(一般型)……………65名

病気や障がいをお持ちの方、ご家庭で療養されている方にデイサービスを提供し、入浴や食事の提供とその介護や、生活についての相談などを行っています。

●協力医療機関 札幌西円山病院
●主な特徴 指定居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション併設

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：40名 生活相談員、看護職員、介護職員、ケアマネジャー、作業療法士ほか
- 研修参加・実施状況 通所介護、居宅介護、訪問看護におけるグループ内外主催の研修に多数参加
- 2013年度実績 通所介護：49名／日 居宅介護支援：延べ140件 訪問看護(あおば)：14名／日

※2014年3月31日現在

生活支援
通所介護

円山ハーティケアセンター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西19丁目1-2ファミール第2大通
TEL 011-632-5500 <http://www.keijinkai.com/maruyama-h/>



DATA ●開設 2009年4月
●デイサービス 通所介護(一般型)……………75名

デイサービスの提供のほか、居宅介護支援事業所「ケアプランセンターこころ まるやま」を併設し、在宅介護のさまざまなサポートを行っています。

●主な特徴 指定居宅介護支援事業所併設

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：37名 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 各種外部研修へ参加のほか、施設内勉強会を年20回実施
- 2013年度実績 通所介護：61名／日 居宅介護支援：延べ966件

※2014年3月31日現在

生活支援

手稲溪仁会ハーティケアセンター

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル1F
TEL 011-685-2861 <http://www.keijinkai.com/teine-h/>



DATA ●開設 2009年4月
●主な特徴 札幌市障がい者相談支援事業所

札幌市障がい者相談支援事業所「相談室こころ ていね」のスタッフが、障がいに関するさまざまな相談に幅広く対応し、支援機関などへの橋渡しを行います。

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：4名 相談支援専門員、相談員
- 研修参加・実施状況 グループ内外主催の各種研修、学習会に参加
- 2013年度実績 障がい者相談支援事業：延べ1,135件

※2014年3月31日現在

生活支援
通所介護

豊平ハーティケアセンター

〒062-0009 札幌市豊平区美園9条5丁目4-21
TEL 011-831-5000 <http://www.keijinkai.com/toyohira-h/>



DATA ●開設 2009年4月
●デイサービス 通所介護(一般型)……………70名

地域にお住まいの方が安心して生活できるようデイサービスを実施。パソコン教室や絵画、書道、生け花など充実した趣味活動を提供しています。

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：25名 相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 内部研修5名、外部研修18名参加
- 2013年度実績 通所介護：55.8名／日

※2014年3月31日現在

生活支援
通所介護

新琴似ハーティケアセンター

〒001-0912 札幌市北区新琴似12条7丁目1-45
TEL 011-763-5500 <http://www.keijinkai.com/shinkotoni-h/>



DATA ●開設 2009年4月
●デイサービス 通所介護(一般型)……………65名

地域の介護を必要とされる方にデイサービスを提供し、機能訓練指導員による日常動作訓練やさまざまなレクリエーションなどを実施しています。

●協力医療機関 新琴似ファミリークリニック

2013年度 運営概要

- 職員状況 職員数：32名 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 研修参加・実施状況 外部研修会に10回参加、施設内勉強会は5回開催
- 2013年度実績 通所介護：50名／日

※2014年3月31日現在

医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目357-22 TEL 011-685-2799 <http://www.toseikai.net>



在宅呼吸ケアの必要な小児患者さまとご家族を支援。

小児NIV患者さまの在宅療養を支援してきた手稲溪仁会病院「小児在宅医療・人工呼吸器センター」に、小児の訪問看護を行う「NPO法人くまさんの手」が合流して誕生しました。在宅医療支援診療所として訪問診療を行うほか、訪問看護や訪問介護、さらに小児患者さまを一時的に預かりご家族の介護負担を減らす医療型短期入所（レスパイト）を行っています。

常勤医師、看護師、作業療法士の医療職に、社会福祉士、介護職を加えた多職種チームで、継続的・包括的な在宅医療と、制度活用や療育面のサポートを実施。さらに患者家族交流会「ぞうさんネット」や「手稲みらいつくり学校」（P28参照）で、ご家族や地域の皆さまの交流の場をつくっています。



2013年度 運営概要

- 延べ患者数…………… 156名／月
- 訪問診療延べ患者数…… 108名／月
- 地域別患者数
札幌市84名／月、その他7名／月
- 訪問看護…………… 296件／月
- 訪問介護…………… 160件／月
- 医療型短期入所…………… 13件／月

※2014年3月31日現在

DATA

- 開設
2013年11月1日
- 職員状況
職員数：26名 医師3名、看護師15名、理学療法士1名、作業療法士1名、介護職3名、社会福祉士1名、チャイルド・ライフ・スペシャリスト1名、事務職1名
- 事業内容
在宅療養支援診療所「生涯医療クリニックさっぽろ」（無床）
訪問看護ステーション「くまさんの手」
居宅介護事業所「くまさんの手」
短期入所事業所「どんぐりの森」（レスパイト、定員10名）
- その他の取り組み
小児在宅医療勉強会（年1回）
子ども在宅ケアネットワーク（年2回）
家族交流会「ぞうさんネット」（年1回）
「手稲みらいつくり学校」で各種教室やイベントを開催

※2014年3月31日現在

株式会社ハーティワークス

〒003-0030 札幌市白石区流通センター1丁目7-54 北新ビル1F TEL 011-863-8010 <http://www.keijinkai.com/heartyworks/>



福祉用具のレンタルや販売・住宅改修などでご自宅での生活を支えます。

福祉用具のレンタル・販売、車いすのオーダーメイド製作や出張修理、住宅改修などの在宅サービスを中心に提供しています。介護が必要な方や障がいのある方が自分らしい生活を送ることができるよう、さまざまな資格を取得した福祉用具専門相談員が信頼できるサービスを提供しています。

DATA

- 開設 2005年1月
- 職員状況
職員数：15名 ホームヘルパー1・2級資格者、ケアマネジャー資格者、福祉用具専門相談員ほか
- 業務概要
福祉用具のレンタルおよび販売／住宅改修全般の相談・施工／病院・施設内の備品、家具、福祉機器、ユニフォームの販売／車いすのオーダー製作および修理
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、介護保険 指定居宅サービス事業者（福祉用具貸与・販売、住宅改修）、障害者総合支援法 補装具委託事業者、障害者総合支援法 日常生活用具委託事業者

2013年度 運営概要

- 福祉用具貸与利用者…………… 7,866名
- 特定福祉用具件数…………… 151件
- 住宅改修件数…………… 117件
- 日常生活用具件数…………… 103件
- 車いす製作件数…………… 109件

株式会社 ソーシャル

- ソーシャルヘルパーサービス白石／〒003-0808 札幌市白石区菊水8条2丁目2-6 TEL 011-817-7270
 - ソーシャルヘルパーサービス中央／〒060-0007 札幌市中央区北7条西17丁目11 TEL 011-633-1771
 - ソーシャルヘルパーサービス西／〒063-0828 札幌市西区発寒8条10丁目4-20 TEL 011-669-3530
- <http://www.keijinkai.com/social/>



ご自宅を訪問し、身体介護や生活援助をご提供します。

地域のケアマネジャーが作成したケアプランに沿って、ヘルパーがご利用者さまの自宅で訪問介護・予防サービスを提供する「訪問介護事業」を行っています。また、介護が必要となる前に要支援の認定を受けた方には、介護予防訪問介護として家事のお手伝いを行います。訪問するヘルパーは介護福祉士またはホームヘルパー2級以上の有資格者です。

DATA

- 開設 1998年7月
- 職員状況 職員数：110名 ホームヘルパー1・2級資格者、介護福祉士ほか
- 業務概要 ホームヘルプサービス事業

2013年度 運営概要

- 訪問介護利用者…………… 3,141名
- 延べ利用回数…………… 31,923回
- 介護予防訪問介護利用者…………… 4,268名



溪仁会健康保険組合

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F TEL 011-699-1180

健やかに働ける環境づくりをめざし、独自の健康保険組合を運営。

溪仁会健康保険組合は、職員の福利厚生の充実をめざして設立されました。医療と福祉の法人では北海道初のケースです。当グループは、職員とその家族の健康を守ることは医療・福祉サービスの提供者としての責任ととらえています。被保険者の職員とその家族に対し、生活習慣病予防や健康管理などニーズに適した柔軟かつきめ細かなサービスを実施し、職員が安心して仕事に臨むことができる環境を整えています。

DATA

- 設立 2009年10月
- 加入対象
医療法人溪仁会、社会福祉法人溪仁会、株式会社ハーティワークス、株式会社ソーシャル、医療法人稲生会の職員（被保険者）と家族（被扶養者）
- 加入者数 被保険者 4,124名
被扶養者 1,990名
計6,114名（2014年3月末現在）

溪仁会グループが社会的責任を果たすために

理事長就任と35周年への思い

2014年4月1日より、医療法人溪仁会理事長に就任いたしました。加藤隆正先生が創設され、秋野豊明先生が経営基盤の強化と発展に取り組まれてきた組織を引き継ぐという大役に身の引き締まる思いであり、その責任の大きさ、重さを実感しております。これからは、医療・保健・福祉の領域を俯瞰しながら、溪仁会グループ最高責任者としての使命に取り組んでいく所存です。

溪仁会グループは1979年の西円山病院開院に始まり、社会福祉法人の設立や健診事業の開始など、35年間の歩みの中で医療・保健・福祉にわたる複合的な組織を形成してきました。近年は手稲溪仁会病院でのドクターヘリ事業、地域の医療・福祉を支える活動など、公的な役割を担う場面も増え、それらが社会における当グループの存在意義にもつながっています。

社会保障制度改革が急ピッチで進められている現在、溪仁会グループにおいてもその流れに対応することが必要とされています。この変革期を乗り越えるためには、時代のニーズを敏感に察知し、行動する柔軟な体制と、困難や課題に自ら立ち向かい、新しい価値を創り上げようとする強い意志が重要です。これからも積極的に当グループの有用性を社会に示しながら、組織をより強固なものにしていきたいと考えています。

CSR経営が組織を成長させる

前理事長である秋野先生が2006年に宣言され、取り組まれてきた「CSR経営」は、溪仁会グループの組織運営を支える基盤として、確実に根付いています。こうした組織統治の手法を

導入したことで、当グループは着実に発展し、より盤石な体制を築き上げつつあります。

溪仁会グループが社会的責任を果たし続けるためには、常に経営理念を明確にすることが大切です。医療・保健・福祉サービスの提供というのは当然のことであり、私たちの使命は、より質の高いサービスの実現にあると考えています。CSRを共通の理念として組織の隅々にまで浸透させ、職員がその意味を理解し、実行しようとするればおのずと果たされるはずで

す。溪仁会グループでは、これまでにISOなどのマネジメントシステムを導入し、組織運営に活かしてきました。これらで得たものを基礎に、KMS(溪仁会マネジメントシステム)という独自のシステムを構築し、2012年から本格運用を始めています。このシステムが円滑に機能することによって、当グループがめざすべき方向性をさらに一致させやすくなるだろうと考えています。

働く喜びが感じられる人づくりを

溪仁会グループでは4,300人を超える職員が働いています。医療や福祉に携わる仕事は尊いものですが、その目的が理解できれば、仕事に対する満足度はさらに向上します。私は職員たちに、「自分の仕事がどんな意味を持っているのかが分かったら、働くことがもっと楽しくなる」と伝えています。これは管理職だけでなく、すべての職員に共通していることだと思います。

今年で9回目の発行を迎える「溪仁会グループCSRレポート」では、職員の取り組みにスポットを当て、紹介しています。社会に向けて、溪仁会グループのCSR活動を発信することで、職員は自分たちの仕事がどのような意味を持ち、どのよう

な評価を受けているのかを再認識することができます。職員のモチベーションを維持し高める意味でも、本レポートは重要なツールになっています。

溪仁会グループの質の高いサービスは、職員の努力の上に成り立っています。医療・保健・福祉の担い手である職員は、大切な「宝」です。そのため「人財」を育てることを重視し、さまざまなキャリア支援を行っています。将来は、キャリアデザインを職員が自分で考え、外部とも行き来しながら、経験や知識を得られるような仕組みもつくりたいと思っています。

溪仁会グループがめざすべき姿

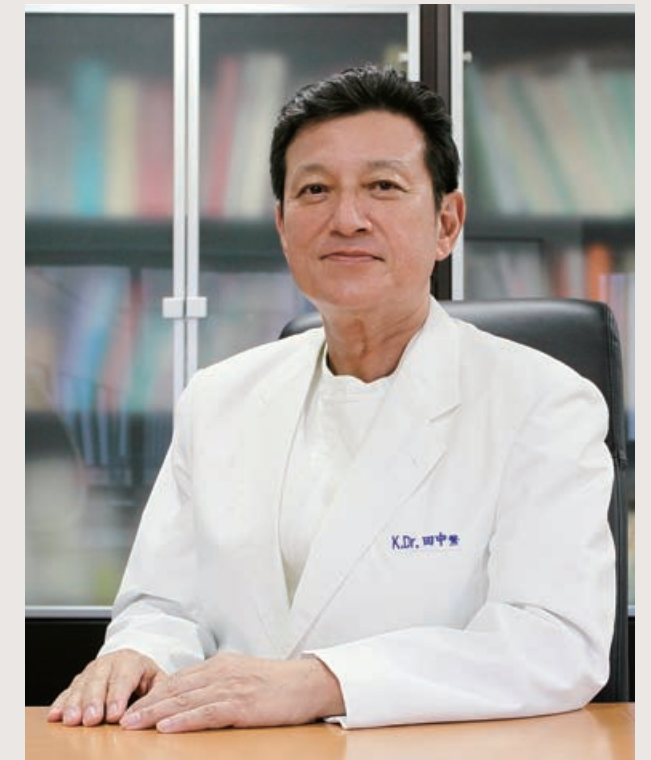
溪仁会グループは民間法人ながら、北海道の医療・保健・福祉の向上に資するべく、公益性の高い取り組みを続けてきました。「私たちが培ったものを社会にお返しする」という姿勢で、組織の持続性とのバランスを計りながら、地域社会のニーズにお応えしていきたいと考えています。

その一つが2012年から構築が進められている地域包括ケアシステムです。高齢者医療や介護サービスの提供など、複合的な機能を持つ溪仁会グループにとって、地域包括ケアシステムはまさに組織活動そのものであり、内部でその仕組みをつくることも十分に可能です。これからはグループ内の連携力をさらに高めながら、社会的なモデルとなるシステムの構築をめざしていきます。

このところ日本でも、アメリカのような「非営利ホールディングカンパニー型法人制度」を導入しよう、という動きがあります。複数の医療法人や社会福祉法人などを一つの法人として束ねることによって、医療や介護のサービスを一体的に提供できるようにしようというものです。医療機関の機能分化や医療と介護サービスの連携を推進しようとするれば、そういう手法も選択の一つとなってくるでしょう。実際、溪仁会グループはそれと似たよ

うな機能を備えている面もあり、将来的にはアメリカ版を小型にしたような組織形態も視野に入れています。

このように、医療・保健・福祉サービスの将来モデルを提示することも、溪仁会グループの使命と考えています。これからも誠実なCSR経営を通して、地域から信頼される組織であり続けるとともに、溪仁会グループとしてのブランド力を高めるための努力を続けてまいります。



溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長

田中繁道



第 三 者 意 見



駿河台大学経済経営学部・同大学院総合政策研究科教授
日本経営倫理学会副会長・博士(経営学)

水尾 順一

【プロフィール】
(株)資生堂を経て1999年駿河台大学に奉職、現在に至る。(社)経営倫理実践研究センター上席研究員、日本経営品質学会副会長、2010年ロンドン大学客員研究員ほか。著書:『マーケティング倫理が企業を救う』生産性出版、『人にやさしい会社』白桃書房;共編著、『CSRで経営力を高める』東洋経済新報社、『セルフ・ガバナンスの経営倫理』千倉書房など

企業でCSRを実践し、大学と学会でその理論構築をしながら、“CSRの理論と実践の融合”を社会に促進してきた立場から、今年度の報告書に沿って以下に第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

1. CSR経営への取り組みが年々進化している様子を、当レポートにより知ることができます。

溪仁会グループ(以下、同グループ)は、「社会的使命」を2014年に新たに制定し、合わせて理念体系を再構築しました。またコーポレート・スローガンの解釈にも、根底に「質の高い先端医療を実現し続ける「ずーっと。」」を新しく加えました。今年のCSRレポートを通してCSR経営への取り組みが常に進化している様子を知ることができます。「経カテーテルの大動脈弁留置術」や「重篤な小児救急患者地域連携情報ネットワークシステム」の取り組みなども含めて、同グループが最先端の医療技術や医療体制に取り組む様子は、お客さま(患者さま)や地域住民に信頼と安心を提供しています。

こうした先端医療をはじめとしたCSR経営への取り組みは、これまでも同グループのDNAとして引き継がれてきました。その一つが、1998年11月に定山溪病院が長期療養型の医療施設として財団(現・公益財団)法人日本医療機能評価機構から日本初の認定を受けたことです(同病院は2013年9月に更新審査で同評価機構が策定した「新基準」に合格し、日本全国で第一号の認定を受けました)。また、手稲溪仁会病院は、2005年に民間病院としてドクターヘリを持った北海道で最初の病院となり、地域の人々の健康を最優先に取り組む姿勢が道民から厚い信頼を得ています。その結果、2013年「週刊ダイヤモンド」の頼れる病院ランキングでは、消費者から最も信頼される民間病院として、聖路加国際病院、倉敷中央病院について手稲溪仁会病院は2年連続第3位に選ばれました。

2. 同グループのCSR活動を支える重要なステークホルダーである、「人」を中心に報告がなされています。

CSRの活動は職員(以下、医師、看護師も含む)への働きかけが極めて重要です。なぜなら、職員は重要なステークホルダーで

あると同時に、一方ではこの活動を推進するキーマンともなるからです。「人は石垣、人は城」という言葉にもあるように組織や社会にとって人材は人財、つまり貴重な財産であり、持続可能な発展の礎(いしずえ)ともなります。

本レポートでは、活動報告の中心を同グループで働く「人」におき、「ずーっと。」を支える原点として人を紹介しています。職員がそれぞれの仕事を通して自己実現に取り組み、それを同グループがサポートする様子が紹介されています。心理学者として知られるマズローが称する「人間主義経営(自己実現の経営)」を実践する組織であることが、このレポートからうかがえます。

今後に期待する点

マテリアリティ(重要性)の特定に向けて、ステークホルダー・ダイアログの開催を提案します。

「人間主義経営」のさらなる進化をめざすために、ステークホルダー・ダイアログ(利害関係者との対話)の開催を提案します。ダイアログの対象(ステークホルダーの特定)は組織内では職員です。組織外では、お客さま(患者さま)、取引先、出資者、NGO/NPO、学者・研究者、行政関係、地域住民など同グループと利害関係を持つ人たちとなります。

このダイアログは、双方向にコミュニケーションを図ることでISO26000やGRI、IIRC(国際統合報告評議会)などの国際基準で求められているステークホルダー・エンゲージメント(参画)につながり、参加者の意見や見解をCSRに盛り込んでいくことも可能となります。そこでの意見や見解は同グループが取り組むべき社会的課題の抽出に結びつき、上記の国際基準が要求するマテリアリティ(重要性)を特定する一つのステップとなります。

抽出した社会的課題を、同グループのコーポレート・スローガンが主張する5つの「ずーっと。」に照らし合わせることで、同グループの新しい取り組み課題も見えてきます。

社会とともに歩み続ける溪仁会グループが、「ずーっと。」栄え続けることを心から祈念申し上げます。

溪仁会グループの活動を
よりわかりやすく
お伝えするために

医療・保健・福祉サービスの用語集



【1次・2次・3次救急】

日本の救急医療体制は、都道府県が策定する医療計画に基づき、患者の重症度に応じて3段階の体制をとっています。

1次救急は初期救急ともいい、入院や手術を伴わない軽症の患者さまへの診療を受け持ち、休日夜間急病センターや在宅当番医が行います。2次救急は、一般病棟への入院を必要とするような患者さまへの診療を担当します。いくつかの病院が当番日を決めて受け持つ病院群輪番制や、中核となる施設に当番の医師が集まる共同利用型病院方式があります。3次救急は、重篤な疾患や多発外傷など2次救急では対応できない診療を受け持ちます。救命救急センターや高度救命救急センターが担当します。

【2025年問題】

2025年にはベビーブーム世代(団塊の世代)が75歳以上の後期高齢者となり、高齢者人口が3,500万人に達すると推計されています。それにより医療費と社会保障費は増加するほか、高齢者の住居や介護などたくさん問題が生まれると予測されています。



【医療連携】

地域にあるさまざまな医療機関が自分たちの機能や特色を明確にし、役割分担をしながら、互いに協力・連携して治療に取り組む医療体制のこと。医療機関は得意分野に専念することがで

き、患者さまはスムーズに質の高い医療サービスを受けることができます。

【インフォームドコンセント】

医師が患者さまに対して治療方法などの説明を行い、正しく理解してもらったうえで、納得と同意を得ること。患者さまの意思を尊重するための概念です。

【ADL(エー・ディー・エル)】

「Activities of Daily Living」の略で、日本語では日常生活動作といえます。食事や移動、排泄、入浴といった日常生活に必要な最低限の基本動作のことで、こうした動作ができるかどうか、高齢者や障がいを持つ人の動作能力を判定する指標になります。

【エビデンス】

医学的根拠のこと。治療法、薬剤、検査方法など、「それが良い」「勧められる」という根拠を、臨床データなどを基にして示すことをいいます。

【介護老人福祉施設】

心身に重い障がいがあるため常時介護が必要で、ご自宅での生活が困難な65歳以上のご利用者さまに、看護や介護、リハビリテーションなどを提供する施設。要介護度1〜5と認定された方が対象になります。一般には「特別養護老人ホーム」と呼ばれています。

【介護老人保健施設】

介護が必要なご利用者さまがご自宅に復帰できるように、看護や介護、リハビリテーションなどで支援する施設。介護保険の被保険者で、入院治療の必要がない要介護度1〜5と認定された方が対象になります。



【回復期病院】

生命の危機から脱して症状が安定し、自宅復帰をめざす段階の患者さまを対象にした病院のこと。「回復期リハビリテーション病院(病棟)」は、主に脳卒中や脊椎・骨盤骨折などの急性期治療を終えた患者さまに、専門的なリハビリテーションを提供します。

【かかりつけ医】

風邪や発熱など、さまざまな病気の初期症状に対応し、日常から健康状態の把握やアドバイスを

行う身近な存在の医師のこと。必要があれば、適切な治療が受けられるように専門的な医療機関を紹介し、患者さまの情報提供などを行います。



【カテーテル】

血管や尿管などに挿入して、治療や検査、体液の排出などを行うための細く柔らかい管。手術を行わずに治療などができるため、身体への負担がかかりにくく、心臓や脳、血管、消化器など、幅広い分野で普及が進んでいます。

【カンファレンス】

病院内で開かれる症例検討会のこと。担当する症例を持ち寄り、診断や治療方法について幅広い視点から話し合います。医師同士のほか、他職種を交えて行うチームカンファレンスなどもあり、スタッフ間の情報共有の場としても活用されています。

【^{かんわ}緩和ケア】

患者さまの心身の苦痛を取り除き、できるだけ安楽に過ごしていただくことを目的とした医療的な処置のこと。多くは末期がんなどで余命が短い方に対して行われます。入院に限らず、ご自宅や通院でも対応し、ご本人やご家族の要望を重視しながら、充足した時間を過ごしていただけるように支援します。

【QOL(キュー・オー・エル)】

「Quality Of Life(生活の質)」の略。精神面や身体面なども含めたその人らしい豊かな生活(人生)、という概念。医療や福祉の世界では、患者さまやご利用者さまの価値観を尊重しながら、その人らしく生きることを支えるという考え方も使われます。

【急性期病院】

病気の発症から急激に症状が進み、重症な状態にある患者さまに対して、入院や手術などの専門的で高度な医療を行う病院のこと。

【クリニカル・パス】

患者さまが入院してから退院するまでの検査や手術、リハビリテーションなどのスケジュールをまとめた診療計画表のこと。クリティカル・パスともいいます。患者さまと医療者側の双方が、意識や情報を共有し、スムーズな治療をめざすためのものです。

医療・保健・福祉サービスの用語集



【グループホーム】

病気や障がいを抱える人たちが、福祉サービスの支援を受けながら、地域において、少人数単位の集団で生活するケアの形態。日本では介護保険の給付対象になっていることから、認知症の高齢者を対象にした居住型施設という限定的な意味でも使われています。

【ケアマネジャー】

介護支援専門員ともいいます。介護が必要と認定された方が適切なサービスを受けられるように、介護サービス計画(ケアプラン)を作成します。在宅介護サービス事業者や福祉施設、行政機関などとの連絡役を果たし、ご利用者さまとご家族を支えます。

【血管造影】

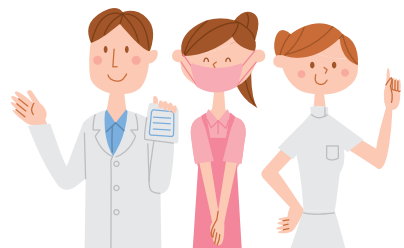
動脈から挿入したカテーテルを経由して目的の臓器にX線を透過しない造影剤を入れ、血管内部の状態が見えるように撮影する方法です。

【誤嚥】

食べ物や飲み物などを飲み込む際に、食道ではなく誤って気管に入ってしまうこと。飲み込み力が弱くなった場合などに起きやすくなります。食べ物などが気管に入ると肺炎になったり、窒息の原因になることもあります。

【コメディカル】

医師と歯科医師以外の、医療に携わる専門職種の総称。看護師、薬剤師のほか、リハビリテーションを行うセラピスト、歯科診療に関わる歯科衛生士、検査業務を担当する臨床検査技師など、数多くの職種が含まれます。



【災害拠点病院】

災害時の初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関。24時間いつでも災害に対する緊急対応ができ、消防機関と連携し、傷病者の受け入れ・搬送をヘリコプターなどで実施できるなど、必要な機能が定められています。

【在宅ケア(医療)】

患者さまのご自宅で提供する医療のこと。特に、症状の重い患者さまがご自宅での生活を続けら

れることを目的に行う、訪問診療や訪問看護などを意味する場合もあります。



【産業医】

事業所で労働者が健康・快適な状態で業務ができるよう、専門的な指導と助言を行う医師。産業医となるためには、厚生労働大臣が定める産業医研修の修了者、労働衛生コンサルタント試験合格者など、産業医となるための要件のいずれかをクリアする必要があります。

【シームレスなサービス】

「シームレス」とは継ぎ目がない、という意味。浜仁会グループでは、医療・保健・福祉サービスを途切れることなくつなぎ、スムーズに提供しています。これはグループ内にとどまらず、外部の医療機関や福祉施設、行政機関とも連携を深め、スムーズなサービスの提供をめざしています。

【自由診療】

健康保険が適用されない診療のこと。認可前の新薬の使用や、最先端の診療を受けることが可能ですが、全額が自己負担になります。

【終末期】

治療での回復の見込みがなく、数週間から数カ月以内に死亡が予期される状態になった時期。ターミナル期ともいいます(次ページ「ターミナルケア」の項参照)。

【紹介状】

正式には診療情報提供書といえます。かかりつけ医などから、より高度な医療を提供する医療機関に患者さまを紹介する際、症状や診断、治療経過などを明記し、スムーズに治療が引き継がれるようにするためのものです。総合病院などでは、紹介状がないと特定医療費を請求されることがあります。これは初期診療を受け持つ医療機関と高度医療を行う医療機関の役割分担を促すという目的からのものです。

【小規模多機能型居宅介護】

通い(デイサービス)を中心に、必要に応じて訪問

介護やショートステイを組み合わせ利用できる地域密着型の介護保険サービスです。

【褥瘡】

病気などで長期間、寝たきりになっていたために、腰やお尻、手足などの皮膚が圧迫されて壊死を起こした状態。床ずれともいいます。

【侵襲】

けがや手術などの治療、検査などの外部からの刺激によって、痛みや発熱、出血など体への負担がもたらされること。

【ステント】

金属製の網状となったチューブのことで、血管などの中に置くことで、狭まったり、詰まって閉じたりすることを防ぎます。

【セカンドオピニオン】

現在かかっている病院での診断や治療方針について、それが適切かどうかを判断するために、他の病院の医師の意見を聞くこと。

【摂食・嚥下】

摂食は食べ物を摂ること。嚥下は食べ物を口から飲み込んで胃まで運ぶまでの機能のこと。高齢者などに多い摂食・嚥下障害は、この機能が正常に働かず、食べ物や飲み物がうまく飲み込めなかったり、誤って気管などに入ってしまう(「誤嚥」の項参照)症状のことをいいます。

【セラピスト】

リハビリテーション(次ページ「リハビリ」の項参照)を担当する専門職のこと。さまざまなセラピストがいますが、以下の3職種が中心となります。

理学療法士(PT)

主に身体機能の回復や維持を目的としたリハビリテーションを提供します。歩行訓練や体操などの運動療法、患部を温めたり電気刺激を当てたりする物理療法を実施し、住宅改修のアドバイスなども担当します。

作業療法士(OT)

趣味的な活動や日常生活動作(前ページ「ADL」の項参照)の訓練などを通して、身体や精神に障がいがある人や高齢者などにリハビリテーションを行います。精神面への働きかけも重視して、その人らしい生活が送れるよう支援します。

言語聴覚士(ST)

話す・聞く、言葉を理解するといった言葉のコミュニケーションに障がいがある人へのリハビリテーションを実施します。脳卒中による失語症や発声障害、摂食・嚥下障害のケアなどにも携わります。

【専門看護師】

特定の医療分野で、熟練した技術で看護を実践する看護師。特定分野の経験と大学院修士課程の修了の後、日本看護協会が実施する試験に合格すると資格が得られます。がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、家族支援など11の分野が特定されています。

【ソーシャルワーカー】

生活上や身体上などの問題を抱えている人を、相談やアドバイスによって支え、社会復帰や自立した生活に向けて援助する役割の総称。医療・保健・福祉などの専門的な知識を持つ専門職で、医療機関ではメディカルソーシャルワーカーとも呼ばれます。



【尊厳死】

余命が短いと診断された患者さまが、延命を図るためだけの医療的な処置を受けることを望まず、人間としての尊厳を保ちながら人生を終えられること。医療者側は、何よりも患者さま(ご家族)の意思を尊重して、安らかな最期を迎えられるように支えます。

【ターミナルケア】

終末期の患者さまに対する医療や看護、介護などのこと。延命的な医療処置よりも、苦痛や恐怖を取り除き、患者さまがその方らしさを保ちながら人生を終えられるようにするためのケアを中心に提供します。

【地域医療支援病院】

患者さまの身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点のもと、かかりつけ医・かかりつけ歯科医を支援し、地域医療を確保する能力・設備を備える役割を担い、高度医療・専門医療を提供する中核病院として都道府県知事により承認された病院です。紹介された患者さまに対する医療提供、医療機器の共同利用の実施などを行います(関連情報P20)。

【地域包括ケアシステム】

2025年をめどに、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けられるように構築された、地域の包括的な支援・サービス提供体制。高齢者の尊厳を重要視し、できるだけ自立生活を送れるように支援します。

【地域包括支援センター】

地域の高齢者が安心して暮らせるように、総合的な支援を行う窓口。市町村、あるいは市町村から委託を受けた医療・福祉法人などによって運営されます。介護予防の観点から、自宅で生活される高齢者またはその家族の相談に応じ、医療・福祉サービスなどが適切に提供されるようにします。

【特定看護師】

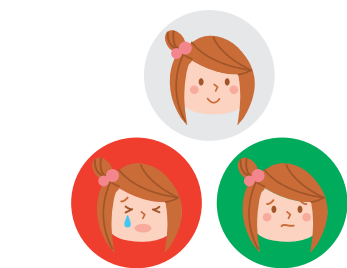
医師の手順書に基づいて、安全が確認された一定の医療行為ができる看護師として制度化が進んでいます。専門領域の看護系大学院を修了しているため、医療行為を行うだけでなく、医療・保健・福祉に幅広い知識を持ち、人々の健康増進のために活躍します。

【特定健診／特定保健指導】

特定健診は生活習慣病予防のために2008年度から始められた健康診査。成人病のリスクが高いとされるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防に重点を置いているため「メタボ健診」とも呼ばれます。この特定健診で危険度が高いと判定されると、特定保健指導によって食生活や運動などの指導を受け、生活習慣の改善をめざすことになります。

【トリアージ】

災害などで多くの負傷者が出た場合、症状に応じて分類し、治療や搬送の優先順位をつけること。治療や搬送の効率を高め、一人でも多くの重傷者を救うために必要な処置として採用されています。



【認定看護師】

救急看護、皮膚・排泄ケア、集中ケア、緩和ケア、手術看護、摂食・嚥下障害看護、認知症看護など21の分野で、専門性の高い看護を実施する看護師です。特定分野を規定年数経験した後に研修を受け、日本看護協会が実施する試験に合格すると資格が得られます。

【プライマリ・ケア】

身近にいて、さまざまな病気の診療や相談に対応してくれる医師(かかりつけ医)による総合医療のこと。プライマリ・ケアを行う医師は、専門のトレーニングを受け、あらゆる初期診療に対応できる能力を身につけています。

【ホスピスケア】

末期がんなど、治る見込みがない疾患の患者さまから身体的・精神的な苦痛を取り除き、尊厳を保ちながら最期を迎えることをめざすケア。緩和ケアともいいます。

【慢性期病院(療養病床)】

急性期を過ぎ症状は安定したものの、経過の見守りが必要で自宅復帰が難しい患者さまに、長期間にわたって入院・治療を提供する病院のこと。

【看取り】

病気になった人の世話をすること。または亡くなるまでそばで看病し、見守ること。最近は後者の意味で使われることが多く、自宅のほか、病院や福祉施設などで亡くなられる方への対応を指す場合もあります。

【メンタルヘルス】

精神(心)の健康、精神保健。生活や仕事の中で抱えるストレスが心の健康に影響し、40人に1人は心の病気を抱えるといわれます。特に職場でのメンタルヘルス対策が推進されています。

【ユニットケア】

自宅に近い環境で、少人数の入居者・介護スタッフと共同生活をしながら、一人ひとりの個性や生活のリズムに合わせた暮らしをサポートするケア。10人前後を1ユニット(生活単位)とし、プライバシーを守るための個室と、ユニット単位の居間を備えます。また、さまざまな活動もユニット単位で行います。

【予後】

治療後などの症状についての医学的な見通し。病後の経過を指して使われる場合もあります。

【リハビリ】

リハビリテーションの略。身体的な機能を回復したり、障がいを軽減したり、症状が悪化しないように維持するための訓練や治療のこと。



【レスパイト】

介護が必要な障がいを持った人を一時的に預かり、日常的に介護している家族が休息できるよう支援すること。家族の介護疲れを防ぎます。

溪 仁 会 グ ル ー プ 施 設 一 覧

健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。
 人間ドック・健康診断施設 溪仁会円山クリニック
 札幌市中央区大通西26丁目3-16
 ☎011-611-7766

最新の医療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、365日・24時間体制であらゆる疾患・外傷の患者さまを受け入れています。
 総合医療 手稲溪仁会病院
 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40
 ☎011-681-8111
 手稲溪仁会クリニック
 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15
 ☎011-685-3888
 手稲家庭医療クリニック
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
 ☎011-685-3920

長期療養が必要な方に、看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。
 療養病床 札幌西円山病院
 札幌市中央区円山西町4丁目7-25
 ☎011-642-4121
 療養病床 定山溪病院
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-598-3323

●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
 日常生活に常時介護が必要で、自宅では介護が困難なお年寄りが入所し、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や健康管理が受けられます。
 西円山敬樹園
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-631-1021
 岩内ふれ愛の郷
 岩内郡岩内町字野束69-4
 ☎0135-62-3131

●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
 10名が1つの生活単位(ユニット)として暮らし、顔なじみのスタッフが日常生活のお手伝いをします。
 月寒あさがおの郷
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
 ☎011-858-3333
 さもべつ喜らめきの郷
 虻田郡喜茂別町字伏見272-1
 ☎0136-33-2711
 手稲つむぎの杜
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3726

●地域密着型介護老人福祉施設
 定員29名以下の小規模な介護老人福祉施設で、介護・看護・機能訓練等のサービスを提供するとともに地域や家庭との結びつきを重視した施設です。
 菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110
 るすつ銀河の杜
 虻田郡留寿都村字留寿都186-95
 ☎0136-46-2811

●介護老人保健施設
 病状の安定期にあり、入院治療をする必要のない方に保健・医療・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。
 コミュニティホーム白石
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5321
 コミュニティホーム八雲
 北海道八雲町栄町13-1
 ☎0137-65-2000
 コミュニティホーム岩内
 岩内郡岩内町字野束69-26
 ☎0135-62-3800
 コミュニティホーム美唄
 美唄市東5条南7丁目5-1
 ☎0126-66-2001

●軽費老人ホーム(ケアハウス)
 食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理および相談助言を基本サービスとして、自立の維持ができる施設です。
 カムビル西円山
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-640-5500

●認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
 認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。
 グループホーム 白石の郷
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16
 ☎011-864-5861
 グループホーム 西円山の丘
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-640-2200

●短期入所生活介護(ショートステイ)
 事情により介護ができないときに短期間入所していただき、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をいたします。
 西円山敬樹園ショートステイセンター
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-631-1021
 おおしまショートステイセンター
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272
 月寒あさがおの郷ショートステイセンター
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
 ☎011-858-3333
 岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター
 岩内郡岩内町字野束69-4
 ☎0135-62-3131

●小規模生活単位型指定短期入所生活介護(ショートステイ)
ショートステイセンターつむぎ
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3726
 コミュニティホーム白石ショートステイセンター
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5321

●地域包括支援センター
 高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。
 札幌市白石区 第1地域包括支援センター
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-4614
 岩内町地域包括支援センター
 岩内郡岩内町字野束69-26
 ☎0135-61-4567
 札幌市白石区 第3地域包括支援センター
 札幌市白石区本郷通9丁目南3-6
 ☎011-860-1611

●在宅介護支援センター
 家庭で介護を必要とされるお年寄りなどやそのご家族の方に対し、在宅介護に関する総合的なご相談に応じます。
 宮城県気仙沼市 在宅介護支援センターおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272

●介護予防センター
 高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。
 札幌市中央区 介護予防センター円山
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-633-6056
 札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-633-6055
 札幌市白石区 介護予防センター白石中央
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-5535
 札幌市南区 介護予防センター定山溪
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-598-3311
 札幌市手稲区 介護予防センターまえだ
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3141

●通所介護(デイサービス)
 要支援1・2、要介護1～5と認定された40歳以上の方を対象に、食事や入浴、機能訓練や趣味活動などのサービスを提供します。

あおばデイサービスセンター
 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
 ☎011-893-5000
 豊平溪仁会デイサービス
 札幌市豊平区美園9条5丁目4-21
 ☎011-831-5000
 円山溪仁会デイサービス
 札幌市中央区北1条西19丁目1-2
 ☎011-632-5500
 手稲溪仁会デイサービスつむぎ
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-2568
 西円山敬樹園デイサービスセンター
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-640-5522
 デイサービスセンター白石の郷
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16
 ☎011-864-3100
 新琴似溪仁会デイサービス
 札幌市北区新琴似12条7丁目1-45
 ☎011-763-5500
 デイサービスセンターすまいる
 美唄市東4条南5丁目1-4
 ☎0126-66-2525
 デイサービスセンターおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272
 月寒あさがおの郷デイサービスセンター
 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35
 ☎011-858-3333
 デイサービスセンターま〜れ
 岩内郡岩内町字万代45-10
 ☎0135-67-7511
 ●小規模多機能型居宅介護
 小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110
 ●認知症対応型通所介護(デイサービス)
 手稲溪仁会デイサービス織彩(しきさい)
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-3328
 共用型デイサービス菊水こまちの郷
 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64
 ☎011-811-8110

●指定居宅介護支援事業所
 介護支援専門員(ケアマネジャー)が、介護保険サービス利用の申請手続きや、ケアプランの作成など介護保険に関するさまざまな相談に応じています。
 溪仁会在宅ケアセンターつむぎ
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7
 ☎011-685-2322
 札幌西円山病院在宅ケアセンター
 札幌市中央区円山西町4丁目7-25
 ☎011-642-5000
 定山溪病院在宅ケアセンター
 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71
 ☎011-598-5500
 居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-2252
 居宅介護支援事業所 西円山敬樹園
 札幌市中央区円山西町4丁目3-20
 ☎011-644-7650
 指定居宅介護支援事業所あおば
 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
 ☎011-893-8761
 居宅介護支援事業所すまいる
 美唄市東4条南5丁目1-4
 ☎0126-66-2525
 居宅介護支援事業所やくも
 北海道八雲町栄町13-1
 ☎0137-65-2121
 おおしまハーティケアセンター
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272
 指定居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ
 札幌市西区八軒1条西1丁目2-10
 ☎011-632-0605
 ケアプランセンターさつき
 岩内郡岩内町字万代45-10
 ☎0135-67-7801
 ケアプランセンターこころ まるやま
 札幌市中央区北1条西19丁目1-2
 ☎011-640-6622

●札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居等支援事業所
 障がいがあっても、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、さまざまな相談に応じています。
 相談室こころ ていね
 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル1F
 ☎011-685-2861

●訪問看護ステーション
 看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。
 はまなす訪問看護ステーション
 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
 ☎011-684-0118
 訪問看護ステーションあおば
 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27
 ☎011-893-5500
 訪問看護ステーションおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272
 訪問看護ステーション岩内
 岩内郡岩内町字野束69-26
 ☎0135-62-5030

●訪問介護(ホームヘルパーステーション)
 ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。
 西円山敬樹園ホームヘルパーステーション
 札幌市中央区円山西町4丁目3-21
 ☎011-644-6110
 コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション
 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35
 ☎011-864-2008
 ホームヘルパーステーションすまいる
 美唄市東4条南5丁目1-4
 ☎0126-66-2525
 ホームヘルパーステーションおおしま
 宮城県気仙沼市廻館55-2
 ☎0226-26-2272
 ケアセンターこころ
 札幌市西区八軒1条西1丁目2-10
 ☎011-632-0605
 コミュニティホーム八雲ホームヘルパーステーション
 北海道八雲町栄町13-1
 ☎0137-65-2122
 ケアセンターこころ ようてい
 虻田郡喜茂別町字伏見272-1
 ☎0136-33-2112
 ソーシャルヘルパーサービス白石
 札幌市白石区菊水8条2丁目2-6
 ☎011-817-7270
 ソーシャルヘルパーサービス中央
 札幌市中央区北7条西17丁目11
 ☎011-633-1771
 ソーシャルヘルパーサービス西
 札幌市西区発寒8条10丁目4-20
 ☎011-669-3530

福祉用具のレンタル・販売から、車いすのオーダーメイド製作・出張修理、住宅改修事業まで自宅での生活の安心を支えます。
 株式会社 ハーティワークス
 札幌市白石区流通センター1丁目7-54 北新ビル1F
 ☎011-863-8010

公立診療所の指定管理者として地域の医療を支えます。
 泊村立茅沼診療所
 古宇郡泊村大字茅沼村711-3
 ☎0135-75-3651
 喜茂別町立クリニック
 虻田郡喜茂別町字喜茂別13-3
 ☎0136-33-2225

身体障がいを抱えた方の在宅療養を包括的に支援します。
 医療法人稻生会
 ■生涯医療クリニックさっぽろ ■訪問看護ステーションくまさんの手 ■居宅介護事業所くまさんの手 ■短期入所事業所どんぐりの森
 ☎011-685-2799 ☎011-685-2791 ☎011-685-2791 ☎011-685-2791
 札幌市手稲区前田1条12丁目357-22

医療法人溪仁会 法人本部
 〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F／☎ 011-699-7500(代表)
 社会福祉法人溪仁会 法人本部
 〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F／☎ 011-640-6767

「ずーっと。」

人と社会を支える



私たち溪仁会グループは、
 社会的責任（CSR）経営を推進します。
 高い志と卓越した医療・保健・福祉サービスにより、
 「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
 「地域社会の継続的な安心」を支えます。

ik 溪仁会グループ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 溪仁会ビル3F
 TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

[溪仁会グループホームページ](#)

溪仁会グループ

検索

<http://www.keijinkai.com>